

令和5年度

事業報告書



公益社団法人高知県看護協会

目 次

I. 継続教育研修

1. 継続教育研修
 - 1) 継続教育研修 1
 - 2) 急変時対応に自信を持つ 5
 - 3) 看護師基礎教育を考える会 6
2. 看護管理者支援研修
 - 1) 看護管理者入門ビギナーコース 8
 - 2) ミドルマネジャーコース 11
3. 臨床看護研究基礎研修 15
4. 高齢者の終末期看護 17

II. 認定看護管理者教育課程

1. 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 19

III. 職能委員会主催研修

1. 保健師能委員会 23
2. 助産師職能委員会 25
3. 看護師職能委員会 30
4. 保健師・助産師・看護師合同研修 35
5. 3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会 38

IV. 委員会主催研修

1. 看護制度委員会 40
2. 医療安全委員会 44
3. 災害看護委員会 50

V. 看護研究学会

1. 看護研究学会 52
2. 地区支部看護研究発表会 56

VI. 受託事業

1. 看護職員等研修事業
 - 1) 保健師助産師看護師実習指導者講習会 58
 - 2) 多施設合同研修 62
 - 3) 新人助産師合同研修 66
 - 4) 感染管理担当者研修（領域Ⅰ：病院・診療所対象/領域Ⅱ：介護・福祉施設・在宅等対象） 70

5) 看護教員養成講習会準備	75
2. 訪問看護師研修事業	76
3. 看護職員認知症対応力向上研修	80
4. 医療的ケア児等養成研修	83
5. 就労環境改善のための体制整備事業	94
6. 新型コロナウイルス感染症等対応人材育成研修	100
7. 看護職員確保対策事業	
1) ナースセンター事業・ナースセンター強化事業	102
8. 小児救急電話相談事業	108

VII. 配信研修

1. 看護補助者活用推進のための看護管理者研修	111
2. 災害支援ナース（災害・新興感染症対応）養成研修	112
3. JNA 収録 DVD 研修 日本看護協会主催：認知症高齢者の看護実践に必要な知識	114
4. 日本看護協会主催：医療安全管理者養成研修	115
5. 外来における在宅療養支援能力向上のための研修	116

VIII. こうち看護協会訪問看護ステーション事業

1. こうち訪問看護ステーション

IX. 日本看護協会委託事業

1. 看護補助者キャンペーンウィーク事業	124
2. 新型コロナなど新興感染症等に係る看護職員等の確保事業	125
3. 自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント	127

1. 継続教育研修

研修名	継続教育研修	
開催日時	プログラム参照	
受講者数	267名（会員217名81.2%、非会員50名18.7%） （内訳 保健師0名、助産師4名、看護師243名、准看護師19名、介護士1名）	
研修形態	集合	
教育目的	1) 看護専門職として高い倫理観に基づき、看護実践能力の向上をはかる。 2) 看護専門職としてのキャリア発達を促進し、変化する社会や地域のニーズに対応できる能力を養う。 3) 他職種と連携・協働し看護職の役割を発展させる能力を養う。	
講師・内容	プログラム参照	講義・演習

1. プログラム

4つの力	日程	テーマ	研修形態	定員	ラダーレベル	ねらい	内容	講師
ニーズをとらえる力	6/20(火) 10:00~16:00	看護に活かす臨床推論 ～見逃してはならないその兆候～	集合	50	II～III	臨床推論を学び、臨床現場に活かすことができる	臨床推論とは/臨床推論の基礎/予防できる急変/危険を察知するための症状の理解と必要な看護	高知医療センター 救急看護認定看護師 大麻 康之
	7/4(火) 9:30~12:30	せん妄の理解と看護	集合	60	II～III	せん妄の病態を理解し、予防・ケアに役立てる	せん妄とは/せん妄のアセスメント/せん妄の治療/せん妄の予防・ケア(事例を使って)	高知大学医学部附属病院 精神看護専門看護師 小笠原 麻紀
ケアする力	8/2(水) 10:00~16:00	「褥瘡ケアに強いナースになろう」 基礎編	集合	60	II	褥瘡予防の重要性や、褥瘡ケアを実践する上で必要な基礎知識・技術を学ぶ	褥瘡発生の予測/スキン・ケア/褥瘡経過評価(DSIGN-R)/褥瘡発生後のケア/栄養管理/事例	社会医療法人近森会近森病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 安松和美
協働する力	11/8(水) 10:00~16:00	スタッフの育成を支援するコーチング	集合	50	II～III	目標達成のため、相手の強みや持ち味を引き出すコミュニケーションスキルを学ぶ	若者の特徴、承認/ほめる/叱る理論と演習	有)AEMエディカル 代表 野津 浩嗣
	8/29(火) 10:00~16:00	医療現場に活かすプレゼンテーション ～相手に伝えるセンスを磨く～	集合	50	II～III	相手に効果的に伝える技法を学ぶ 臨床現場・他職種連携・地域連携に活かす	プレゼンテーションの基本構成/テーマ/自分の考えを伝える/まとめ/資料の作り方	高知県立大学看護学部 助教 池内 香
	11/15(水) 13:30~16:30	おとなの発達障害～職場での具体的な 対応方法を学ぶ～	集合	50	II～III	大人の発達障害について理解を深め、職場での支援方法を学ぶ	大人の発達障害とは/発達障害の特性/発達障害の理解と対応/職場での支援	放送大学高知学習センター 客員准教授 岡本 真知子
	12/9(土) 10:00~16:00	社会人基礎力の育て方・かわり方 ～指導者・リーダークラスの看護師に求められる社会人基礎力を高めよう～	集合	50	II	社会人基礎力育成のために自身及び個人の強みや特性を伸ばすことを学び、指導、リーダーシップの発揮に繋げることができる	・社会人基礎力に関する基礎的知識を習得し、必要性・重要性を理解する ・自己の社会人基礎力向上と自身の教育スキルへの活用を習得する	近森病院附属看護学校 副学校長 平瀬 節子
意思決定を支える力	7/18(火) 9:30~12:30	事例を通して考える看護倫理～倫理的 課題にどう取り組むか～	集合	50	II～III	臨床現場で直面する倫理的諸問題について考えと共に、倫理的ジレンマへの対応を学ぶ	看護倫理とは何か/看護者として患者の尊厳を守るための意識・態度とは/臨床現場で直面する倫理的諸問題/看護倫理場面の事例検討	高知県立大学看護学部 特任助教 三浦 由紀子
その他	10/11(水) 13:30~16:30	仕業から学ぶ、ストレスとの付き合い方 ～心・体・疲れはとれていきますか～	集合	50		心の整理の仕方を学び、ストレス緩和や自己コントロールの力を持つことができる。	瞑想・呼吸法からストレス解消法を学ぶ 心の癒え方、自己コントロール方法について理解する。 説法を通して感謝の気持ちを再認識する。	定福寺 住職 釣井 龍秀
	10/12(木) 13:30~16:30	看護職のための情報リテラシー ～情報化社会のシステムを知り、上手に 活用するために～	集合	50	II	医療・看護に関わる情報管理を学び、メディアのメリット/リスクを理解し活用できる。	・情報とは、メディアの種類、情報の特性、情報管理における倫理を理解し活用方法を学ぶ ・ネットワーク上の脅威(クーチューブ・SNSを含)、セキュリティ対策について理解できる。	高知大学教育研究部 医療学系連携医学部門 准教授 宮野 伊知郎

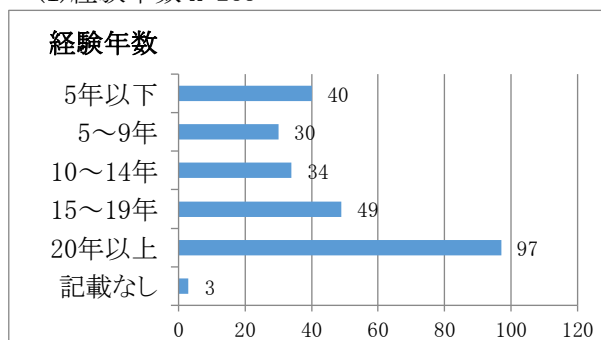
2. アンケート結果

※アンケートは Google ドライブを使用したオンライン上の質問と回答

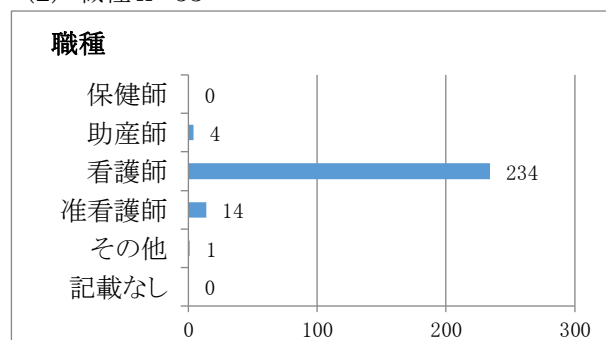
1)10 研修まとめ

参加者数 267 名 回答数 253 回答率 94.7%

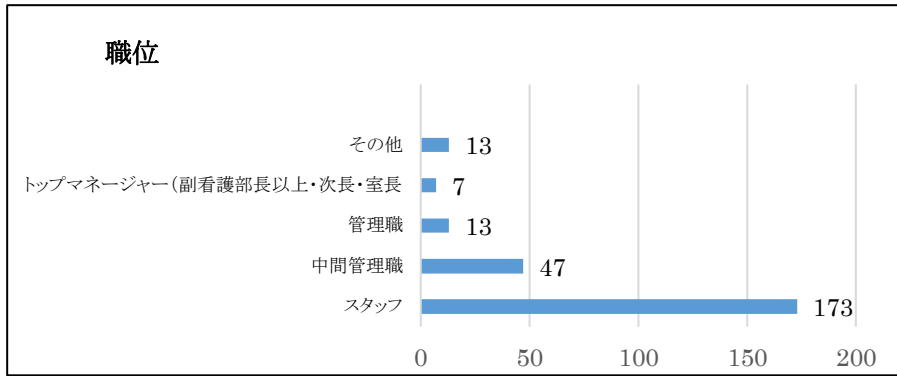
(1)経験年数 n=253



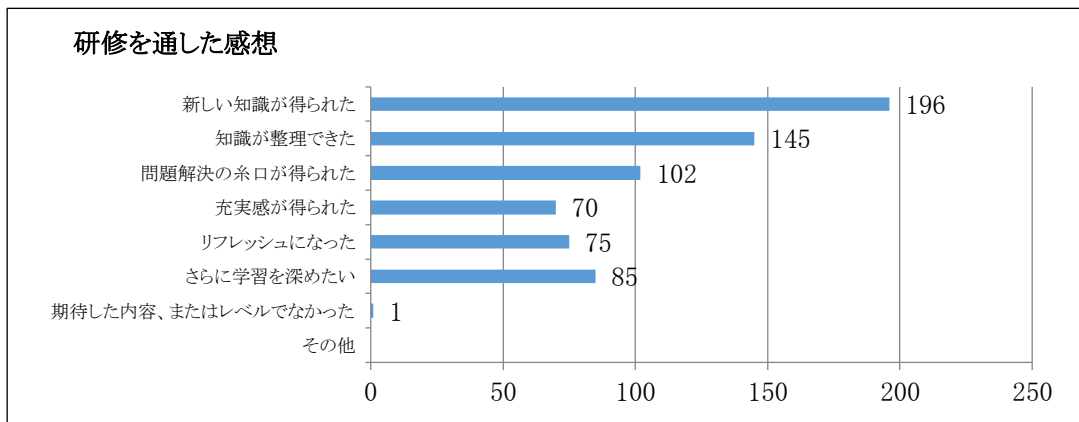
(2) 職種 n=53



(3)職位 n=253



(4)研修の感想(複数回答) n=253



(5)内容評価(10 研修平均) 令和4年度との比較

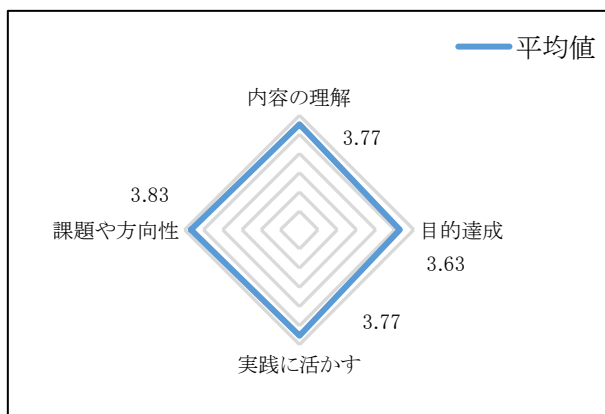
指標 4段階(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:余りそう思わない 1:全くそう思わない)

	令和4年度 n=190 平均値	令和5年度 n=253 平均値
内容の理解	3.59	3.66
目的達成	3.52	3.58
今後に活用	3.51	3.58
課題解決の方向性	3.56	3.66

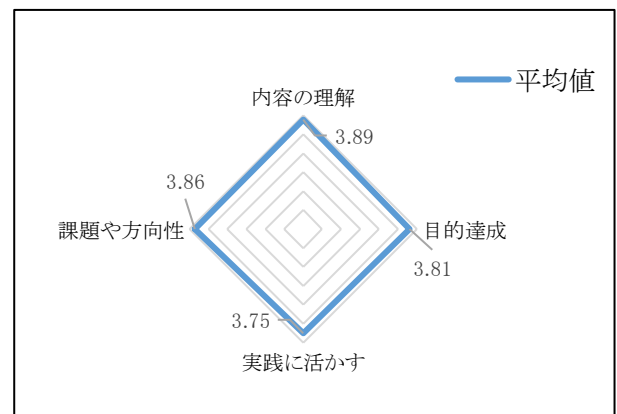
2)研修別内容評価

指標 4段階(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:余りそう思わない 1:全くそう思わない)

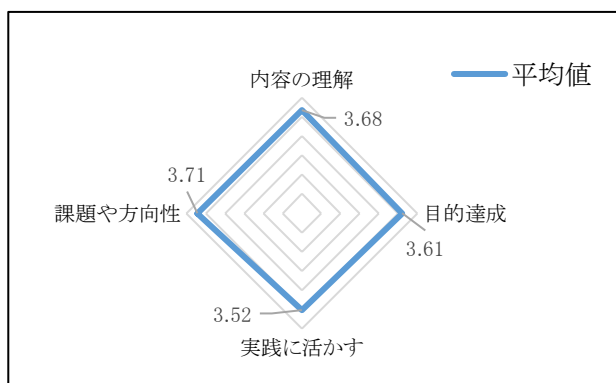
(1)看護に活かす臨床推論 n=30



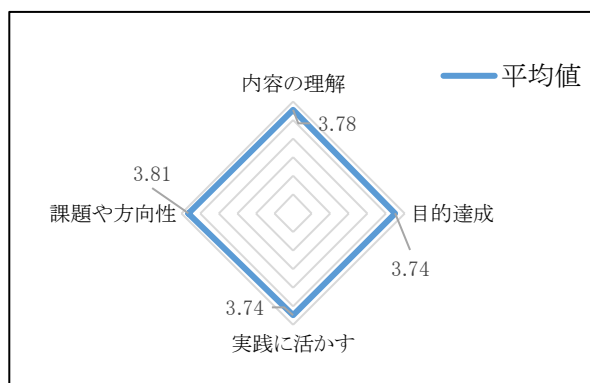
(2)せん妄と理解と看護 n=36



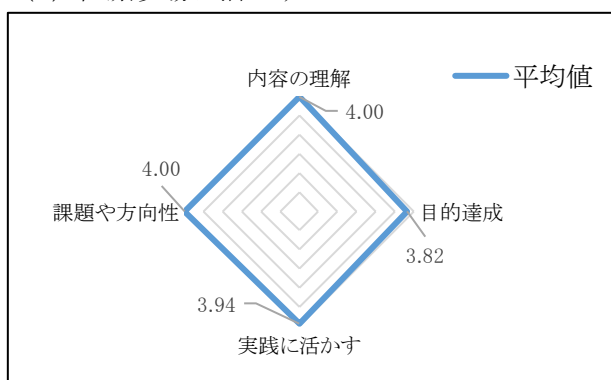
(3) 褥瘡に強い看護師になろう n=28



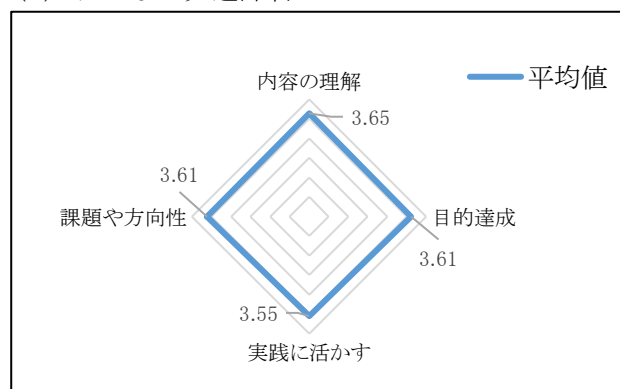
(4) スタッフを支援するコーチング n=32



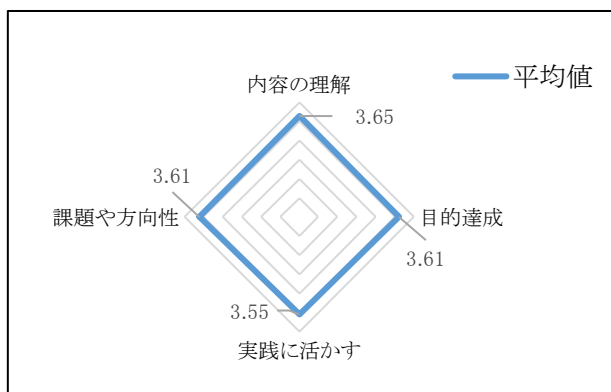
(5) 医療現場に活かすプレゼンテーション n=17



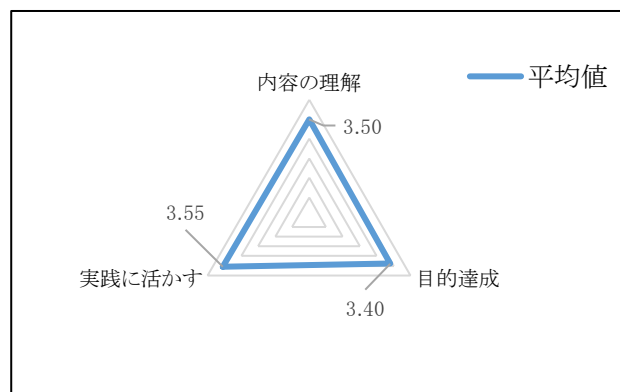
(6) おとなの発達障害 n=31



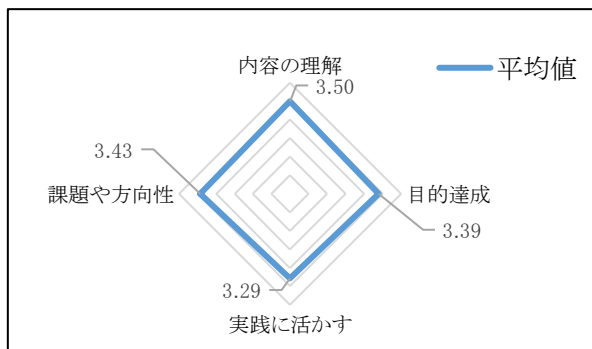
(7) 社会人基礎力の育て方・かかわり方 n=14



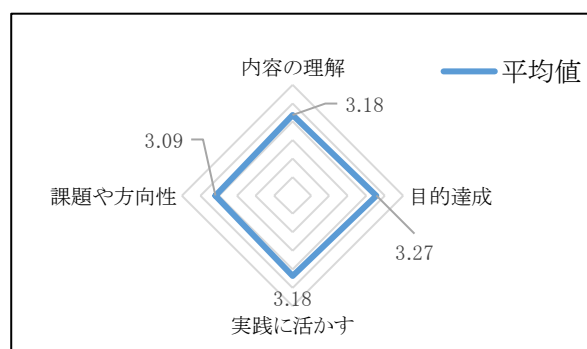
(8) 事例を通して考える看護倫理 n=20



(9) 住職から学ぶストレスとの付き合い方 n=28



(10) 看護職の為の情報リテラシー n=11



3)研修担当者コメント

「JNA ラダーを構成する4つの力」に沿って計 10 研修を企画した。本年度は講師と受講者また受講者同士

のリアルタイムでのコミュニケーション(質問や意見交換)を図り、研修効果を高めることを目的とし、全研修を集合研修での開催とした。研修内容の 4 段階評価では研修毎に差はあるが昨年より評価は高く、集合開催は効果があったと考えられる。しかし、受講者数は延べ数 287 名で定員に対し 55.1%であった。定員数の満たない研修が多いのが課題である。

今後はさらに現場のニーズに沿った研修を企画していく。

研修名	2)急変時対応に自信を持とう！
開催日時	令和5年11月30日(木)～12月2日(土)の3日間
受講者数	72名(会員49名、非会員23名) 看護師64名 准看護師8名
目的	・エビデンスに基づいた救命技術が習得できる ・チーム行動の重要性を学び、実践に自身が持てる
その他	開催日時、受講者数、講師、内容については、下記1. 研修プログラム参照

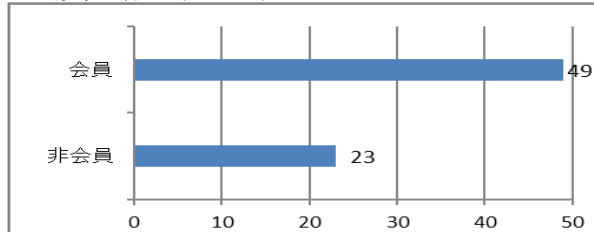
1.研修プログラム

日時	内容	方法	定員	受講者数	講師
11/30(木) 10:00～16:00	・急変時対応に必要なフィジカルアセスメント	講義 演習	各40名	17名	高知赤十字病院 救急看護認定看護師 寺尾 浩 アシスタント 延べ21名
12/1(金) 10:00～16:00	・BLSに習熟する ・AEDを安全に操作 ・期間挿管の準備・介助・確認方法			29名	
12/2(土) 10:00～16:00	・心電図モニターの波形の評価 ・シナリオによる演習			26名	

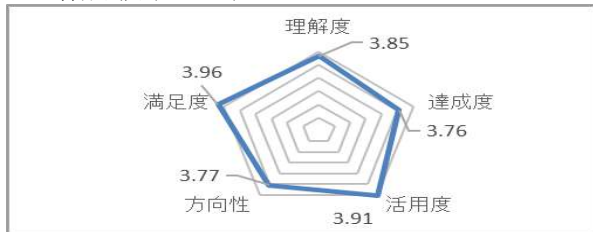
2. アンケート結果

出席者:72名 アンケート回収:71名 アンケート回収率:98.6%

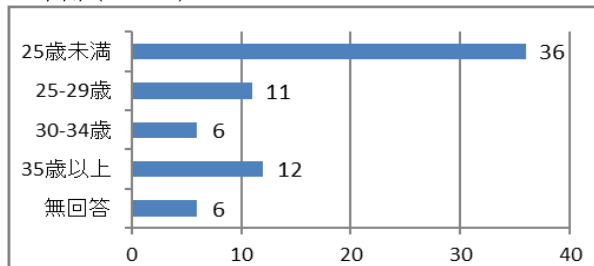
会員の有無 (n=72)



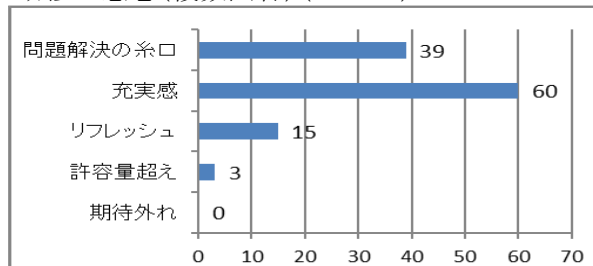
4段階評価 (n=71)



年齢 (n=71)



研修の感想(複数回答) (n=117)



【感想・ご意見】(一部抜粋)

- ・理解を伴う説明をされていて覚えやすかった。
- ・充実し有意義な時間を過ごせた。病棟に持ち帰り、スタッフ間で共有していきたい。
- ・急変になる前の状況、急変時の対応がすごくわかりやすく、病院へ帰っても対応ができそう。
- ・今まで来た研修の中で一番勉強になった。血圧の値だけで判断するのではなく、意識ABCも踏まえて判断することの重要性を学んだ。実技も実際に自分たちで触れて学ぶことができ、すごく勉強になった。
- ・自信のなかった急変時対応に少し自信がついた。
- ・急変時の一連について学ぶことができ、次からは一つ成長して対応ができそう。
- ・医療にかかわっている者として人を救える場に居合わせる事は必ずあるので、日々の業務から意識ABCを意識していきたい。

3. 担当者コメント

本研修は、コロナ禍で新人研修の「救急対応」で演習ができなかった臨床経験3～5年程度の看護職を基本とし、上記目的で開催した。

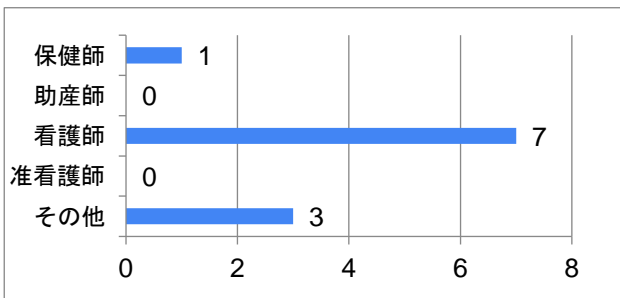
感想として、「急変になる前の状況、急変時の対応が分かりやすかった」「自信のなかった急変時対応に少し自信がついた」などの記載があった。4段階評価の全項目でも評価は高く、本研修の開催目的は達成できたと考える。アンケート結果は、次年度以降の多施設合同研修「救急対応」の企画の参考にしたい。

事業名 看護教育

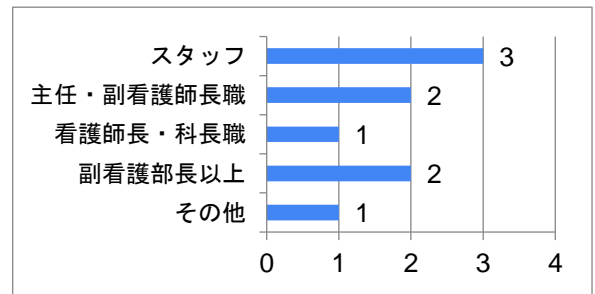
研修名	看護師基礎教育を考える会	
開催日時	令和 5 年 12 月 9 日 (土曜日)	時間 13 : 30 ~ 16 : 00
受講者数	15 名 (会員 12 名 ・非会員 3 名)	定員 30 名
ねらい	看護基礎教育の現状と課題、そして、課題への対応について、様々な立場で考え、現状の情報を共有し、看護師に求められる役割や学ぶべき知識・技術・社会人力の修得について検討する。	
講師	講演：日本看護協会常務理事 田母神 裕美氏 シンポジスト：高知大学医学部看護学科 山脇 京子 龍馬看護ふくし専門学校 石元 美佐 近森病院：森本 志保 高知県医療政策課：久保田 富女	
内容 (キーワード)	看護基礎教育	講義 演習

1. アンケート結果 回答数 9 名 回収率 60 %

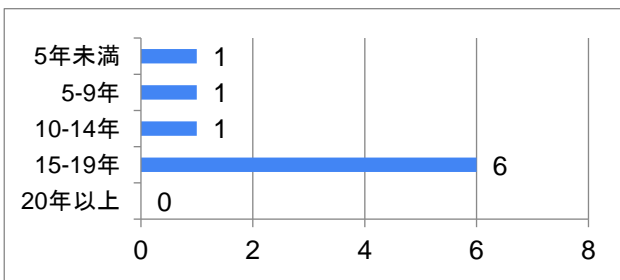
I-1. 職名



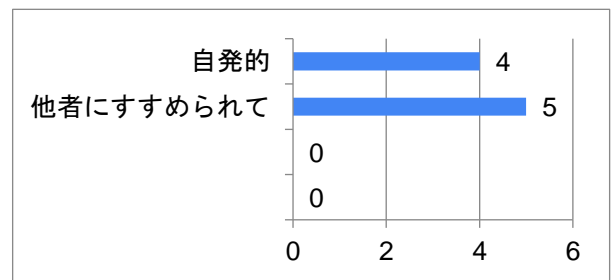
I-2. 職位



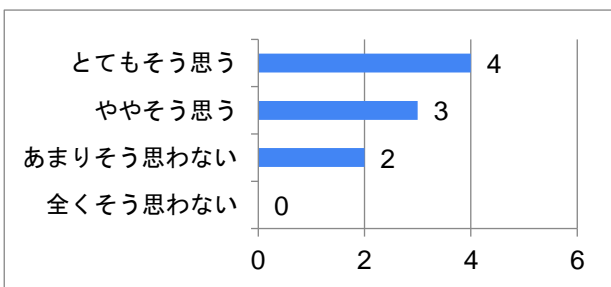
I-3. 経験年数



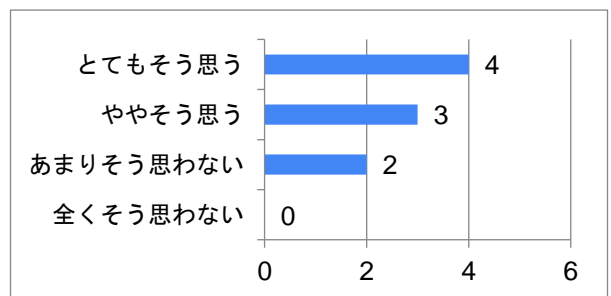
I-4 参加について



II-1. 研修内容の理解度



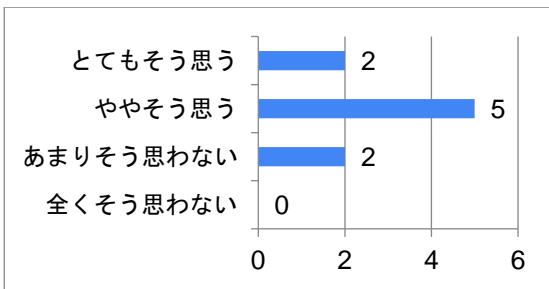
II-2.参加目的の達成度



左余白 20mm

右余白 20mm

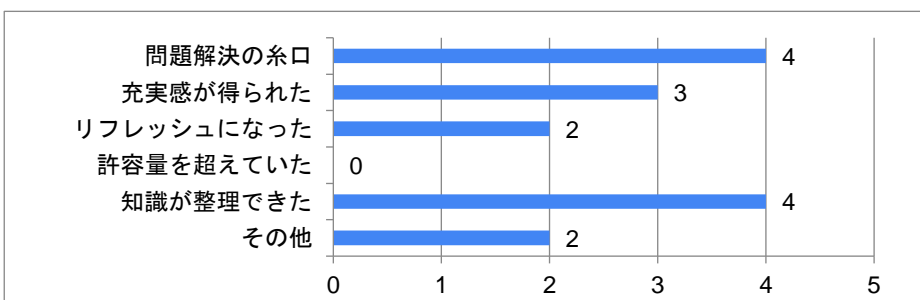
II-3. 課題、方向性の明確化ができたか



あまりそう思わない理由

1. いろいろな情報を提供していただき、もっと質問したいことがあった。

III. 研修の講義全体を通した感想（複数回答）



2. 感想

- 1) 高知県下で、基礎教育を考える会ができたら良いですね。ありがとうございました。頑張ってください。
- 2) 教育の難しさを感じていましたので、新人看護師の置かれている現状や課題、教育の取り組みなど、違う視点からの話が聞けて良かったです。
- 3) 基礎教育は凄く重要で 4 年制への移行に早期にすることが、看護全体のレベルアップにもつながるし、地位向上にもなって来るとおもうが、現在働いているナース達は圧倒的にその教育が不十分です。その溝を埋めていくことも必要な気がします。

3. 研修担当者コメント

- 1) シンポジウムでの発表時間が想定より超過してしまい、参加者との十分なディスカッションの時間が取れなかった。
- 2) 看護師基礎教育に関わる施策および日本看護協会の方向性などについての現状や将来構想を知らなかった方が基礎教育に関心をもったり、理解する機会になった。
- 3) アンケートの回収率が 60%と低かった。会場で入力する時間を設けるなど工夫が必要であった。

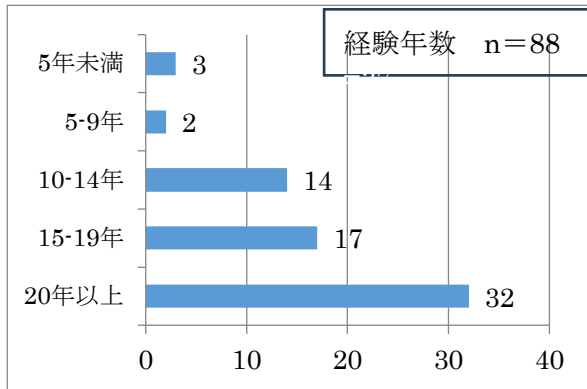
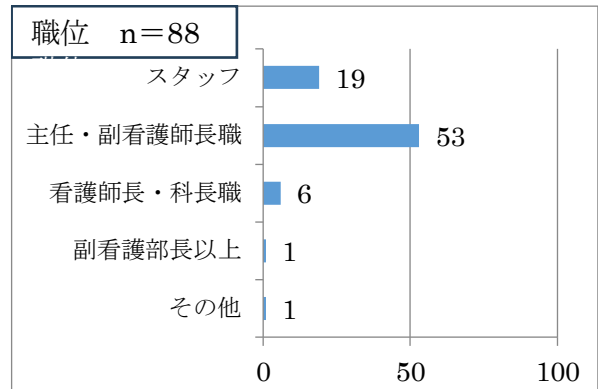
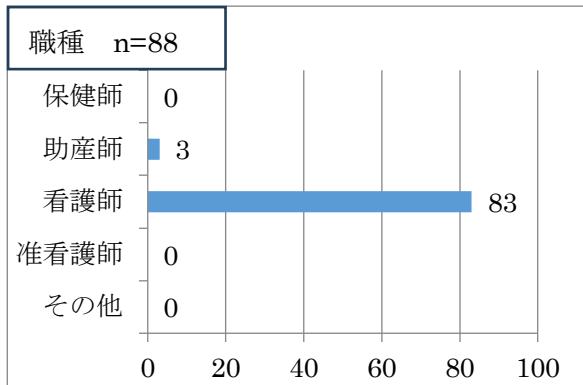
看護管理者支援研修

研修名	1) 看護管理者支援研修ビギナーコース (1) 職場の風土改善や人間関係の改善のためのアサーション (2) 現場の課題発見と業務改善～それ、本当の課題～ (3) セルフコーチング～自分で自分をコーチングし、他者と良好な関係を構築～	
開催日時	(1) 令和5年6月21日(水) 10:00～13:00 (2) 令和5年8月1日(火) 10:00～16:00 (3) 令和5年8月30日(水) 10:00～16:00	定員：各50名
受講者数	(1) 令和5年6月21日 受講者数37名 会員26名・新入会員1名・非会員10名 (2) 令和5年8月1日 受講者数26名 会員20名・非会員6名 (3) 令和5年8月30日 受講者数29名 会員22名・非会員7名	のべ受講者数 92名 会員数68名 新入会員1名 非会員：23名
目的	看護管理者は、問題解決する倫理的思考力やコミュニケーション力、他者に説明できる表現力・伝達力・交渉力などを身につけ、さまざまな課題に立ち向かうための積極的な行動力が求められる。このような能力と行動力を習得する。	
ねらい	臨床現場のリーダー、認定看護管理者教育課程（ファースト・セカンドレベル）の準備教育の位置づけとして学ぶ	
講師	(1) 株式会社 ジーシフト 彦田 美香子 (2) 高知大学医学部附属病院 教育担当師長 谷 めぐみ (3) TNサクセスコーチング(株) 代表取締役 奥山 美奈	
内容(キーワード)	(1) 職場の風土改善 人間関係・アサーションについて学ぶ (2) 業務整理をするための「課題抽出」の方法について 課題を客観視して分析した業務改善の考え方 (3) 医療者にとって本当に必要なコーチングとは何かを考える	集合

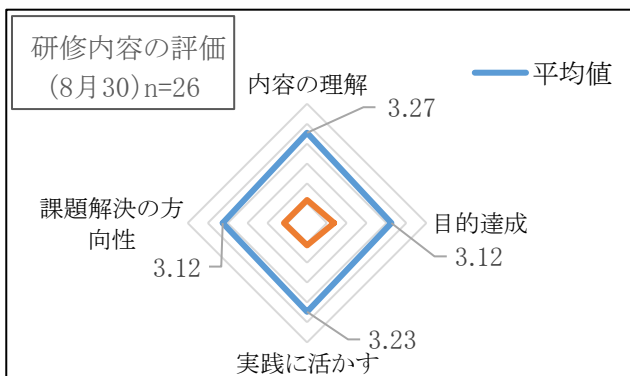
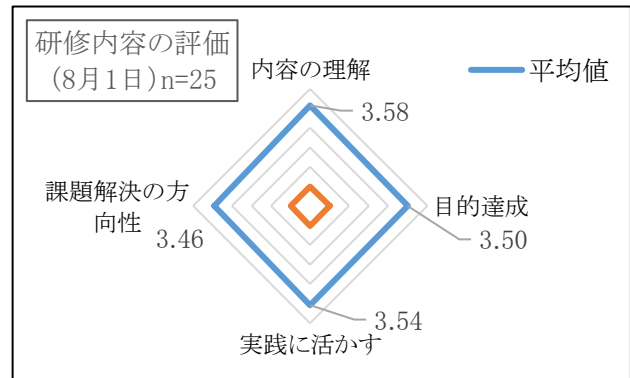
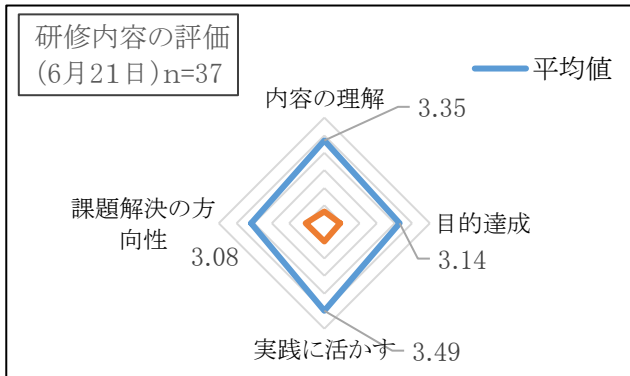
1. アンケート結果

- | | | |
|-----------------|-------------|----------|
| 1) 令和5年6月21日(水) | アンケート回答数37名 | 回収率100% |
| 2) 令和5年8月1日(火) | アンケート回収数25名 | 回収率96% |
| 3) 令和5年8月30日(水) | アンケート回収数26名 | 回収率89.6% |

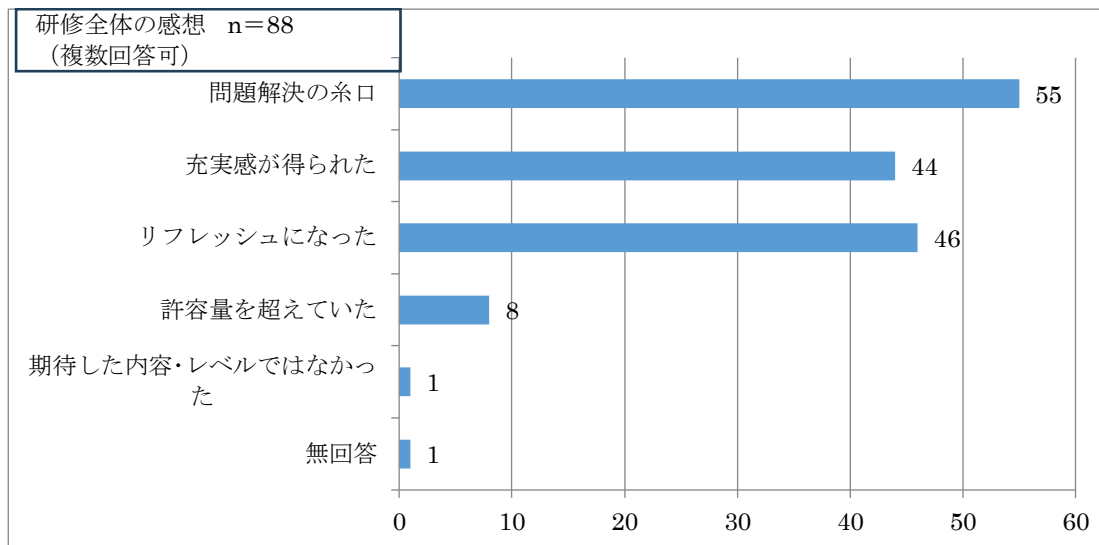
1) 受講者背景



2) 研修内容の評価の平均値と標準偏差



3) 研修全体の感想



2. 意見・感想（抜粋）

- ・自分の傾向が見え、アサーティブについて楽しく学べました。
- ・コミュニケーションは苦手であったが、グループワークを通して少し楽に感じられるようになった。
- ・ポジティブな言葉に替えて言葉と態度を発信してみようと思います。
- ・普段意識してほめることができていることに気が付いた。ほめられると自分も相手も笑顔につながったので意識してほめることをしていきたい。
- ・相手とのコミュニケーションの際はポジティブ表現に変換したい。
- ・特性要因図はむつかしかったが、充実したグループワークができ勉強になりました。
- ・例題を参考に 問題点を挙げて実践する中で 問題解決の為には 一番何が必要なのかという事が具体的に抽出されて とても勉強になりました。

3. 研修担当者コメント

どの研修も、演習中心にプログラムされていたが、非常に楽しい雰囲気、アサーションを用いたコミュニケーションを積極的に取り入れようとする姿勢が感じられた。

課題抽出や業務改善の研修では、日頃の悩んでいる問題を他施設の受講生と共有する事で、新たな視点での問題解決方法が明確となり現場に活かそうとする意欲が読み取れた。

研修での学びを、これから職場風土改善、看護管理実践に役立ててくれることと期待している。

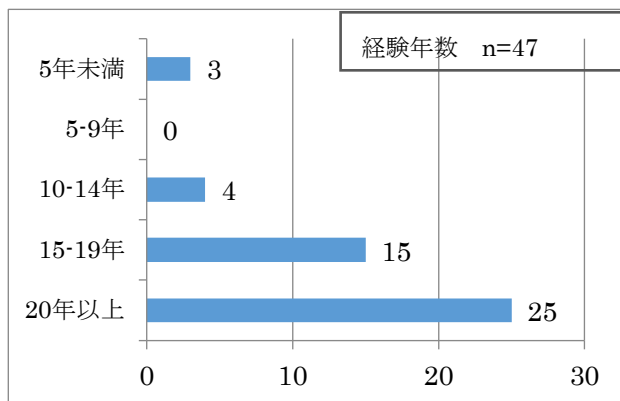
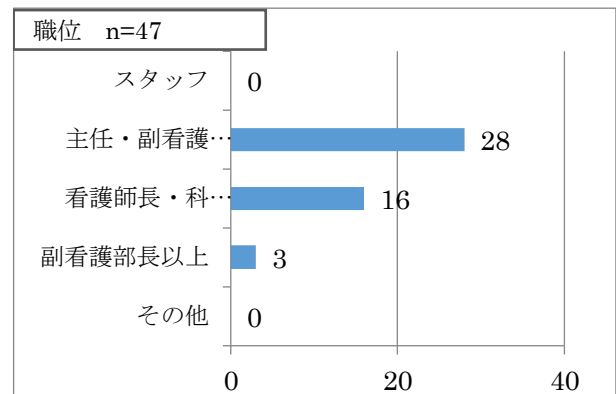
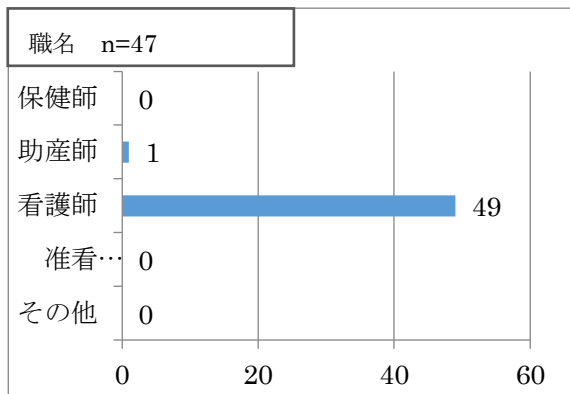
看護管理者支援研修

研修名	2) 看護管理者支援研修ミドルコース (1) 働きやすい職場作り～労務管理の基本のキ・労務トラブルのない明るい職場～ (2) 目標管理～効果的な目標設定・目標管理シートの活用～ (3) 組織管理入門～人の行動に影響を及ぼす諸概念を応用したマネジメント～	
開催日時	(1) 令和5年6月27日(火) 10:00～13:00 (2) 令和5年11月14日(火) 10:00～16:00 (3) 令和5年11月28日(火) 10:00～16:00	定員：各50名
受講者数	(1) 令和5年6月27日 受講者数21名 会員17名・新入会員1名・非会員3名 (2) 令和5年11月14日 受講者数16名 会員13名・非会員3名 (3) 令和5年11月28日 受講者数17名 会員14名・非会員3名	のべ受講者数 54名 会員数44名 新入会員1名 非会員：9名
目的	看護管理者は、問題解決する倫理的思考力やコミュニケーション力、他者に説明できる表現力・伝達力・交渉力などを身につけ、さまざまな課題に立ち向かうための積極的な行動力が求められる。このような能力と行動力を習得する。	
ねらい	看護管理者としての役割遂行に必要な情報・知識の習得と管理能力の育成	
講師	(1) 社会保険労務士 西村 静代 (2) 高知県立幡多けんみん病院 看護部長 横山 理恵 (3) 高知県立大学看護学部 准教授 内川 洋子 高知赤十字病院 看護部長 小松 ゆり	
内容	(1) 労務管理の基本を学び、労務トラブルのない職場作りに活かすことができる (2) 目標管理シートを活用した効果的な目標管理について学ぶ (3) 自部署の問題を組織管理の視点で方策を考えることが出来る	集合

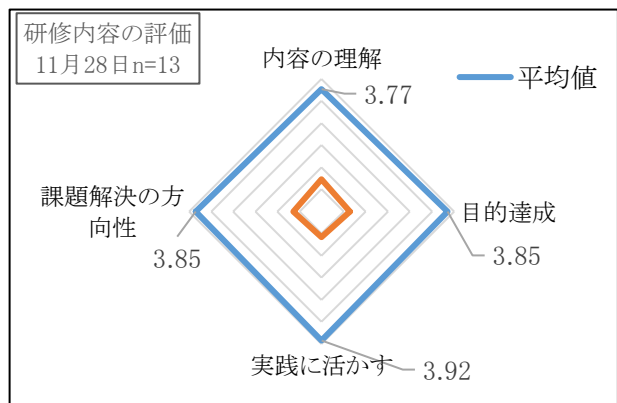
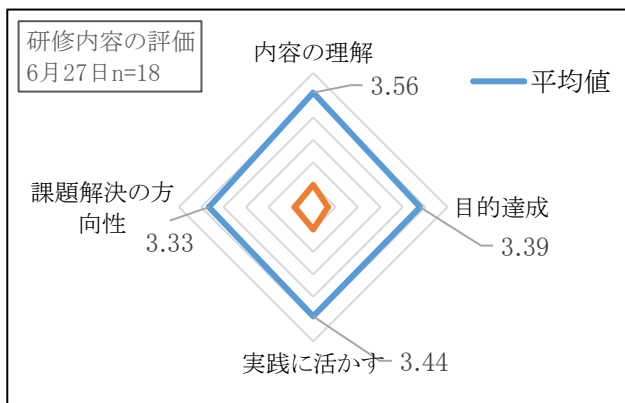
1. アンケート結果

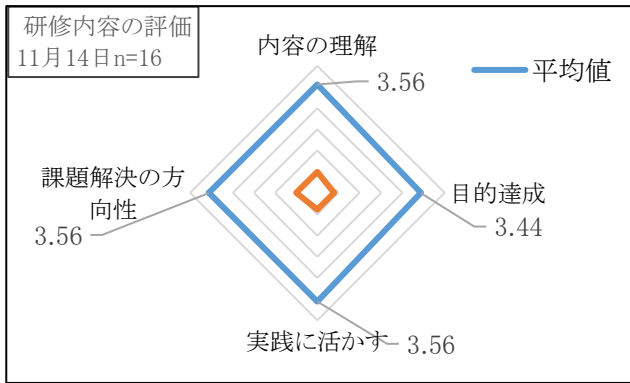
- | | | |
|------------------|-------------|----------|
| 1) 令和5年6月27日(火) | アンケート回答数18名 | 回収率85.7% |
| 2) 令和5年11月14日(火) | アンケート回収数16名 | 回収率100% |
| 3) 令和5年11月28日(火) | アンケート回収数13名 | 回収率76% |

1) 受講者背景

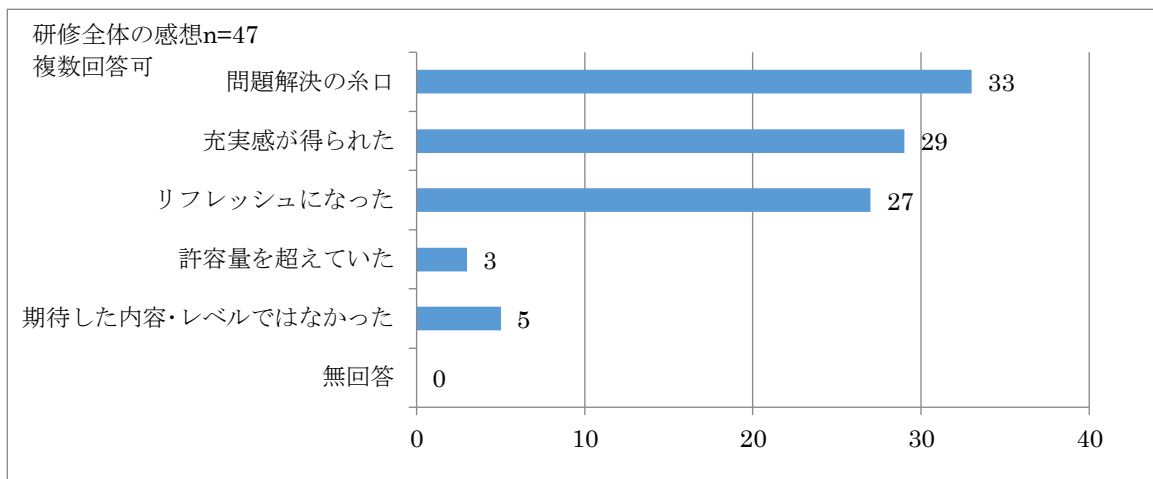


2) 研修内容の評価の平均値と標準偏差





3) 研修全体の感想



2. 意見・感想 (抜粋)

- ・管理者として、知っておかなければならない労務管理について専門家からの講義で有意義な研修であった。
- ・労働時間等でも、原則と例外があるのか、実際はどうしたら良いのか、コロナ禍では悩ましいことが多くありました。ハラスメントについては大きな案件を抱えており参考になった。
- ・他病院の方と交流ができ、悩み事も同じなんだと共有できてよかった。
- ・トップダウンになりがちのため、スタッフとのコミュニケーションを通して病棟の方針を決めていきたい
- ・グループワークでは、「効果的な目標管理を行う為には、部下との良好な関係性を構築する事が大切である」と言う事を分かり、自分の考えは間違っていなかったと感じました。これからも自分の考えに自信を持ち、部下との関係性を良くして、患者様には安全な看護を提供出来る様に努力していきたいと思います。

3. 研修担当者コメント

日頃より管理に携わる方々であり、各グループとも、積極的にディスカッションを行っており現場の課題・情報共有が行っていた。また、発表の内容から、成功や失敗のマネジメントを振り返り、成功に導くための方策を考える努力をしてみようとする意欲が感じられ、非常に有意義な研修であった。

研修内容の評価では、内容の理解 3.56～3.77 目的達成 3.44～3.85 課題や方向性 3.33～3.85 実践に活用 3.44～3.92 と高値であるにもかかわらず、定員に対する割合は、6月27日 42%、11

月 28 日 17%、11 月 14 日 16%であり、昨年同様参加者は減少傾向となった。医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、幅広い視野での看護管理が求められる。将来を担う看護管理者の人材育成に向けて魅力ある研修企画を検討する必要がある。

3. 臨床看護研究基礎研修

研修名	臨床看護研究基礎研修	
開催日時	令和5年5月15日(月)・5月18日(木)・5月23日(火) 5月30日(火) (2.5日間)	9:30~16:30 13:30~16:30
研修形態	集合	
参加者数	総数45名(4科目通して参加18名)、会員41名 非会員4名のべ:112名	定員 各50名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	(1)臨床における看護研究の意義と研究的視点を学ぶ (2)看護研究の基本的知識やプロセスを学ぶ	
講師	プログラム参照	
内容	講義・演習	

1. プログラム・科目別参加者数

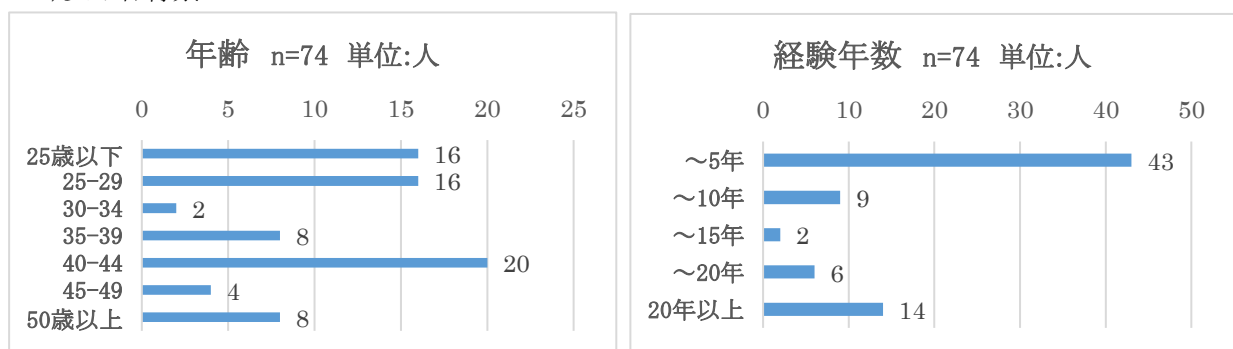
	研修名	日程	内容	講師	参加者数	
研究の実際Ⅰ	看護研究の基礎知識	5月15日(月) 9:30~16:30	6時間	看護研究とは/テーマの探索と文献検討	教授 畦地博子 先生 准教授 高谷恭子 先生	25
研究の実際Ⅱ	研究計画の進め方	5月18日(木) 13:30~16:30	3時間	目的と研究方法の設定	教授 池添志乃 先生	28
研究の実際Ⅲ	看護研究における倫理的配慮	5月23日(火) 13:30~16:30	3時間	倫理的配慮とは/看護研究における倫理指針/倫理的配慮の実際/倫理的配慮を行うために必要な書類/倫理審査委員会	教授 瓜生浩子 先生	27
研究の実際Ⅳ	看護研究論文(症例研究を含む)の書き方と発表	5月30日(火) 13:30~16:30	3時間	研究論文の種類/研究論文の構成/研究論文の作成手順/文献の活用/論文の記述/論文投稿	教授 田井雅子 先生	32

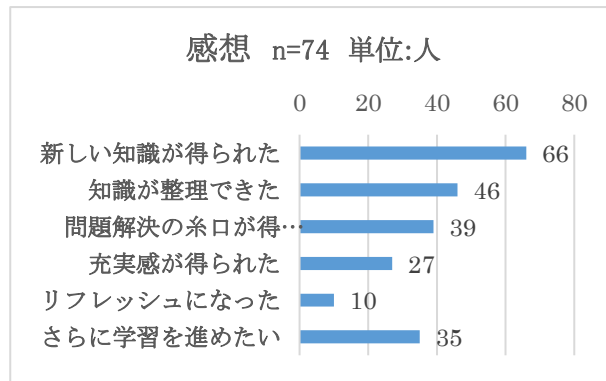
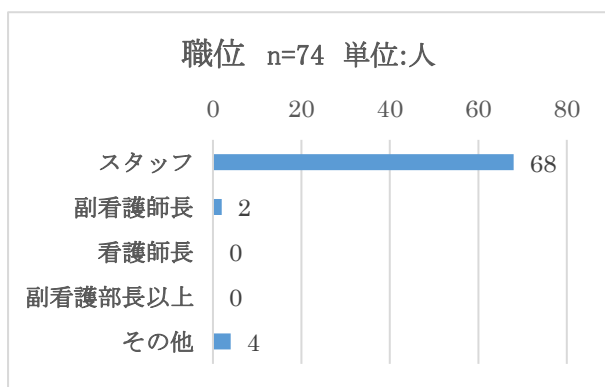
2. アンケート結果(4科目まとめ)

参加者数延べ112名 回答数延べ74 回答率66.1%

※アンケートは Google フォームを使用したオンライン上の質問と回答

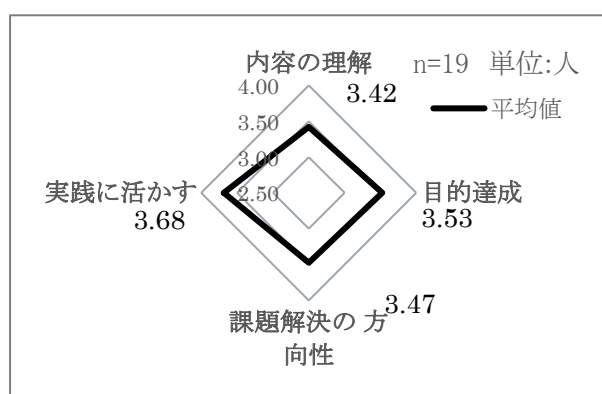
1)参加者背景



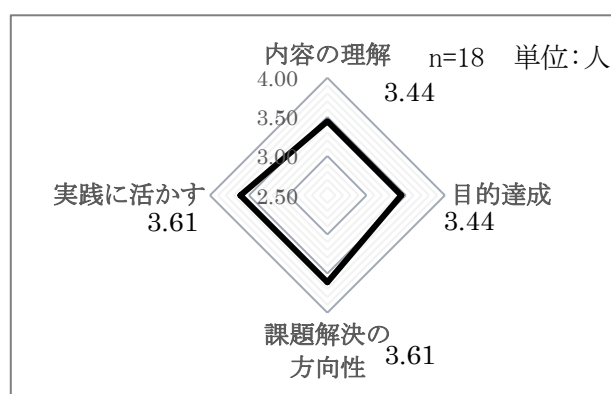


2) 科目別内容評価

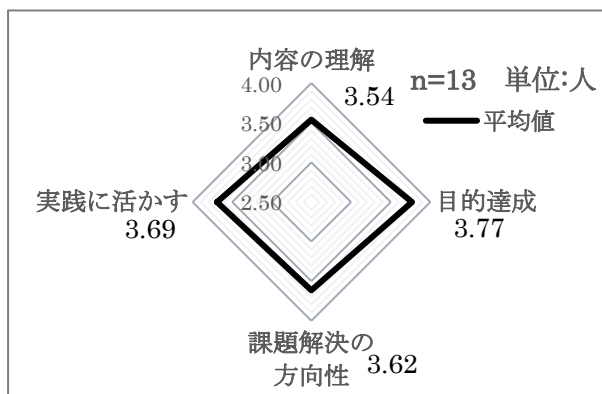
①看護研究の基礎知識



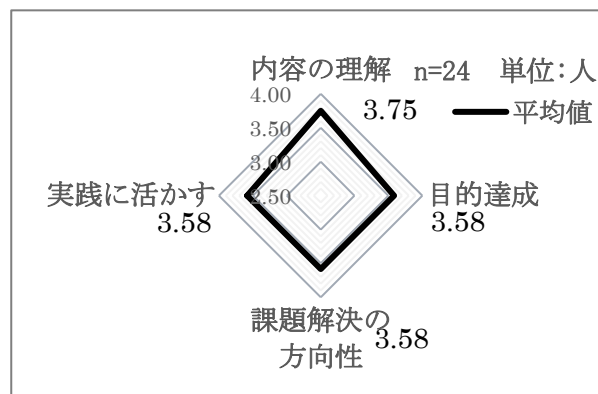
②研究計画の進め方



③看護研究における倫理的配慮



④看護研究論文の書き方



3. 研修担当者コメント

科目ごとの参加者数は 25 名～32 名で総数 45 名、4 科目を通して参加した人は 18 名(40.0%)であった。延べ参加者数は 112 名。研修形態は全科目対面で、グループワークは感染対策をしながら、短時間、少人数で行った。アンケート結果から、内容評価は 4 段階中 3.4～3.8 であり、感想では問題解決の糸口が得られたと答えた人が多かった。集合研修では受講し難い地域の看護職者への対策としてオンライン等研修方法を検討したい。また、研究学会での発表につながるよう実践報告等へ活かせる研修内容も検討したいと考える。

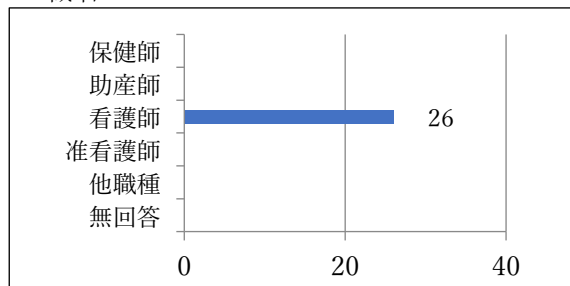
4. 高齢者の終末期看護

研修名	高齢者の終末期看護エンド・オブ・ライフケア ～ELNEC-JG 看護師教育プログラム～		
開催日時	① 1日目:10月25日(水) ② 2日目:10月26日(木)	時間	① 9:00～16:50 ② 9:00～15:45
受講者数	受講者 27名(会員24名 非会員3名)		定員 30名
ねらい	①高齢者に特化したエンド・オブ・ライフケアの知識とスキルを習得できる。 ②高齢者やその家族のニーズに対応できる。 ③地域包括ケアの中での終末期看護が提供できる。		
講師	社会医療法人近森会 統括看護部長 老人看護 CNS 岡本充子 有馬温泉病院 看護部長 老人看護 CNS 西山みどり 大阪医科薬科大学看護キャリアセンター 老人看護 CNS 原田かおる 愛媛大学医学部附属病院 老人看護 CNS 曾根司央子 JA 高知病院 認知症看護 CN 松高ゆり 芸西病院 老人看護 CNS 田村 文佳		
内容	教育プログラム1～9のモジュールを通して、エンド・オブ・ライフケア(EOL)に関する知識・技術・態度について包括的に学習し、質の高い実践ができる内容		講義・演習

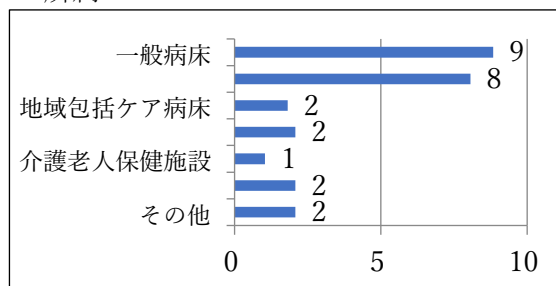
受講者: 27名 アンケート回収: 1日目 26名 アンケート回収率 96.3%
2日目 24名 回収率 88.9%

I. アンケート結果

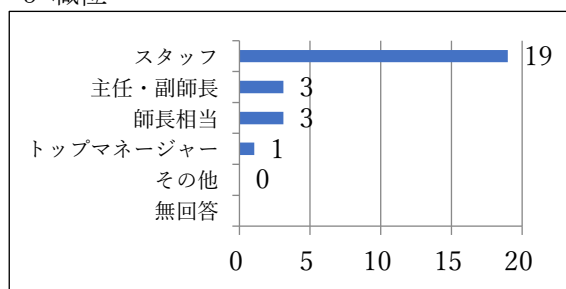
1 職名



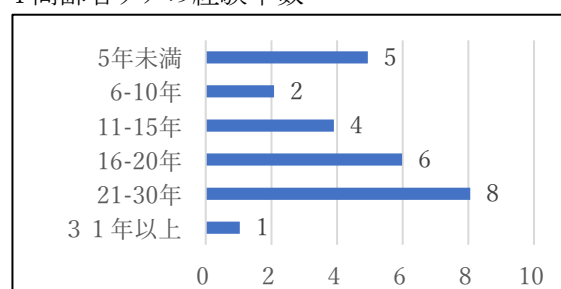
2 所属



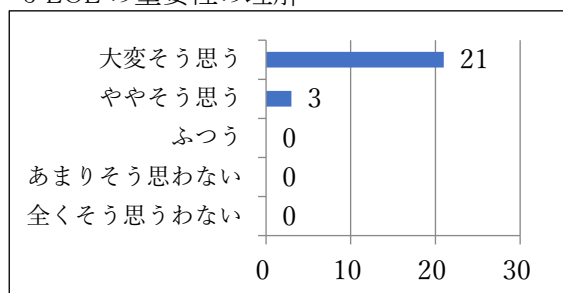
3 職位



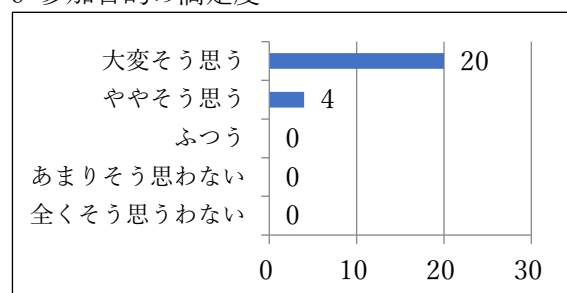
4 高齢者ケアの経験年数



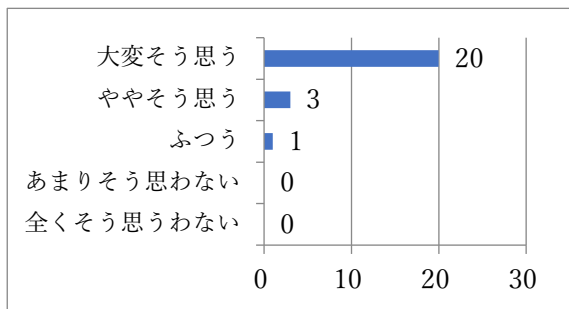
5 EOLの重要性の理解



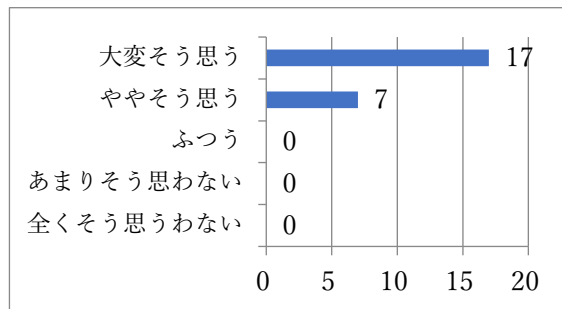
6 参加目的の満足度



7 今後の職場での活用度



8 プログラムは自施設の EOL の状況にあっているか



II. 研修全体を通じた感想

- ・ 講義の話し方がスムーズでわかりやすく話し方は大事だなと思い自分も勉強したいなと思います。講義を聞くだけでなく振り返り、頭で考え、参加したので今までの講義より身になったと思います。短時間で考えること、短時間で理解しまとめて発表することが本当に苦手だったのですが、勉強、参加して上手になりたいと思いました。高齢者とお話するときも頭で整理して何を話したいか一度まとめて目標を決めて話しかけていきたいです。
- ・ 講義後にすぐにグループワークがあり、知識が新しいうちに話せるので、進めやすかった。今まで病院勤務で疾患にフォーカスしていたが、高齢者という括りの着目がなかった。全人的に不可逆的に人間を捉えて看護していくことを再確認できた素晴らしい研修でした。知ったかぶりしていたことを恥ずかしく思います。
- ・ ロールプレイやグループワークを通して、他者の考えが参考になりました。プログラムは良く、講師の方々も理解し易く教えて下さいました。有意義な研修でした。
- ・ 今回この研修に参加して一番学びたいと思っていたのはモジュール 8 のような内容でした。実際研修を受けて、患者の気持ちをしっかり聞くことが重要だと学びました。
- ・ グループワークをたくさん出来る研修だったので、いろいろな人の思いや考えを知れて良かったし、自分自身を振り返る機会になり、良い研修であったと思います。
- ・ グループワークが多く、いろいろな知識を共有することが出来ました。とてもわかりやすかったです。
- ・ 2年毎に変わった点があれば、何に注意すればよいか知りたいと思いました。
- ・ この研修をぜひ職場の人たちにも受けていただきたいと思います
- ・ 非常に学びのある2日間でした。
- ・ 資料もわかりやすくてよかったです。
- ・ 4モジュール毎に休憩があって良かった
- ・ あっと言うまの2日間でした資料も講義もすごくわかりやすかったです。

VI. 研修担当者コメント

2 日間にわたり 1~9 のモジュールの各々で講義と演習を組み合わせた系統的に学べるプログラムとなっている。受講生は、「考える」「発言する」「傾聴する」「まとめる」などのプロセスを繰り返すことで主体的に学んでいた。講師 6 名が、講義だけでなく、グループワークやロールプレイで身近な存在としてファシリテートすることで質の高い学びが得られていたと考える。高齢者の多い本県は、入院、療養(施設・在宅)されている高齢者も多いことから、高齢者のエンド・オブ・ライフケアについて多くの看護職に学ぶ機会を得てほしいと思った。

ELNEC-J は、英語表記を加えることで分かりやすい案内になるのではと考える。

(End-of-Life Nursing Education Consortium Japan)

1. 認定看護管理者教育課程

研修名	ファーストレベル	
開催日時	令和5年5月12日(金)～9月3日(日) 18.5日間	時間9:30～16:30
受講者数	82名(科目受講者1名含む) 会員82名 非会員0	定員 80名
修了者数	78名	
研修形態	集合研修	講義・演習
教育理念	多様なヘルスケアニーズを持つ個人・家族・地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた看護管理者を育成する。	
教育目的	看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。 看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。 	
受講要件	<ol style="list-style-type: none"> 日本国の看護師免許を有する者。 看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。 管理的業務に関心がある者。 	

1. プログラム

教科目	単元	教育内容	時間数	研修日	講師
高知県看護協会科目	開会式			5月12日(金)9:00～	挨拶:高知県看護協会長 藤原房子
	高知県の看護行政	・ 高知県の医療提供体制と看護職の就業状況	1	5月12日(金)9:10～10:10	高知県健康対策部医療政策課 チーフ 久保田 富女
	認定看護管理者とは	・ 認定看護管理者教育課程のカリキュラム構成 ・ 認定看護管理者に求められるもの ・ 病院看護実態調査から見た現状と課題	1	5月12日(金)10:20～11:20	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 看護局長 田鍋 雅子
	オリエンテーション		1	5月12日(金)11:30	研修担当者
実施時間数(3)					
ヘルスケアシステム論Ⅰ	社会保障制度概論	・ 社会保障制度の体系 ・ 社会保障の関連法規	3	5月20日(土)9:30～12:30	関東学院大学看護学部 看護学部長 日本看護協会 副会長 齋藤 訓子
	保健医療福祉サービスの提供体制	・ 保健医療福祉制度の体系 地域包括ケアシステム 地域共生社会	3	5月19日(金)9:30～12:30	高知県立大学看護学部 特任教授 森下 安子
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	・ 看看連携 ・ 地域連携における看護職の役割 ・ 保健医療福祉関連職種との理解	6	5月21日(日)9:30～16:30	高知県立大学看護学部 特任教授 森下 安子
		・ 看護の社会的責務と業務基準 看護関連法規 倫理綱領 看護業務基準	3	5月20日(土)13:30～16:30	関東学院大学看護学部 看護学部長 日本看護協会 副会長 齋藤 訓子
実施時間数(15)					
組織管理論Ⅰ	組織マネジメント概論	・ 組織マネジメントに関する基礎知識 ・ 看護管理の基礎知識	9	6月3日(土)9:30～16:30 6月4日(日)9:30～12:30	認定看護管理者 森木 妙子
	看護実践における倫理	・ 看護実践における倫理的課題 ・ 倫理的意思決定への支援	6	6月2日(金)9:30～16:30	高知県立大学看護学部 特任講師 豊田 邦江
実施時間数(15)					
人材管理Ⅰ	労務管理の基礎知識	・ 労働法規 ・ 雇用形態 ・ 健康管理(メンタルヘルス含む) ・ ワークライフバランス	6	6月24日(土)9:30～16:30	明和会医療福祉センター 法人本部人事主幹 竹中 君夫
	看護チームのマネジメント	・ チームマネジメント ・ リーダーシップとメンバーシップ ・ コミュニケーション	6	6月23日(金)9:30～16:30	医療法人おくら会 芸西病院 看護部長 角谷 広子 (認定看護管理者)
		・ 准看護師への指示と業務 ・ 看護補助者の活用	6	7月7日(金)9:30～16:30	県立幡多けんみん病院 看護部長 横山 理恵

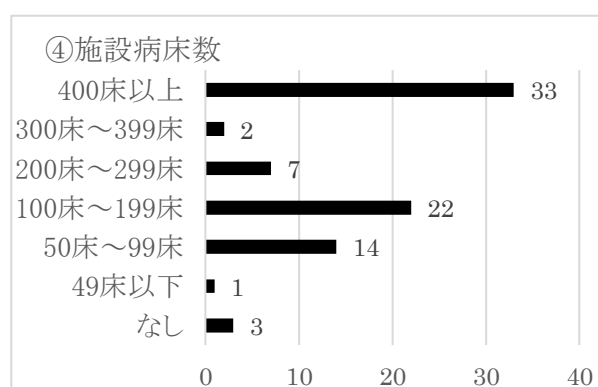
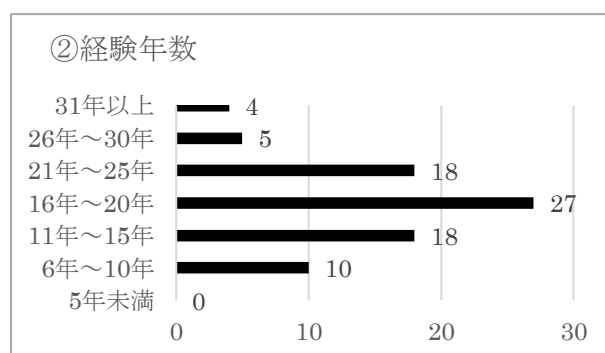
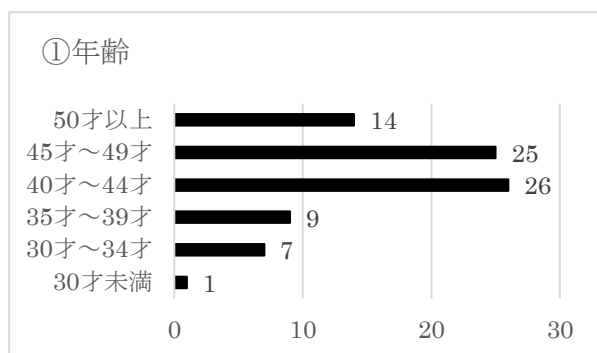
人材管理 I	看護チームのマネジメント	・ ファシリテーション (40名ずつ2回実施)	6	7月8日(土) 半数 7月9日(日) 半数 両日9:30~16:30	高知県立大学看護学部 准教授 内川 洋子	○	
	人材育成の基礎知識	・ 成人学習の原理 ・ 動機づけ理論 ・ 役割理論 ・ 人材育成の方法	6	7月22日(土) 9:30~16:30	近森病院附属看護学校 副学校長 平瀬 節子 (認定看護管理者)	○	
実施時間数(30)							
資源管理 I	経営資源と管理の基礎知識	・ 診療・介護報酬制度の理解 ・ 経営指標の理解 ・ 看護活動の経済的効果	9	8月4日(金) 9:30~16:30 8月5日(土) 9:30~12:30	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 看護局長 田鍋 雅子 (認定看護管理者)	○	
	看護実践における情報管理	・ 医療・看護情報の種類と特徴 ・ 情報管理における倫理的課題 (情報リテラシー)	6	7月15日(土) 9:30~16:30	高知大学医学部看護学科 特任教授 栗原 幸男	○	
実施時間数(15)							
質管理 I	看護サービスの質管理	・ サービスの基本概念 ・ 看護サービスの質評価と改善	9	7月21日(金) 9:30~16:30 8月5日(土) 13:30~16:30	高知大学医学部附属病院 看護部長 多田 邦子 (認定看護管理者)	○	
		・ 看護サービスの安全管理 ・ 看護サービスと記録	6	8月6日(日) 9:30~16:30	高知赤十字病院 看護部長 小松 ゆり (認定看護管理者)	○	
実施時間数(15)							
統合演習 I	演習	・ 学習内容を踏まえ、受講者が取り組む課題を明確にし、対応策を立案する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">2回に分けて実施</div>	15	1回目(半数) 8月18日(金) 9:30~16:30 8月19日(土) 9:30~16:30 8月20日(日) 9:30~12:30 2回目(半数) 9月1日(金) 9:30~16:30 9月2日(土) 9:30~16:30 9月3日(日) 9:30~12:30	講師 放送大学高知学習センター 客員准教授 岡本 眞知子 アドバイザー(8名) 細木病院 看護部長 岡崎 千佐子 高知赤十字病院 看護部長 小松 ゆり 高知医療センター 看護局次長 辻 由紀子 いずみの病院 看護部長 松岡 和江 高知県看護協会 常任理事 吉永 恵子 高知医療センター 看護局次長 野中 真澄 高知大学医学部附属病院 入退院支援センター 副センター長 弘末 正美 近森病院 副看護部長 森本 志保	○	
実施時間数(15)							
レポートの書き方		・ レポートとは ・ 構造の基本 ・ 伝える内容づくり ・ レポート作成の流れ	3	6月4日(日) 13:30~16:30	高知県立大学看護学部 講師 山中 福子	○	
実施時間数(3)							

ヘルスケアシステム論 I	15 時間
組織管理論 I	15 時間
人材管理 I	30 時間
資源管理 I	15 時間
質管理 I	15 時間
統合演習 I	15 時間
レポートの書き方	3 時間
高知県看護協会科目	3 時間
総時間	111 時間

2. 受講者属性(科目受講者含82名)

職種：保健師・看護師 2名、助産師・看護師 2名、看護師 78名

所属施設：病院79名 訪問看護ステーション3名



3. アンケート結果

1) 科目別内容評価(4段階)

	ヘルスケアシステム論 I		組織管理論 I		人材管理 I	
	回収率	96.0%	回収率	93.8%	回収率	92.7%
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
内容の理解	3.56	0.50	3.62	0.49	3.69	0.48
目的達成	3.45	0.53	3.61	0.49	3.67	0.48
今後に活用	3.65	0.50	3.73	0.46	3.75	0.45
課題解決の方向性	3.36	0.53	3.58	0.49	3.65	0.50
	資源管理 I		質管理 I		統合演習 I	
	回収率	95.0%	回収率	97.0%	回収率	97.6%
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
内容の理解	3.25	0.68	3.69	0.47	3.85	0.36
目的達成	3.25	0.67	3.67	0.48	3.80	0.40
今後に活用	3.35	0.69	3.71	0.45	3.85	0.36
課題解決の方向性	3.23	0.69	3.70	0.46	3.77	0.42

指標(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:あまりそう思わない 1:全然そう思わない)

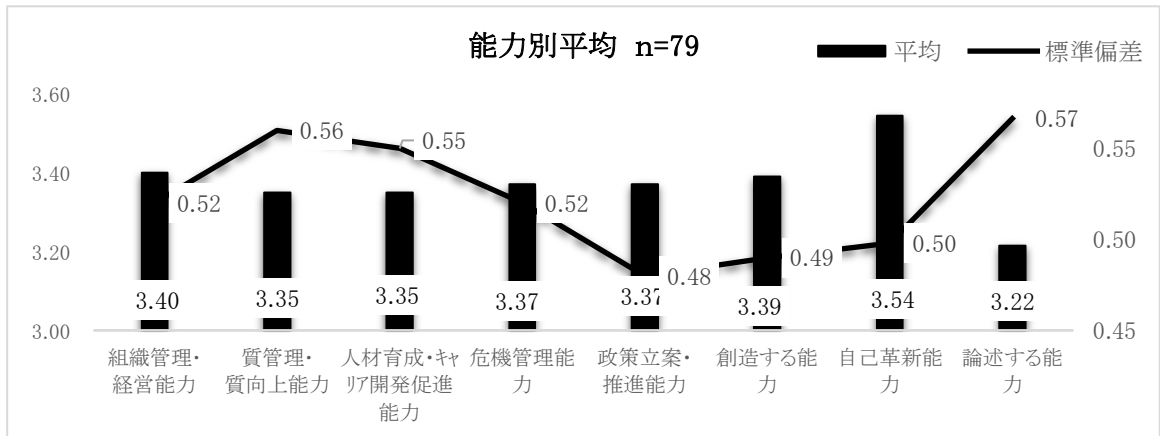
※アンケートは Google ドライブを使用したオンライン上の質問と回答(重複して回答したものを含む)

2) 研修全体のアンケート

郵送数 72(科目受講者を除く) 回収数 56 回収率 77.8%

(1) 研修を受講し、力(能力)がどの程度身についたと思いますか(4段階)。

※指標(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:余りそう思わない 1:全くそう思わない)



(2) 研修で学んだことを今後どのように活用しようと思いますか。

- ① 自部署スタッフの教育(11名)
- ② 自部署の課題解決に活用(40名)
- ③ 看護部・他部門との協働
- ④ 自分自身の課題解決や成長(9名)
- ⑤ 病棟運営やチーム作り(5名)
- ⑥ 目標管理への活用(2名)
- ⑦ 管理者・スタッフとの共有(6名)
- ⑧ 病院経営等経営的視点での取組み(3名)
- ⑨ データによる組織課題の可視化
- ⑩ 患者ファーストの看護の提供
- ⑪ 倫理的課題の検討
- ⑫ 実習指導

(3) 研修運営について

- ・悪天候時(気象警報時等)に安全対策上オンライン研修を考慮頂きたい
- ・研修資料の紙媒体からペーパーレス化を考慮頂きたい
- ・集合研修からオンライン研修へ考慮いただきたい(来所負担軽減のため等)
- ・環境音調整が場所により不適切だった(寒すぎたり暑すぎたりしていた)
- ・メールアドレス等の個人情報保護を徹底頂きたい

4. 研修担当者コメント

新型コロナウイルス感染拡大のため、ファーストレベルは 2020 年度中止、2021 年度は全科目がハイブリッド研修となった。今年度は集合研修を基本とし実施となった。

研修全体についてのアンケートは、日看協の認定看護管理者制度の変更に伴い評価項目等の表現を修正した。その結果は例年と変化はなかったが、今年も論述する力の自己評価は低かった。課題レポート作成に苦渋する受講生も見うけられたため論述する力を育む方策の検討が必要と考える。

また、新型コロナ感染症の家族及び本人の感染により、受講生が、オンライン受講、欠席を余儀なくされた。日看協もオンライン研修を推奨していることから、種々の受講形態の検討が必要である。

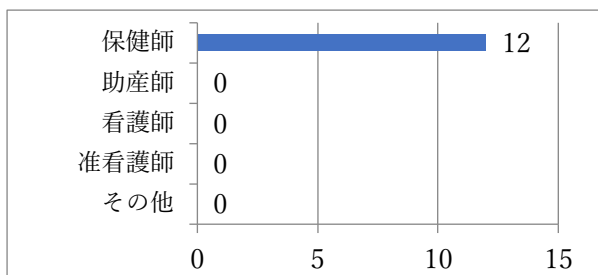
2023 年度は 78 名が修了した。受講者は自分自身のキャリアアップや組織の役割を担い、現場で看護管理者として実践的な行動につなげてくれることを期待している。

1. 保健師職能委員会

研修名	1) 新任期保健師交流会	
開催日時	令和5年10月1日(日)	時間 13:00~14:30
会場	幡多会場(大方ふるさと総合センター) 高知会場(高知県看護協会)の2か所をZoomで配信	
参加者数	12名(会員:2名 非会員:10名) 幡多会場 6名 高知会場 6名	定員 20名
ねらい	①新任期保健師の交流を深め、今後の相互の学びの機会につなげる ②看護協会の魅力を伝え、入会促進につなげる	
体験提供者	川谷 萌(三原村役場)	
内容 (キーワード)	新人保健師 交流 リフレッシュ	意見交換

1.アンケート結果 出席者:12名 アンケート回収:12名 アンケート回収率:100%

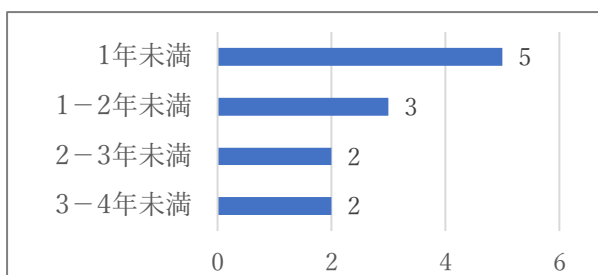
1) 職名



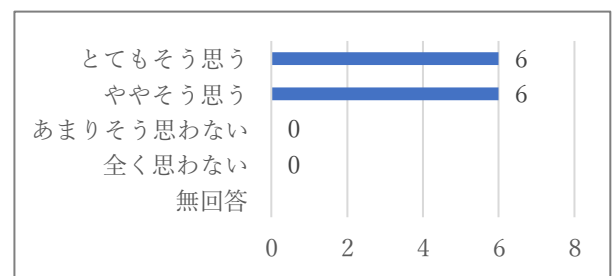
2) 勤務先

高知市保健所	1
須崎市役所	2
中土佐町役場	1
四万十市保健所	3
中央東福祉保健所	2
幡多福祉保健所	3

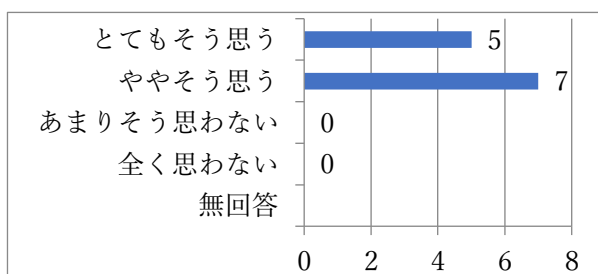
3) 経験年数



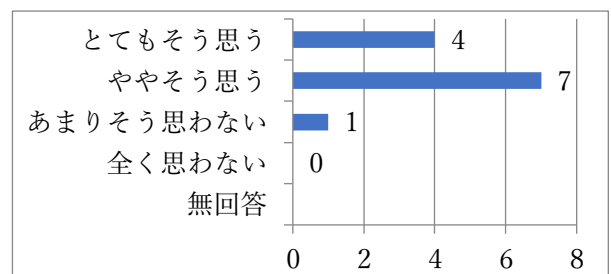
4) 参加目的の達成度



5) 今後の活用度



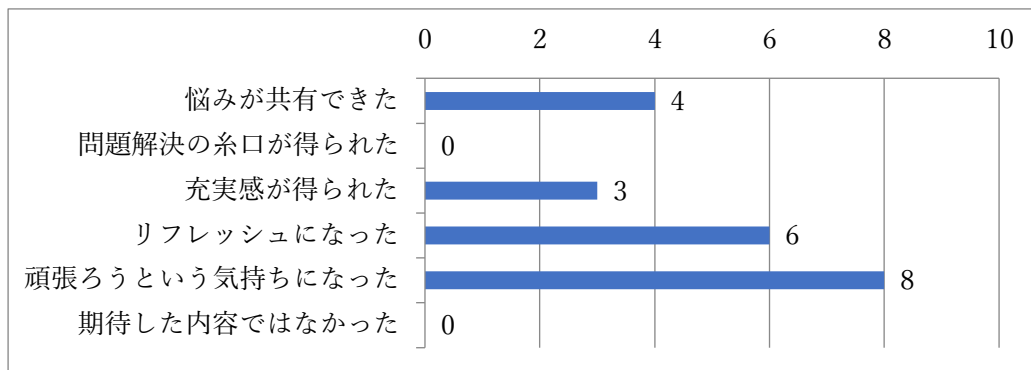
6) 課題解決の方向性



目的達成度・活用度・方向性の明確化



7) 研修全体を通じた感想(複数回答)



8) 今後頑張りたいこと

同じ保健師として日々頑張っている皆さんの話を聞いて、自分も仕事と向き合って休みつつ頑張ろうと思った。

2. 担当者のコメント

昨年度に引き続き、高知会場、幡多会場と2か所をオンラインでつなぎ、同期の人との再会や他の保健師との新たな出会い、職能委員との交流を図ることができた。また、職能委員長からは委員会活動により、ネットワークの構築や自己成長につながることを、又、協会会長からは保健師・助産師・看護師の職能集団として問題提議や発信を行う必要性について説明があった。

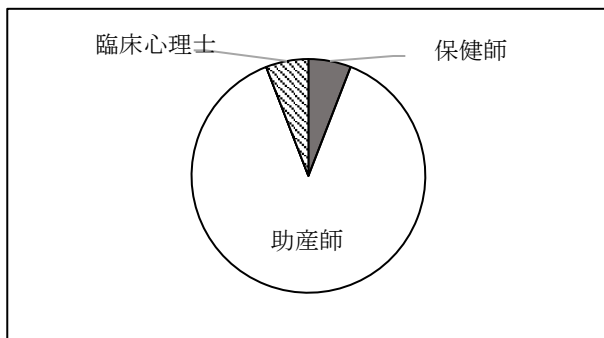
この交流会を通して、今後、長く保健師をしていく中で、相談しあい、助けあい、大変なことも一緒に乗り越えていく仲間になることを期待したい。

2. 助産師職能委員会

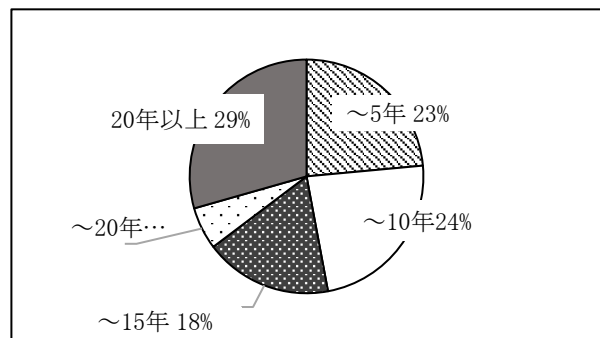
研修名	1)助産師職能委員会研修「不妊症・不育症患者の看護支援 ～専門家(医師)の講義と当事者の体験談から対象理解を深め、支援のあり方を考える～」	
開催日時	令和 5 年 9 月 28 日(木曜日)	時間 13:00～16:00
受講者数	22 名(会員:19 名・非会員:3 名)	定員 50 名
ねらい	1.不妊症・不育症の原因、治療、予後等に関する最近の知見と、不妊症・不育症患者の心理的特徴を理解することで、患者の相談・支援のあり方を考える基盤とする 2.初期流産、不妊から流産に至った当事者の語りから対象理解を深める	
話題提供	講 師 :レディスクリニックコスモス院長 桑原 章 話題提供者:2 名	
内容(キーワード)	助産師職能 不妊・不育の悩みをもつ女性の支援 CLoCMiP®レベルⅢ	講義・演習

1. アンケート結果 回答者数 17 名 回収率 77.3%

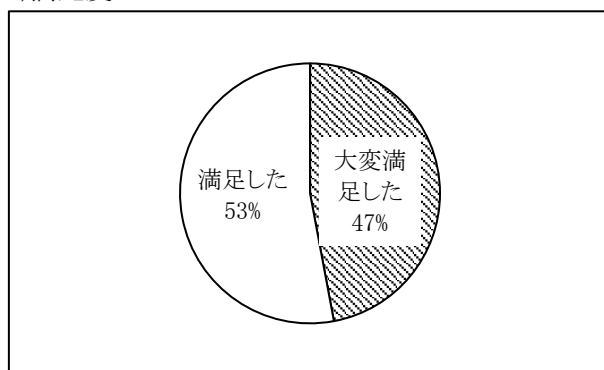
1)職種



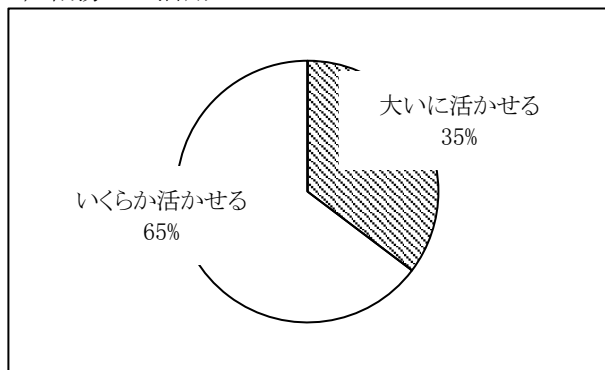
2)経験年数



3)満足度



4) 職務での活用



3) 満足度の理由について

- ・しばらく現場から離れていたため、学習の場になった。
- ・高知県の生殖医療の現状が知れた。(2名)
- ・施設間で不妊や、流産に対する看護について現状や 思いを共有できた。(4名)
- ・職場で悩んでいることに共感してもらえた。
- ・当事者のお話を聞くことができた。(5名)
- ・改めて自分の課題を知ることができた。
- ・不妊治療の現場や対象者が求めているニーズなどを知る機会になった。(2名)

4) 職務へ活用できる理由について

- ・地域活動で不妊に悩むお母さんの相談に役立てたい
- ・中期中絶のケアや死産のケアに活かしたい(2名)

- ・ 当事者の意見を現場に活かそうと思った。(2名)
- ・ 対象者の方と対話をする際には対象者の価値観に適した環境を整えたい。(2名)
- ・ 逃げない姿勢で関わろうと思った。(2名)
- ・ 不妊治療の情報が得られた。
 - ・ 高知は不妊治療も出産も限られた場所しかないこと、分娩施設の助産師として高知の現状を踏まえ、横のつながりを強化しケアをしていかなければならないと思いました。
 - ・ 今までの業務や考え方が振返られた。(2名)
 - ・ 流産を経験された方への支援の場や情報提供を行っていききたい
 - ・ 体験談から、よりリアルな当事者の思いを知ることができたから(2名)
 - ・ 「必要なケアは怠らない」とのお言葉は、とても参考になりました。侵襲的にはなりたくないけれど、安心して話したいという想いを皆さん抱えておられるのだと感じました。

5) 本日の研修会の感想等

- ・ 貴重な話が聞けて、大変学びになりました。ありがとうございました。
- ・ 桑原先生をはじめ、当事者の意見、他施設の助産師や高知市の保健師さんとの交流の場になり多くの学びが得られました。貴重な時間をありがとうございました。
- ・ 不妊治療や、流産を経験された当事者の方のお話を聞いたこと、また先輩助産師さんや地域の保健師さんのお話を聞くことができ自分の成長につながる研修になったと思います。
なかなかない機会だと思うので、参加できて自分の視点を広げられたのでとてもよかったです。
- ・ 意見交換の時間を十分に取ってもらったので有意義だった。
- ・ 経験を伝えていただきありがとうございました。お産の後のように労ってもらえなかったという言葉は胸に残りました。
- ・ とてもいろんな方と交流ができ良かった。
- ・ 参加させてくださりありがとうございました。話を聞くなかで、ふと男性への支援も必要なのではないかと思います。不妊治療は夫婦の協力が必要なため、女性と男性それぞれの思いを聞き、よりそっていく必要があると思いました。
- ・ 研修会開催ありがとうございました。
- ・ 郡部でも当事者が話せる場を作れたらいいなと思いました。ペリネタルロスにも産後ケアとして関わられたらいいかなとも思いました。
- ・ 講義では、不妊治療、不育症の現状を知ることができ勉強になった。体験談を聞いて、私も相手の価値観を受け入れた上で大切にすること、対象者に配慮した環境整備と、あたたかい声掛けを意識して関わって行きたいと感じた。
- ・ 参加させて頂きありがとうございました。
- ・ 流産、死産された方に接して来て、「これでいいのか」「どうしたらいいのか」と思いながら接してきたが、体験者さんと話すことで、大切なことに気づけたと思います。貴重な話を聴かせていただき感謝しています。

6) 職場での課題や今後の研修への希望

- ・ 不妊治療の実際を理解してするために、患者さんとのやりとりやケアのポイントなどを学びたい。
- ・ 心理士として、長期的、継続的なケアについてしっかり考えていきたいと思っています。
- ・ 医療的な情報と、当事者の方の想いやご経験、支援されるお立場からの視点などに触れさせて頂き勉強になりました。
- ・ 不妊治療に関する高知県の現状や課題が分かった。

7) 研修担当者コメント

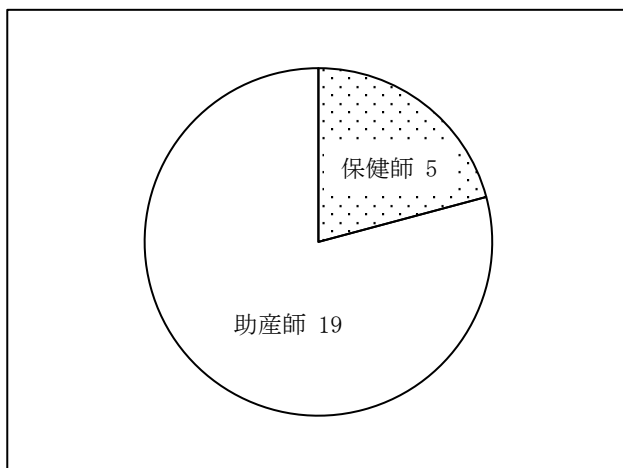
幸せな新生児の誕生と違い、不妊不育症の患者への看護は対象の悲嘆の表出という精神的なケアが必要となる。その上、臨床現場で遭遇する症例の少なさも、看護者の苦手意識を増大させる原因と考える。今回の研修会によって医学的知識と患者の声を共有できたことは、地域でのケアの場の工夫、連携につながることを期待する。

2. 助産師職能委員会

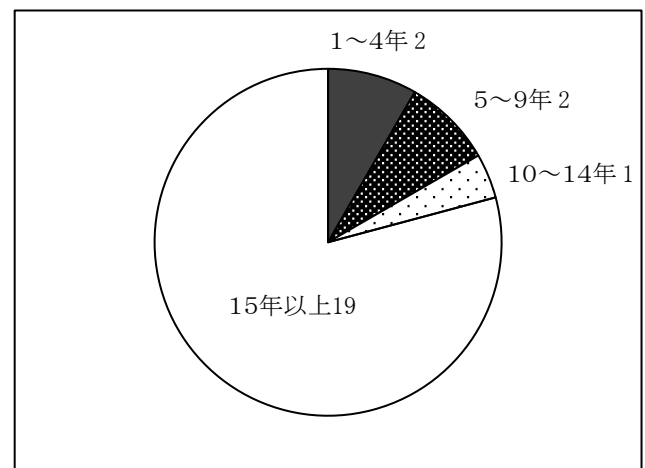
研修名	2)助産師交流会「助産師の輪を広げよう」 全ての母子に届ける産後ケア～伴走型支援について考える～	
開催日時	令和 5年 10月 28日(土曜日)	時間13:00～16:00
受講者数	28名 (会員:13名 ・非会員:15名)	定員 60 名
ねらい	1. それぞれの助産師が活躍する場所での体験を話しすることで普段接することのない助産師の働き方などを知り、お互いに意見交換をする。 2. 全体交流からテーマにあった小集団での意見交換・交流を実施する。	
話題提供	話題提供者 病院助産師:奥田和代 母子保健コーディネーター:廣瀬梨佐 開業助産師:森木由美子 産婦として:松木由 河井舞	
内容(キーワード)	助産師 交流会 産後ケア 伴走型支援	グループワーク

1. アンケート結果 回答者数24名 回収率 85.7%

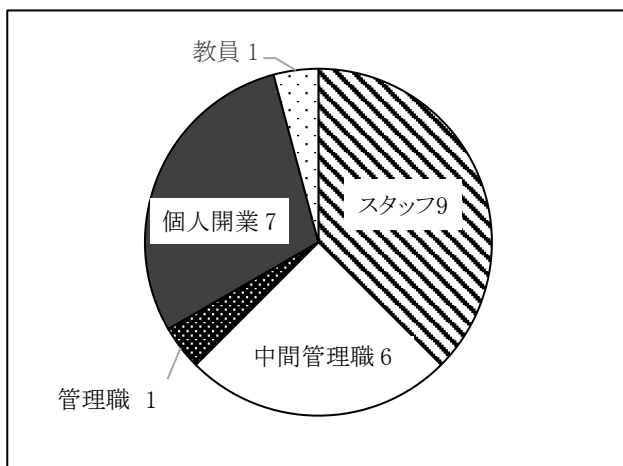
1) 職種



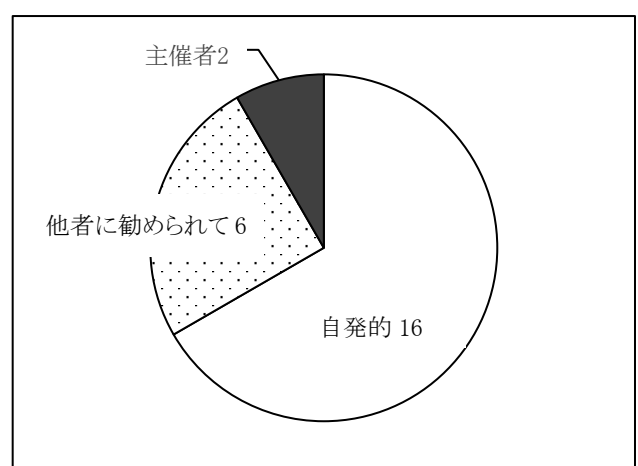
2) 経験年数



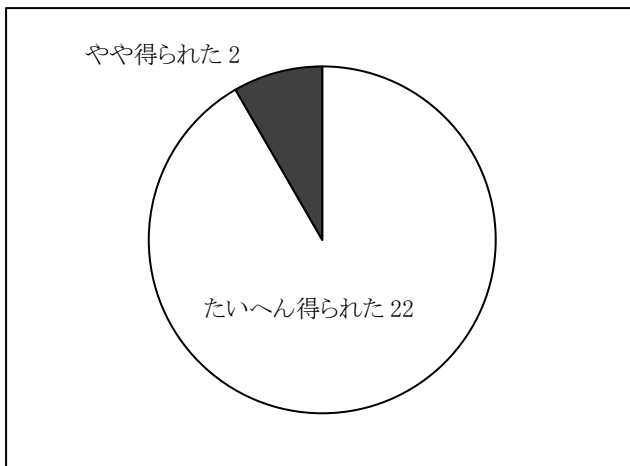
3) 職位



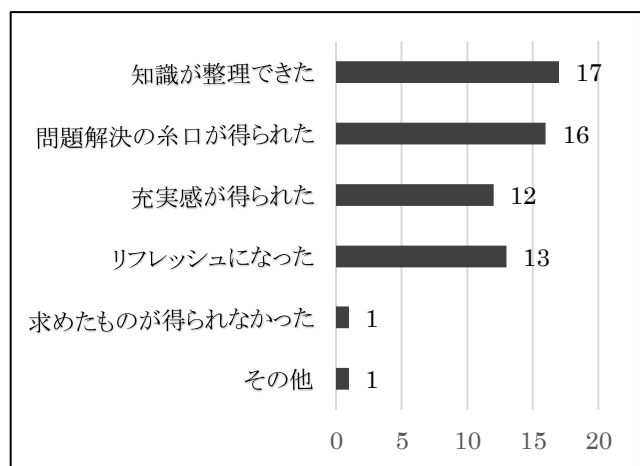
4) 参加のきっかけ



5) 今後の活動へのヒント



6) 研修の感想(選択式)



7) 交流会の感想(記述式)

- ・ 対面で、グループワークができてよかった。色々な情報交換ができました。
- ・ それぞれの立場のお話が聞けて今後の仕事に役立ちます(8名)
- ・ 他機関の沢山の助産師さんと共有でき、実りある研修になりました。
- ・ 発表者の方の話題提供や実体験、産後お母さんの意見を聞きとても参考になった。(2名)
- ・ 産後ケアの利用促進について、周知方法や利用方法に工夫が必要なのがわかった。検討していきたい。
- ・ 大変多くの学びを得たと共に、いろんな場で活躍される方と顔を合わせる機会となり、繋がりを持てた。
- ・ 楽しかった。
- ・ 様々な立場の方からお話しができたこと、産後ケアにそれぞれの立場で取り組まれていることが感じられ、高知県の産後ケアがもっと盛り上がるのではないかと嬉しく思いました。
- ・ 病院スタッフとして、入院中の妊産婦さんに対して産後ケアを重視して話をする機会もあまりなかったなと思いました。ニーズはあるけれど知識不足や、申請がめんどりでケアに手に届かない人なども多くいると思いましたので、少しでも多くの人に充実したケアを提供出来るように院内のみならず、地域の助産師さんや行政の方と連携しながら手広いケアが提供出来るようにしたいと思いました。
- ・ 色々な目線からの現場を知ることができました。協力をしながらでも高知の子育て支援をもっと盛り上げたい。統一した利用の流れや費用も含め、産後ケアはまず行政が頑張してほしい。(2名)

8) 今後の交流会や研修への希望

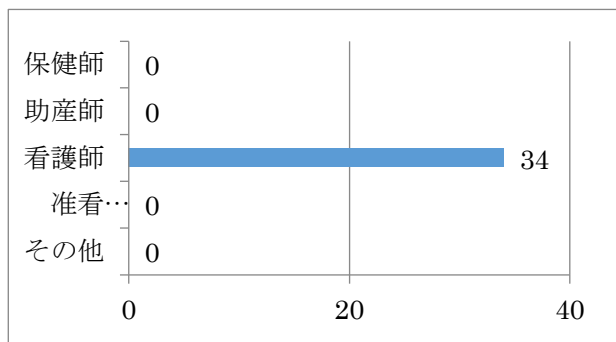
- ・ 産後ケアの利用促進のための、伴走型支援の研修はとても良かった。
- ・ 産後ケアを提供する施設同士の情報交換の場を、また設けて頂けると嬉しいです。(5名)
- ・ また、交流会できる形で、集まりたいです。(2名)
- ・ 高知県のどの地域にいても、安心して子育てができるように、産後ケアをはじめ、様々な支援を検討していきたいと思いました。
- ・ 実際に参加してみると色々な職種の現状を知ることができて楽しかった。
- ・ 今の自分が何をできるかも考える時間になりました。

看護師職能委員会

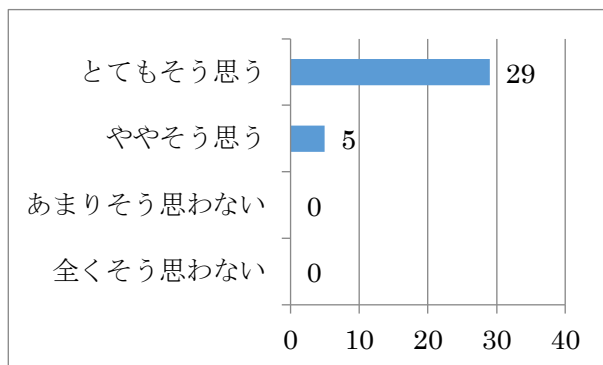
研修名	1) 多施設新人看護師交流会 ～新人同士で悩みを表出しスッキリしよう～	
開催日時	令和5年10月1日（日曜日）	時間 9:30～12:30
受講者数	36名（会員14・非会員22）	定員 40名
ねらい	多施設の新人看護師等と交流することで、お互いの悩みや思いを出し合い、リフレッシュの場とすることができる	
講師	看護師職能委員会	
内容	新人看護師 リフレクション	講義・演習

1. アンケート結果 回答数 34名 回収率 94%

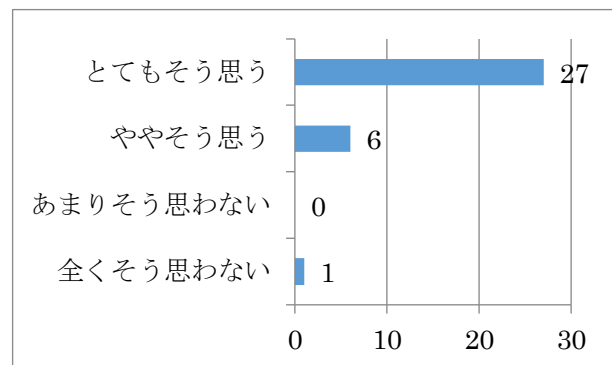
1) 職種



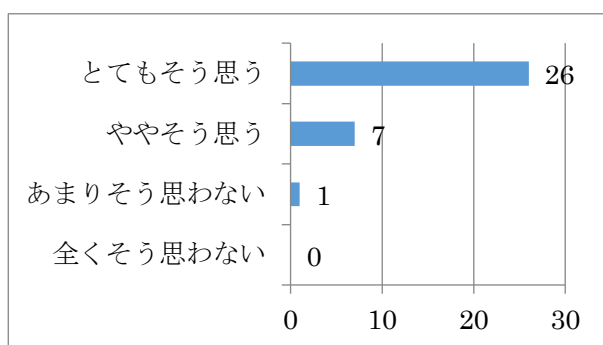
2) 研修内容の理解度



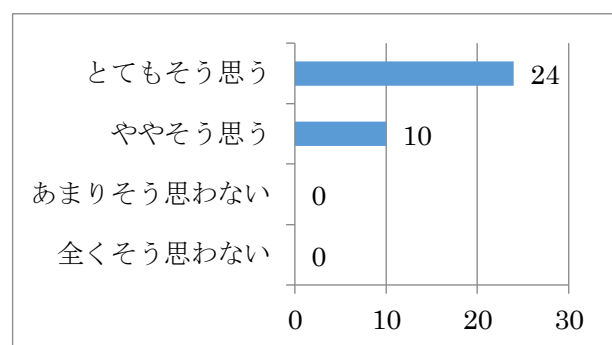
3) 参加目的の達成度



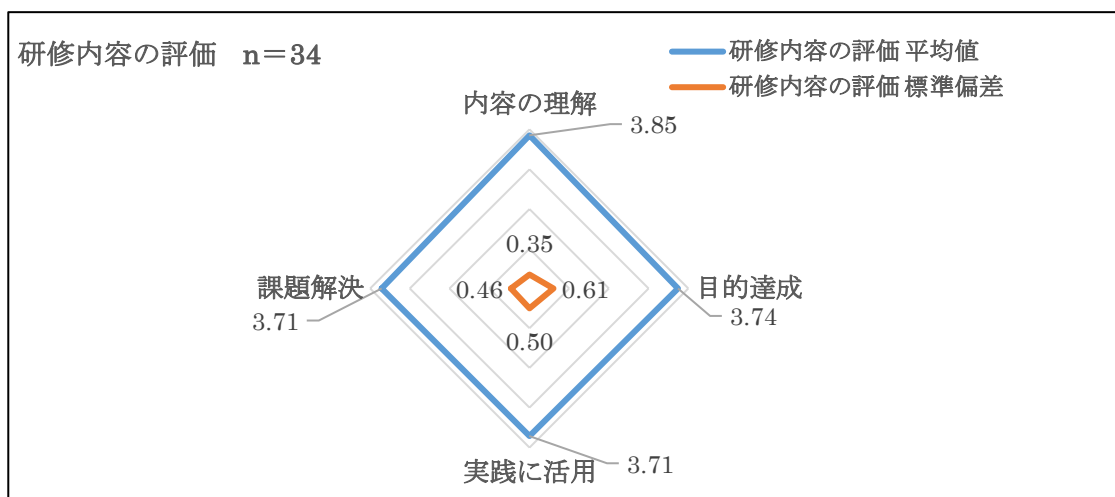
4) 今後の活動に活用できますか



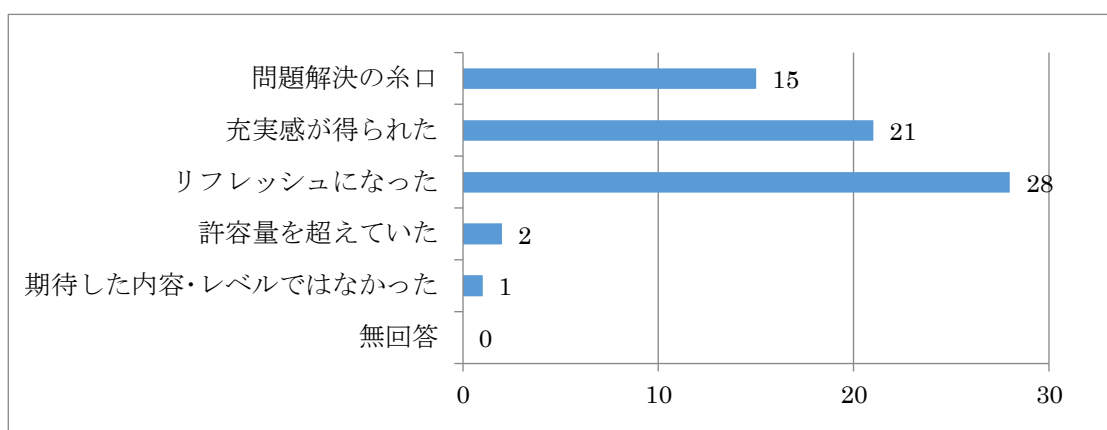
5) 課題解決の方向性が明確になったか



6) 研修内容の評価



7) 研修の講義全体を通じた感想（複数回答）



2. 感想

- ・これまでの経験を振り返ることができた。
- ・他施設の方と交流する機会がないためリフレッシュになった。
- ・これからの看護に活かしたいと思った。

3. 研修担当者コメント

グループワークでは、なかなか発言できない人がいたが、看護師職能委員がゆっくり話しかけ、傾聴しながら発言を促しており、適度なタイミングで新人看護師の緊張をほぐしていた。

問題解決には到らなくても、同じ思いを共有し、「参加して良かった」と感じた研修生が多く、研修の目的を達していると思われる。

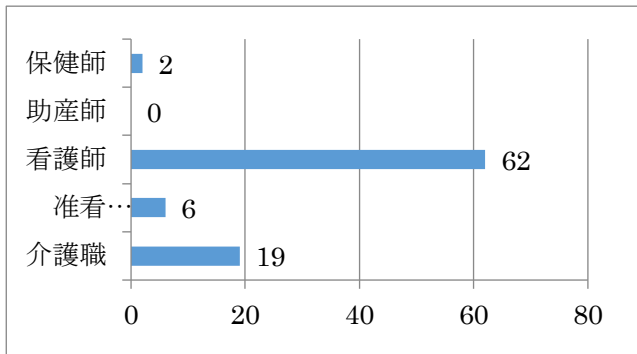
グループワークが座談会にならないように、ファシリテーターの役割は大きく、その役割を担うために看護師職能委員は、研修生の体験談を共有し、共感を表出できるような関わりが必要であると思われた。

次年度も、新人看護師がリフレッシュできモチベーションにつながるような交流会を開催する。

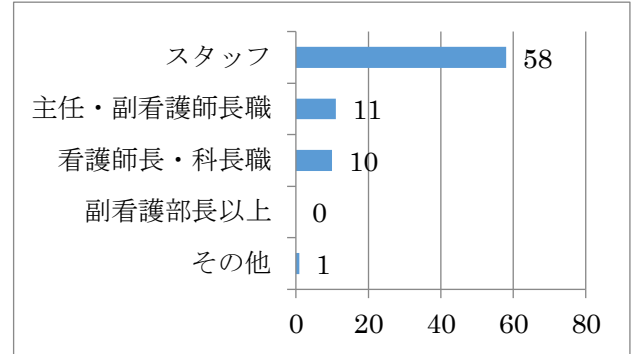
研修名	2)医療・介護・福祉施設職員研修 (1) 感染管理の基本 (2) 高齢者の摂食嚥下 (3) 高齢者の薬に関する基礎知識 (4) ACP(人生会議)		
開催日時	(1) 令和5年7月31日(月) 13:30~16:30 (2) 令和5年10月10日(火) 13:30~16:30 (3) 令和5年11月18日(土) 9:30~12:30 (4) 令和5年11月24日(金) 13:30~16:30	時間 各3時間	定員 30名
受講者数	(1) 令和5年7月31日(月) 受講者数13名 (2) 令和5年10月10日(火) 受講者数21名 (3) 令和5年11月18日(土) 受講者数16名 (4) 令和5年11月24日(金) 受講者数39名 総受講者数:89名 (保健師2名 看護師62名 准看護師6名 介護職他19名)	会員9名・非会員4名	会員8名・非会員13名 会員10名・非会員6名 会員31名・非会員8名
ねらい	医療・介護・福祉施設で働く看護・介護職員が質の高いケアを提供するための能力を養う。		
講師	(1) 高知県立あき総合病院 感染管理認定看護師 川野上 理恵 (2) 高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 摂食・嚥下障害認定看護師 岡村 かのこ 言語療法士 池 亜里沙 (3) ひつざん薬局 薬剤師 伊藤 悠人 (4) 高知赤十字病院 教育担当師長 急性・重症患者看護専門看護師 井上 和代		
内容	(1) 感染管理の基本を理解し自施設・家庭での感染予防に活かす (2) 嚥下機能を理解し、安全な食事支援方法を学ぶ (3) 高齢者の薬に関する基礎知識を学び、安全なケアにつなぐ (4) ACP(人生会議)について理解を深め、意思決定支援の方法を理解する	講義	

1. アンケート結果:総出席者 89名 アンケート回収数 82名 回収率 92%

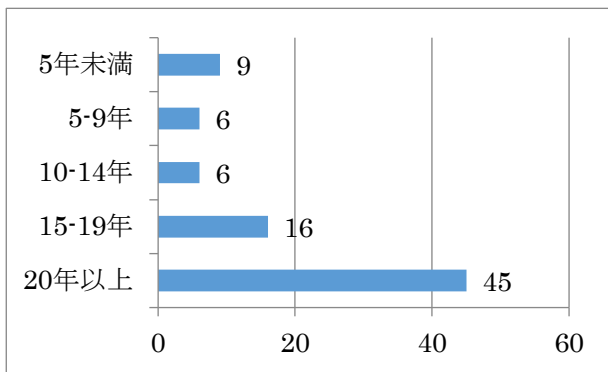
1)職名



2)職位

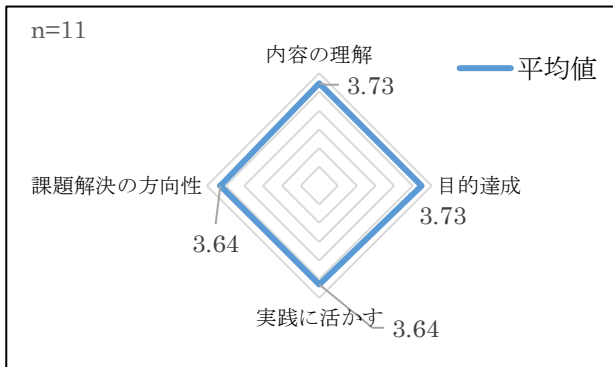


3)経験年数

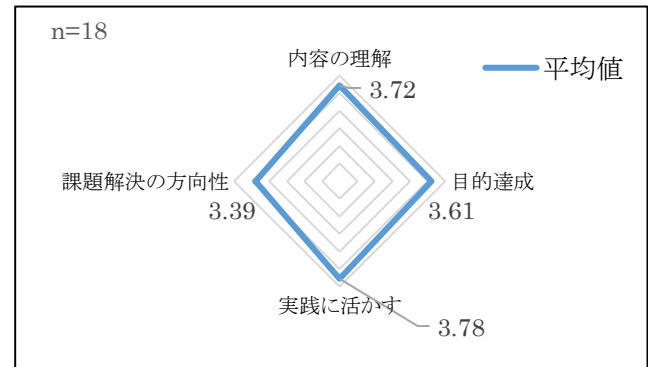


4)研修毎の評価

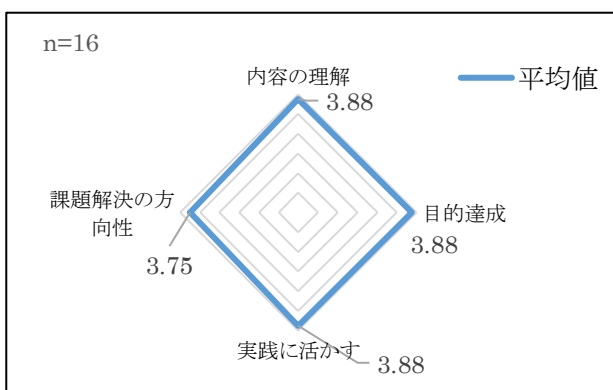
1)感染管理



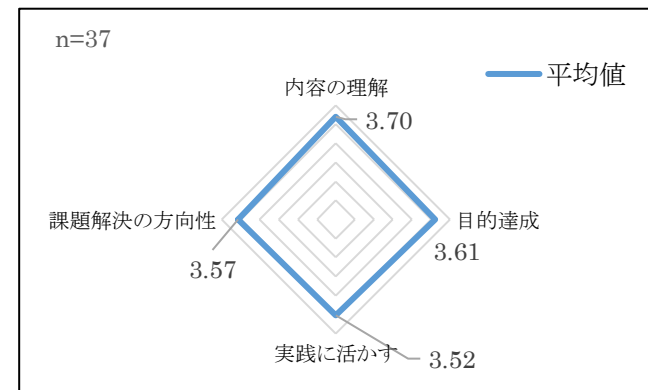
2)高齢者の摂食嚥下



3) 高齢者の薬に関する基礎知識



4)ACP (人生会議)



2. 研修の意見・感想(全研修アンケートからの抜粋)

- ・ あらためて感染管理の基本、標準予防策について学ぶことができました。
- ・ 普段から、今日学んだしっかりとした標準予防策を行い日々の業務に活かし、またスタッフへも伝えて行きたいと思いました。
- ・ 疑問に思っていた事がわかって良かったです。
- ・ 口腔ケアや摂食嚥下に取り組みはじめた事と、日頃の食事介助で試してみたいことなどあり勉強になりました。
- ・ 口腔体操の必要性が良くわかりました。
- ・ 深呼吸は呼吸リハビリやリラクゼーションで大切だと認識で取り入れていましたが、嚥下訓練としても有効なことが分かり、ご本人やご家族に説明してモチベーションを上げてもらえたらと思います。発声でのアセスメントも実施していきたいと思います。
- ・ 薬剤についての再認識ができました。今後の業務で役立ちそうです。
- ・ 飲み忘れの工夫の事例がとても参考になりました。
- ・ 坐薬の保管方法、水溶性と油性の同時使用方法を知る事ができ高齢者に服用介助するポイント等、学びが深まりました。
- ・ 元気な時から、もしもの場合について話し合うということにハードルの高さを感じていたのですが、本日の講義を聴いて日常のコミュニケーションの場を活用していこうと思いました。
- ・ 講義内容もちろん、他施設の状況も聞けて情報得ることができて参考になりました。
- ・ ACP は、とても難しいものとイメージしていましたが、今回の研修で構えずにできるのだと思いました。
- ・ ACP について知識がなかったので講義を受けて学ぶことができました。

3. 研修担当者コメント

参加者全員が、実技や講義に非常に積極的に取り組んでおり、質問も多く研修を通じて現場で困っている事を解決したいという姿勢が感じられた。参加者同士が共通の問題を抱えている事が明確となり臨床に役立てる内容であった。

研修評価では、内容の理解、目的達成、実践への活用、課題の明確化にバラつきがあるが、意見・感想からは高評価が得られ、受講者のニーズに沿ったものであったと考える。

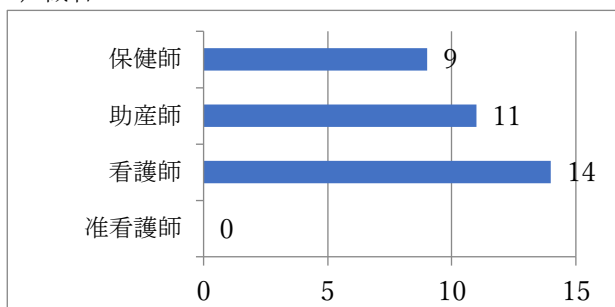
参加者数が、定員の40%~50%の研修があった。今後、広報の工夫を検討すると同時に、他施設での研修開催時期や内容が重複しないように計画する必要がある。

4. 保健師・助産師・看護師職能合同研修

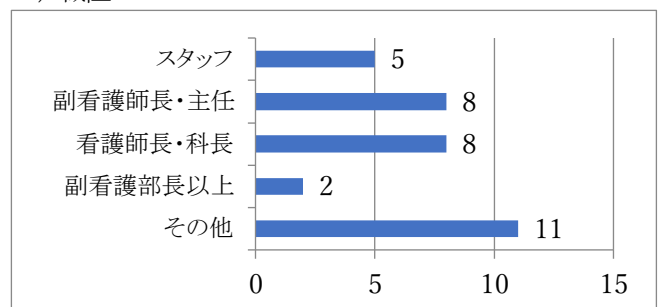
研修名	コロナ禍から with コロナ時代への移行を看看連携で支える	
開催日時	令和5年 7月 30日(日)	時間 13:30~15:30
受講者数	50名(会員:44名 非会員:6名)	保健師 13名・助産師 13名 看護師 24名
ねらい	これまで体験した新型コロナウイルス感染症に関する事例について3職能で協議し、今後想定される看護課題の解決策や新たな取り組みについて示唆を得る。	
体験提供者	保健師：高知市地域共生社会推進課 朝比奈亜希子 高知市基幹型地域包括支援センター 田村 良子 助産師：高知大学医学部付属病院 井本 恵子 看護師Ⅰ領域：高知医療センター 大石 美和 看護師Ⅱ領域：ケアハウス花の郷高知 過足 味代	
内容 (キーワード)	with コロナ 情報共有 看護課題 看看連携	報告・意見交換

1.アンケート結果 出席者:50名 アンケート回収：34名 アンケート回収率：68%

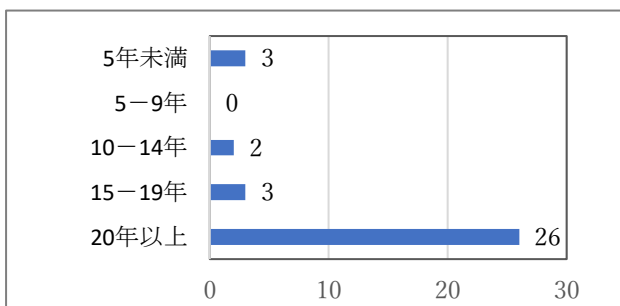
1) 職名



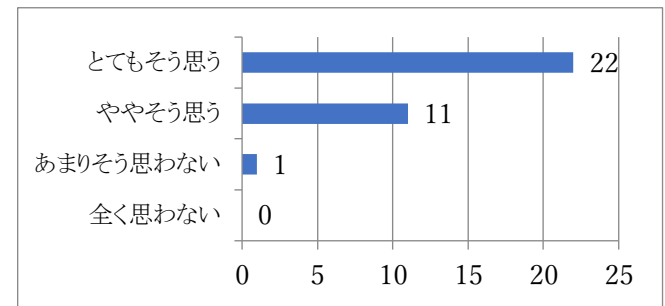
2) 職位



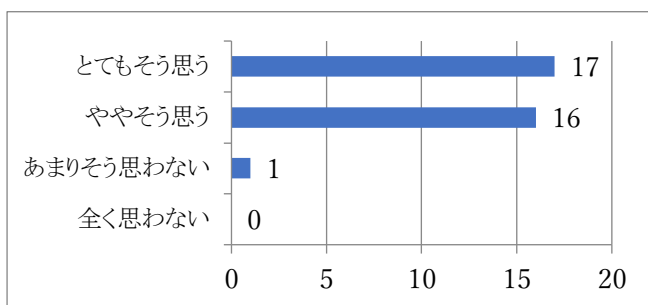
3) 経験年数



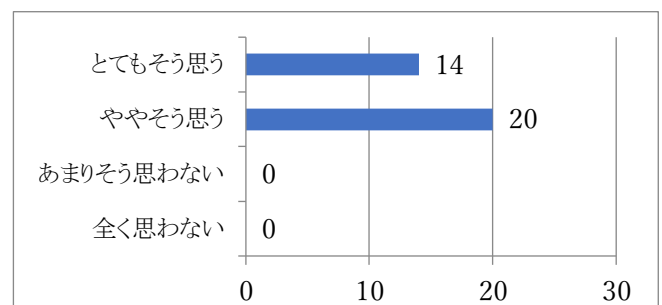
4) 研修内容の理解度



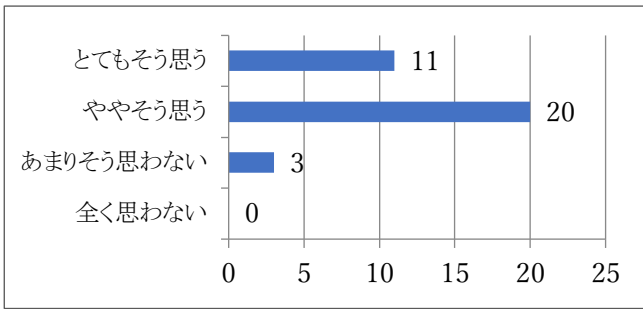
5) 参加目的の達成度



6) 今後の活動に活用できるか

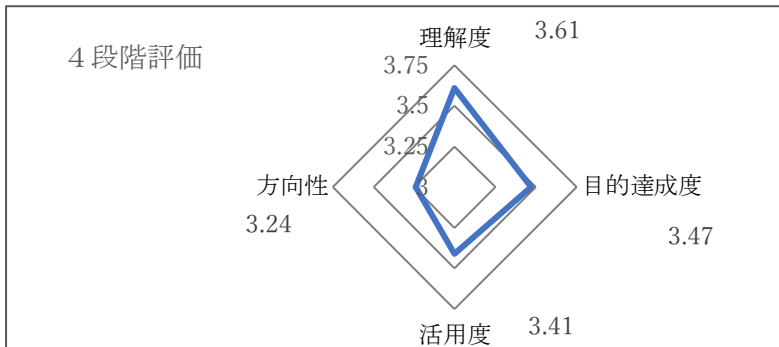


7) 課題解決の方向性

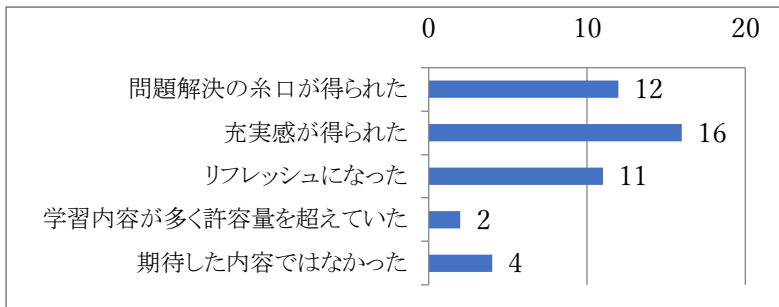


《あまりそう思わない・理由》

- ・経験年数が少なく課題の方向性を明確にするまで考えることができませんでした。
- ・課題解決の方向性は、各自が考えないといけないと託されたように感じました。
- ・課題解決の方向性は、各自が考えないといけないと託されたように感じました。



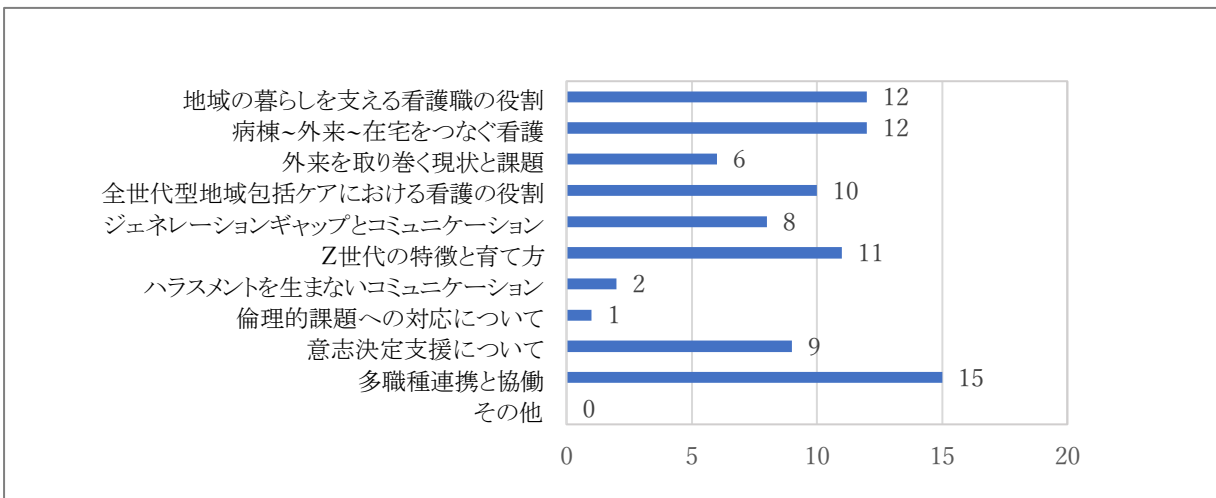
8) 研修全体を通じた感想(複数回答)



《意見》

- ・事例が聞けたことは参考になった
- ・ディスカッションできる時間がなくて残念
- ・予定していた内容と異なった

9) 希望する合同集会のテーマ



2. 感想、意見

- ・とても参考になるお話をたくさんお聞きできました。ありがとうございました。
- ・立場の違うところのそれぞれの取り組みや大変さがあり、勉強になりました。今後コロナ感染症は対策をしながら、受け入れをしていく必要があることを実感しました。
- ・時間は足りなかったかもしれませんが、保健師、助産師、看護師がコロナでどのような役割を果たしていたのか、お互いに理解しあえるよい研修会だったと思います。まずは知って、そこから看看連携につながるというなど思いました。
- ・今日の発表が聞けて、感染が増えてきた中でも、病院の看護師として、地域との連携など、出来ることを考えて、頑張っ乗り越えたらと思いました。
- ・実際のコロナ禍での施設 病院 地域での苦悩や対応が赤裸々にわかって、よかったです。
- ・それぞれの職場で、精一杯やる中でもどうすることも出来なかった体験や葛藤を聞くことができました。先の見えない不安の中で、指揮をとられた先生が、個人そして組織が繋がることで一点の光が見えた、と言われことばを思いだします。今後起こる災害の備えにも、このような研修企画は必要だと思います。
- ・テーマに関心があり、はじめて参加しました。今回はご発表で時間一杯となりましたが、次回は同席者の方々との意見交換の時間が確保できれば良いなど思いました。
- ・コロナ禍でのそれぞれの立場での発表が聞け、改めて大変だったことを実感しました。保健所の健康観察は、もっと市町村と連携した関わりができれば保健所の負担が軽減できたのでは、と考えました。
- ・他の職能や当時の施設の状況がよく理解出来て意義のある研修でした。
- ・退職者ですが相談センターと高知市保健所で相談業務をしました。今回後輩が連絡をくれましたので参加させていただきました。業務の渦中は自分達こそ大変だと思ひ込みがちですが今日の報告で医療職のいない介護現場が工夫しながら乗り気っていったことがよくわかりました。臨床のご苦労はもちろんです、介護職場の現状がもっと報道等されるようになれば予防行動にもより繋がるのではと思いました。久しぶりに独特の空気感の中に身を置きました。皆様のご活躍をお祈りしています。
- ・保健所の保健師として、コロナ対応に追われ、疲弊した3年だったが、病院、介護施設、クラスター発生における健康被害など、それぞれの発表から学ぶことができ、患者を支えてきたそれぞれの機関の大変さを痛感した。また、第9波により、病院は限られたベッド数のなかで、感染患者の受け入れに苦慮していることを知り、改めて、個人の感染対策は必要であることを認識できた機会になった。参加して良かったと思う。

3. 担当者のコメント

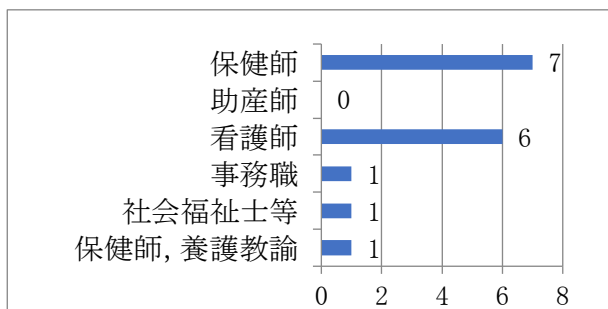
今年の職能合同集会は、COVID-19 第7波、第8波での医療現場や地域、高齢者施設等でのクラスターを体験した看護職が、その経験より得た知見を今後に生かすべく活動報告を行った。COVID-19は5月から5類に移行されたが、今後起こりうる看護課題をどのように支援していくのか、with コロナ時代について考える時間を持つことができた。アンケートの結果では、十分に協議する時間が持てず残念だったという意見もあり、時間管理等課題が残された。次年度も引き続き、3職能合同での集会を開催し、各職能の役割や課題等の共有や相互理解を図っていきたい。

4. 3 職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会

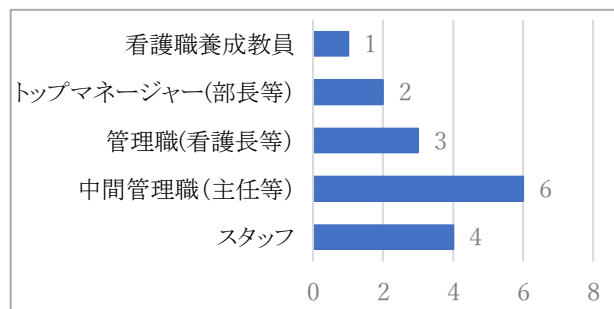
研修名	5 子どもの生きるいのちを育むいのちの教育を考える座談会	
開催日時	令和6年2月3日(土)	時間 9:00~12:30
受講者数	21名(会員:11名 非会員:10名)	定員 50名
ねらい	3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会のこれまでの取り組みを理解する。好事例から学び、次年度の学校でのいのちの教育につなげることができる。	
講師	話 題 提 供:関 正節(3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員長) 植田 章夫(須崎市 子ども子育て支援課) 松尾 まゆら(須崎市 健康推進課) 講師・アドバイザー:東京医療保健大学看護学科 教授 渡曾睦子	
内容 (キーワード)	性(生)教育・母子保健・職能別役割	座談会

1.アンケート結果 出席者:21名 アンケート回収:16名 アンケート回収率: 76.2%

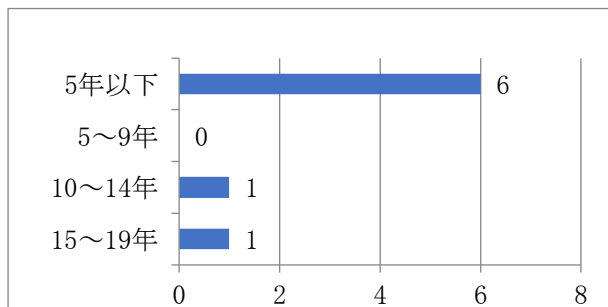
1) 職名



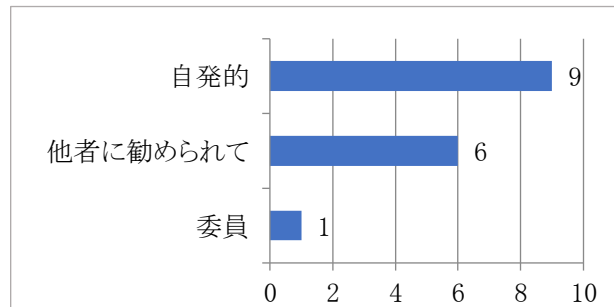
2) 職位



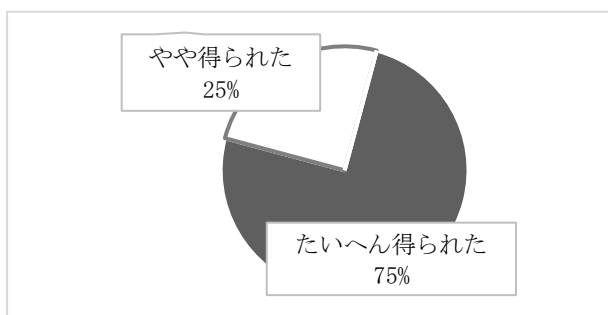
3) 経験年数



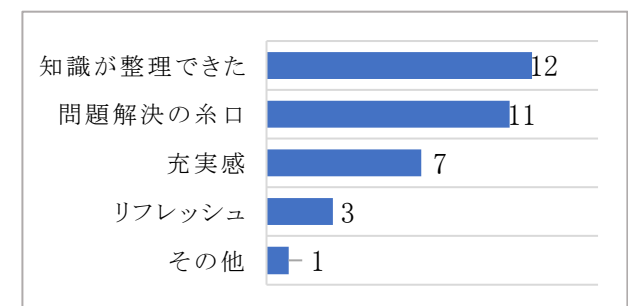
4) 研修参加動機



5) 今後の活動に活用できるヒントが得られたか



6) 全体的な研修の感想(複数回答)



2. 感想、意見

- ・ とても良い企画でした。
- ・ 地域診断の必要性を改めて感じました。
- ・ 須崎市の方の事例を聞いて自分の町でどう事務の方と話しを進めていけるかヒントを得ました。
- ・ 現場で支援されている保健師さんから私たちの知らない現状を聞かせていただき、行政がどのように取り組んでいるのかを知るよい機会となりました。
- ・ 須崎市の取り組みが凄いなと思いました。一つの出来事をきっかけに危機感から、行動を起こし成果を上げる事ができ、すばらしいです。
- ・ 実態を共有することで問題解決のきっかけとなった。
- ・ 今回初めて参加をしました。教育の変化や、現状を知ることができました。小学生、中学生で死にたいと思ったことがある数の多さと、その理由がとてもショッキングでした。看護師として出来ること、地域と繋がっていくことを考えていきたいと思いました。
- ・ 思春期保健の広義の意味を知り、この課題をクリアしていくような働きかけ大事であることを学べた。母子保健と教育現場の連携の方法や必要性をどう伝えていくか、企画の重要性について学ぶことができた。
- ・ 他職種の方と話しができて、自分の地域で事務職と上手く仕事をしていくためにも業務の整理が必要と思いました。
- ・ 広義の性教育が学べ、須崎市の具体的な取組も学ぶことが出来たので、有意義な研修となりました。
- ・ 須崎市の取り組みが教育委員会や保育も包括した取り組みになっていることに感銘を受けた。これまでなかなか教育委員会と協働する機会が少ない中、子どもたちが成長発達の大事な時期を過ごす、義務教育期間へのアプローチをさまざまな角度から考えることができた。現在、ひきこもり支援、不登校支援について検討するなか、子どもたちの生きる力をさまざまな分野と協働して支援していく重要性を痛感した。

3. 担当者のコメント

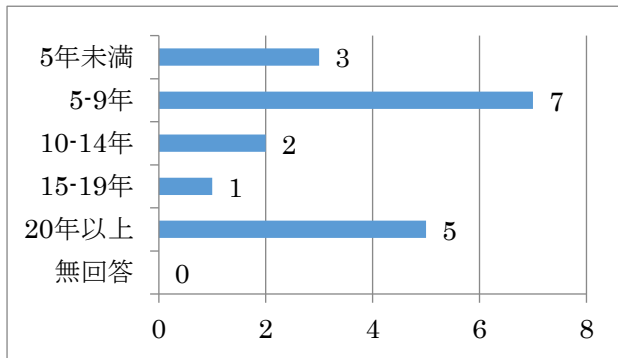
今回は、須崎市のいのちの教育、母子保健の取り組み報告を受け、グループでディスカッションを行い、全体で共有した。須崎市では、1つの事例を全庁で共有し、子ども子育てや学校教育に関わるコアメンバーによる地域診断から課題を明確にし、めざす方向性を打ち出し取り組んでいることに多くの参加者が共感した。また、親育ち、子育てを妊娠期から切れ目なく支援すること、自分、人、いのちを大切にする力、親以外に理想とする家庭を学ぶ場として、保育園、学校、地域での取り組みから、今後の「3 職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会」の活動の示唆が得られた。

1. 看護制度委員会

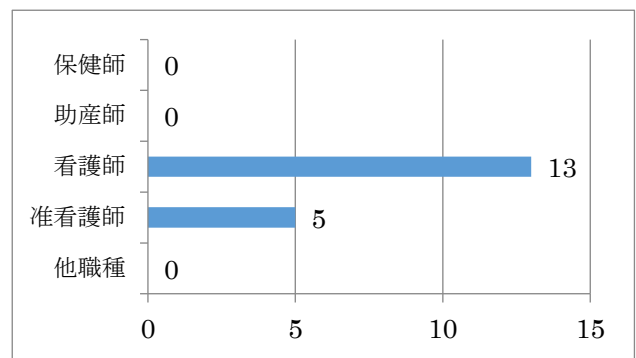
研修名	1)看護記録 ～療養生活をつなぐ看護サマリー～	
開催日時	令和5年 9月13日(水曜日)	時間 13:30～16:30
受講者数	21名(会員16名・非会員5名)	定員 21名
ねらい	送り先の目的にあった看護サマリーの書き方を理解する	
講師	細木病院 ほそぎ入退院サポートセンター 副センター長 柏井早生吏	
内容(キーワード)	サマリーのポイントを理解する 送付先に応じたサマリー記録	集合

1. アンケート結果 回答数 18名 回収率 85.7%

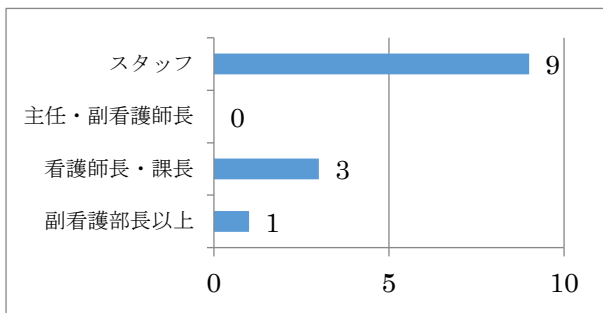
1) 経験年数



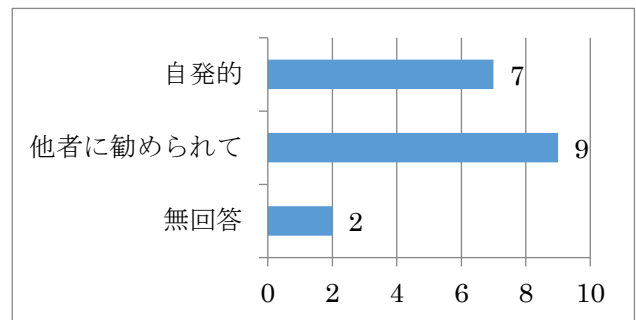
2) 職種



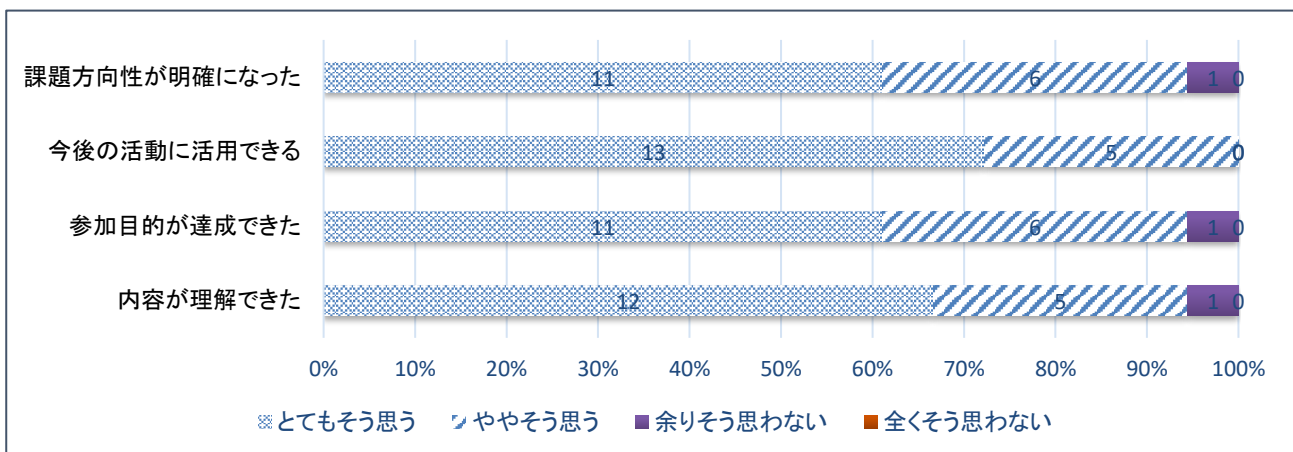
3) 職位について

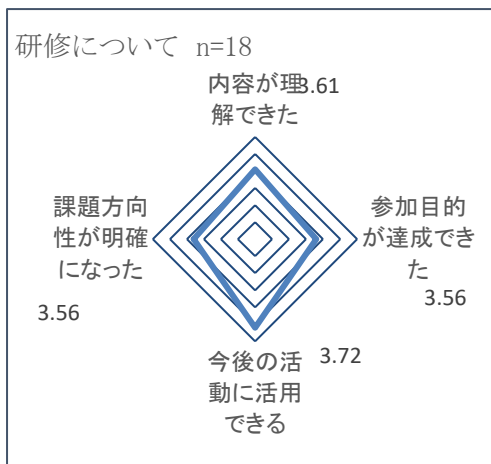


4) 研修参加について



5-1) 本日の研修について

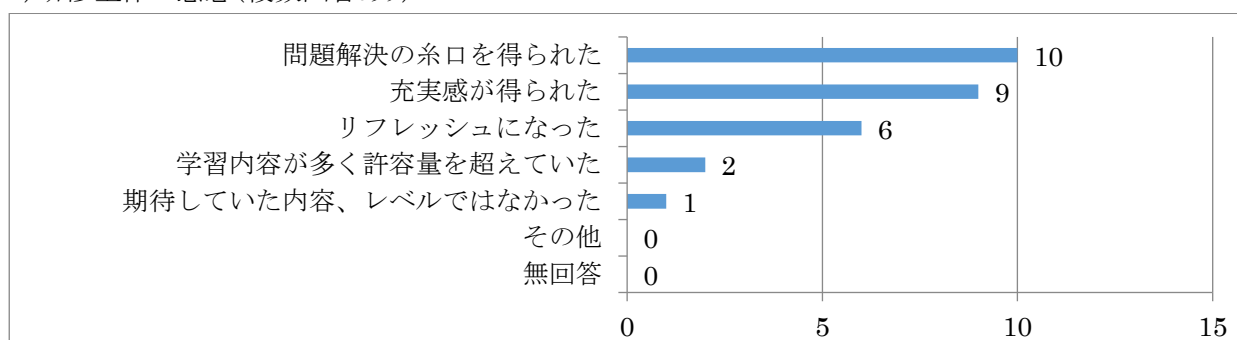




5-2) 上記を選択した理由を記載して下さい(7件の回答)

- ・分かりやすかったです。
- ・わかりやすく、明日からすぐ実践できると感じました。
- ・勉強が不足し難しくまだ自分には早かったと感じた
- ・十分に実践出来ていないと感じていたから
- ・当病院では、施設、地域への退院が多くサマリーを書くことが多いので、サマリーの書き方をしっかり学びたかったがとても分かりやすかったです。
- ・在宅に繋ぐサマリーが必要だと感じています
- ・とてもわかりやすかった

6) 研修全体の感想(複数回答あり)



2. 全体通じた意見・感想

- ・今後の看護に生かしたいと思います。
- ・今までの看護サマリーの書き方を見つめ直すことができ、今後に繋げていきたいと思いました。
- ・とても分かりやすい勉強会でした

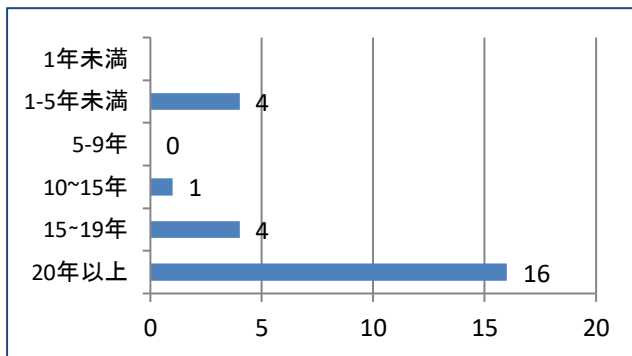
3. 担当者コメント

送り先の目的にあった「看護サマリーの書き方を理解する」のねらい通り、演習を通して療養支援を継続するためにはどんな情報が必要なのか、実践に繋がる学びになった。受講者が少なく、広報等の工夫が必要であった。

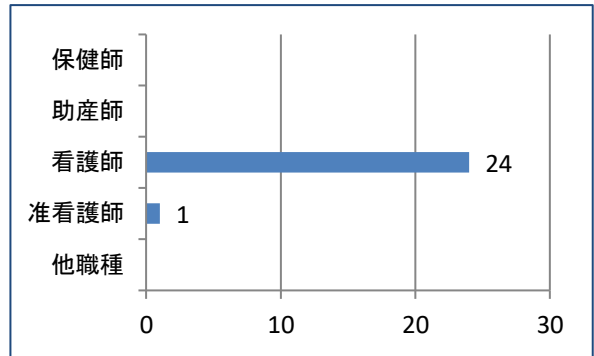
研修名	2)多様な働き方とやりがいを支える評価・処遇 (オンライン)	
開催日時	令和5年11月17日(金曜日)	時間 9:30 ~12:30
受講者数	25名 (会員23名 非会員2名)	定員 50名
ねらい	1. 看護職の賃金制度改革について理解する 2. 看護職の賃金モデルとラダーとの連動について知る 3. 多様な人材を確保・活用するための賃金処遇について知る	
講師	公益社団法人日本看護協会 労働政策部看護労働課 奥村 元子	
内容(キーワード)	多様な働き方・処遇改善・看護師キャリア開発ラダーと連動した賃金モデル	オンライン

1. アンケート結果 回答数 25 名 回収率 92.5%

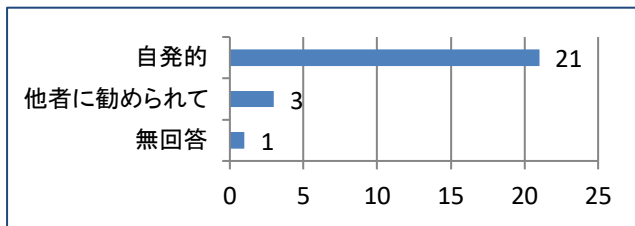
1) 経験年数



2) 職種



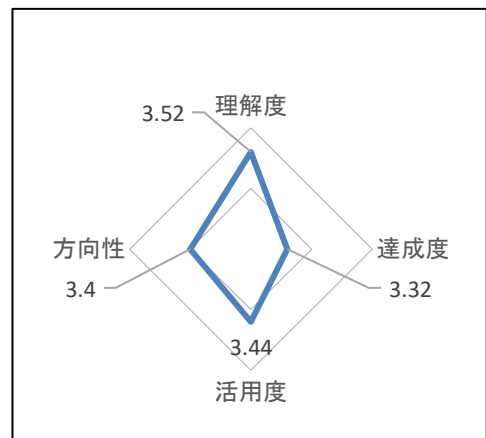
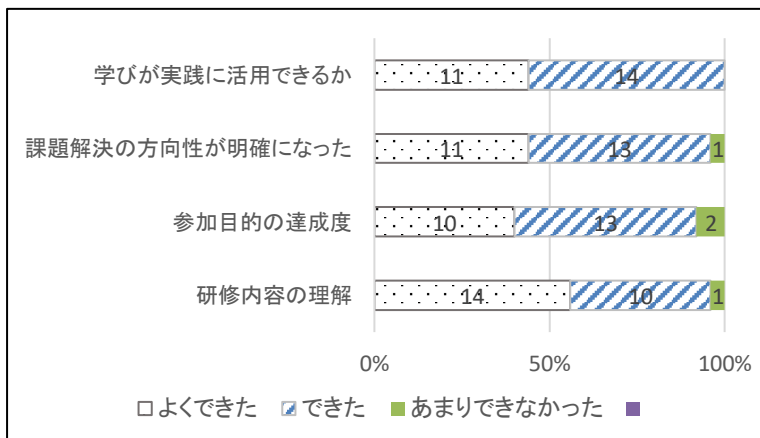
3) 参加について



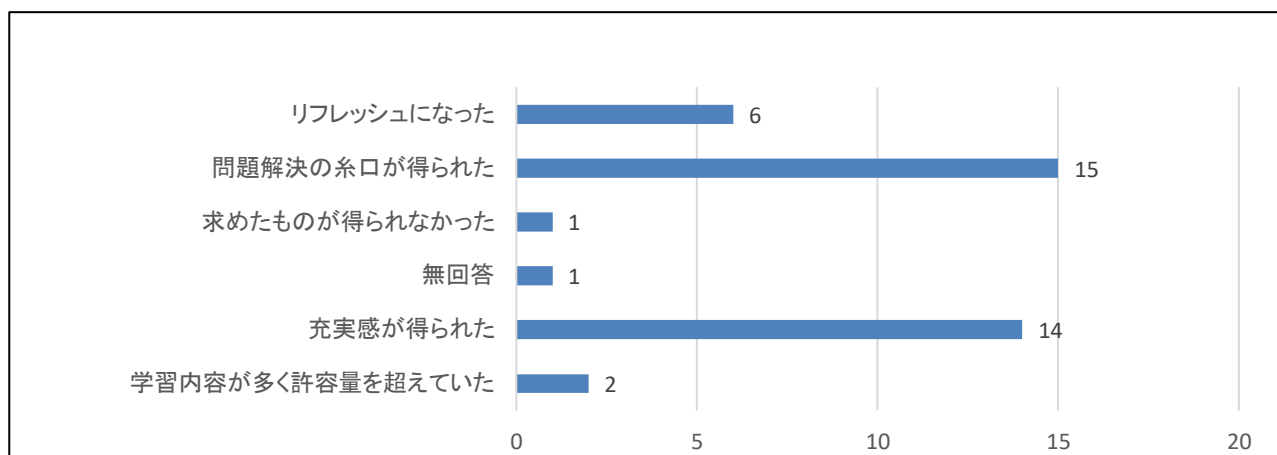
4) この研修をどのように知ったか

チラシ	11
ホームページ	6
教育計画冊子	5
口コミ	1
その他	7

5) 研修内容について



6) 本日の研修についての感想(複数回答あり)



2. 感想

- ・非常に参考になりました。賃金や処遇の適切な評価は、看護師のモチベーション向上になると思った。(2名)
- ・多様な働き方や賃金について学べたため大変勉強になった。
- ・研修は大変良かったが、事務部門への相談が必要なこと、自分の勉強不足もあることを認識した。
- ・次年度に人事考課制度の見直しと、10年以上見直ししていなかった俸給表の見直しのために、コンサルの競合に入るところで参考になった。
- ・研修も資料もわかりやすく理解できた。(3名)
- ・当院は査定すら行われておらず私達より、上司が現状を把握し変えていかなければ変えようがない。働き方の参考になった。
- ・看護職が組織内で適正な評価をされるとともに職員一人ひとりが、働きやすい、やりがいのある職場にしていきたいと思った。
- ・色々勉強したいと思った。
- ・公務員ではないため処遇を決めるのは結局経営者のため難しいと感じた。しかし色々提言していく方向性は見えた。
- ・やりがいを支える評価というものほどの年代にも大切で今回の講義のように賃金についても考え努力するものが報われるものであって欲しいと講義を受けてさらに考えさせられた。
- ・今後の自分の働き方について考えることができた。
- ・診療報酬等について知識不足な点があったためとてもわかりやすく、示唆を得た。もっと知りたいことがある。
- ・分かりやすい講義で大変いい勉強になった。今後のやるべき事が分かった。
- ・院内の師長と共有したいと思う。
- ・医療政策の方向性を理解することができた。パフォーマンスがあがる業務改革を検討したい。

3. 担当者コメント

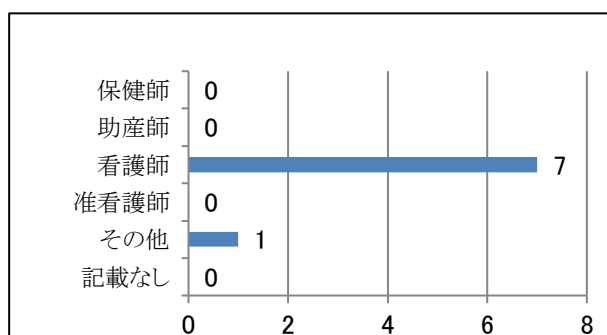
ポイントを押さえた大変分かりやすい内容であった。国の医療政策の概要を押さえ、プロセスを把握して診療報酬を読み解くという考え方も理解できた。講義の中で、講師の看護職への期待も感じられ、今回の学びを看護管理に活かすことを期待する。

2. 医療安全委員会

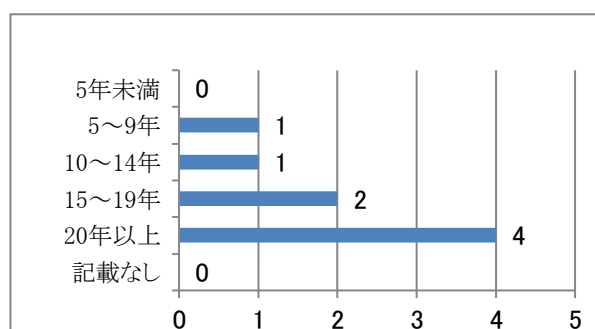
研修名	1)一緒に考えよう！医療コンフリクトマネジメント」～ 患者はなぜ怒る？～	
開催日時	令和5年8月27日(日) 時間 10:00～16:00	
受講者数	15名(会員12名・非会員3名)	定員40名
講師	医療法人聖光会鷹の子病院事務長・日本メディエーター協会シニアトレーナー 徳永 盛保	
内容	医療メディエーションの考え方を理解し、苦情の生成と その対処方法を学ぶ	講義・演習

1. アンケート結果 回答数 8名 回収率 53%

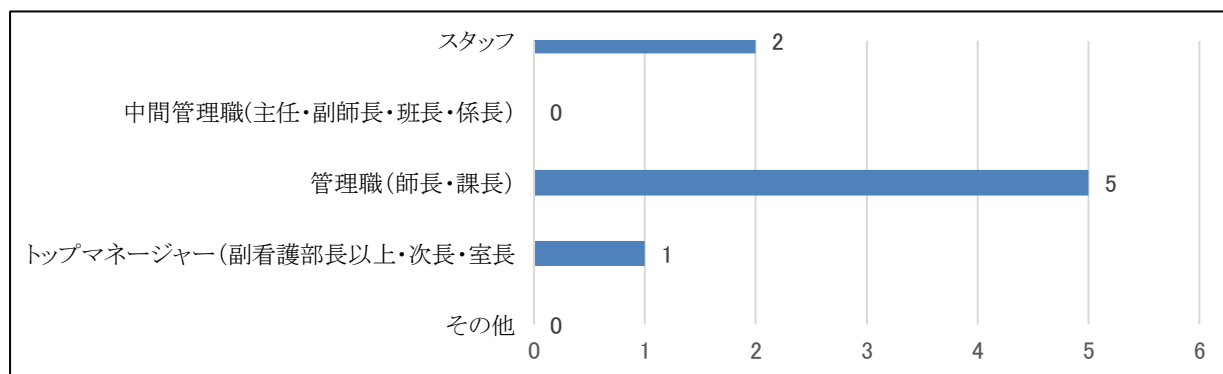
1) 職種



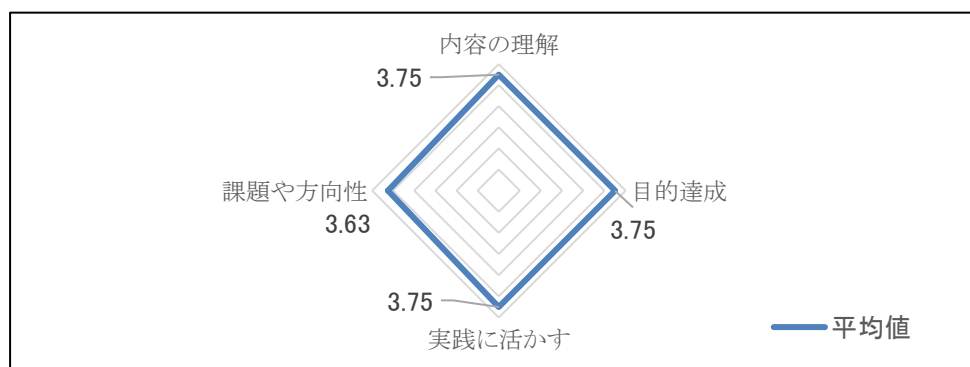
2) 経験年数



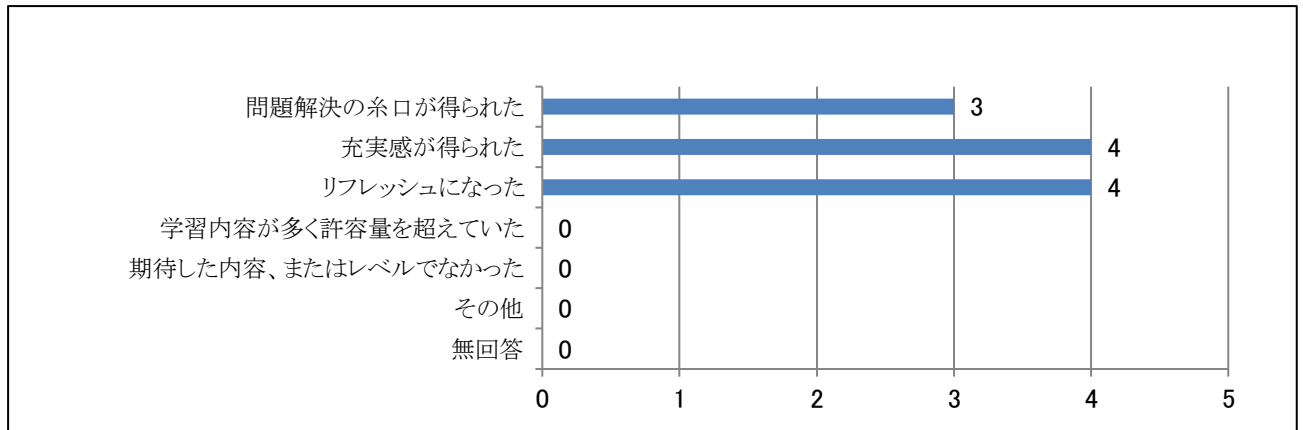
3) 職位



4) 研修内容の評価(4段階)



5) 研修全体の感想(複数回答)



2. 意見・感想(抜粋)

- ・初期対応の大切さが理解できました。
- ・講義内容は頭で理解しても、実践できるかは別問題です。相手の感情を刺激すると怒るし、またその逆もあります。相手の心情を思いやれるようになりたいと思いました。
- ・現場に活かせる研修でした。

3. 研修担当者コメント

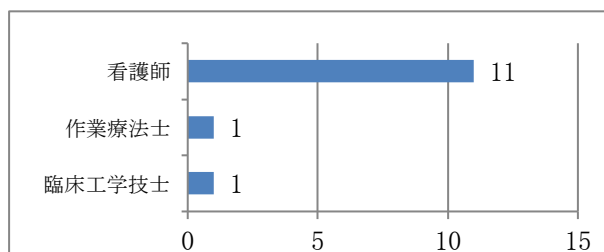
医療コンフリクトマネジメントについて、ロールプレイを通じて参加者全員で考えることができる研修となった。研修日時が学会と重なり参加者が少なかったことは残念であったが、受講生からの研修に対しての評価も高かった。

2. 医療安全委員会

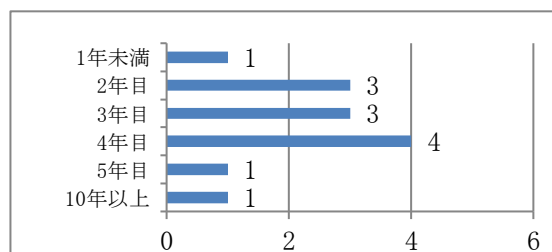
研修名	2)医療安全管理者交流会～ネットワークを築こう！～ ＜医療安全対策加算1施設対象＞	
開催日時	令和5年9月12日(火) 時間 14:00～16:00	
受講者数	14名(会員11名・非会員3名)	定員20名
講師	高知県看護協会医療安全委員会	
内容	院内のインシデントの収集～施設の取り組み紹介～ ①医師のレポート報告件数 Up を目指す取り組み ②インシデント報告活性化の取り組み	

1. アンケート結果 回答数13名 回収率 93%

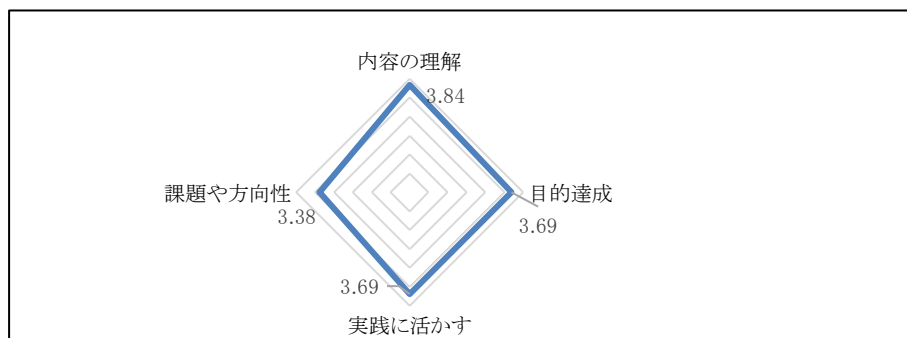
1) 職種



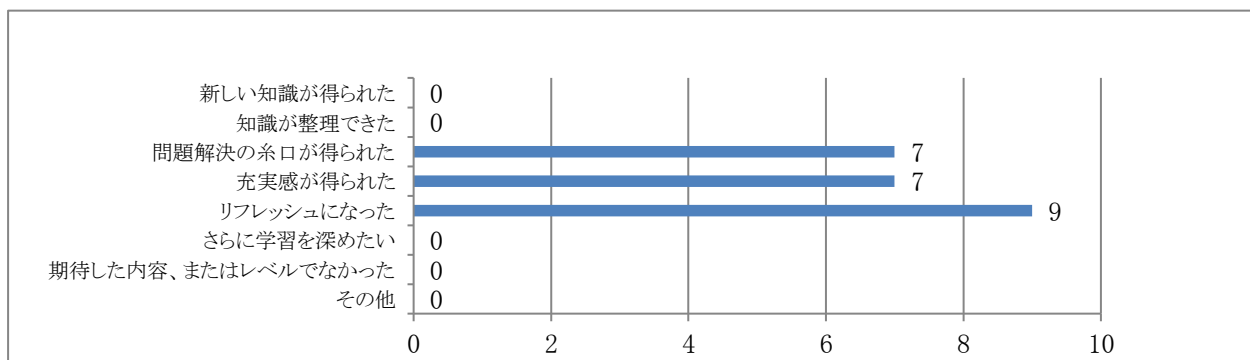
2) 専従医療安全管理者の経験年数



3) 研修内容の評価(4段階)



4) 研修全体の感想(複数回答)



2. 意見・感想(抜粋)

- 他の施設でも薬剤や、転倒などの取り組みや問題を抱えている事がわかり、共感でき参考になった。
- どうしても一人の部署なので、共感、共有できる方々がいてくれることで心強く感じた。
- それぞれの施設から、取り組みなど意見交換することで、大変参考になった。
- 日々、業務に追われて、皆さんの取り組みなど聞いてよかった。今回、開催していただき、ありがとうございました。
- 加算 1 でも、施設によって違いがあり、大変さも良くわかった。
- 他施設の状況を知ることができた。ひとりでやっている自分の考えに少なからずの不安もあったが、同じ考えを聞いたこと、その方向性での成功例などが聞いて良かった。
- このような機会を準備してくださりありがとうございました。事前に議題等収集し共有できれば、準備しておくことができると感じた。ひとりで解決できないことも相談できるようになるとありがたいことだと思った。
- 決まったテーマがあると思っておらず、準備ができていなかった。

3. 研修担当者コメント

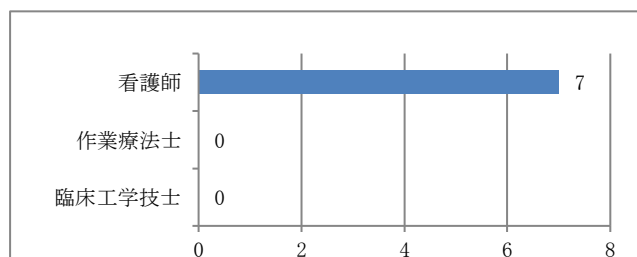
高知県下には医療安全対策加算 1 を取得している医療機関は17施設ある。今回、初めて医療安全委員会主催で専従医療安全管理者の交流会を開催した。コロナ禍で他施設との交流が制限される中で、14 施設の医療安全管理者が集まり、医療安全活動や課題について情報共有・意見交換することができた。医療安全管理者がいきいきと活動できるよう医療安全管理者のネットワークを広げていきたい。

2. 医療安全委員会

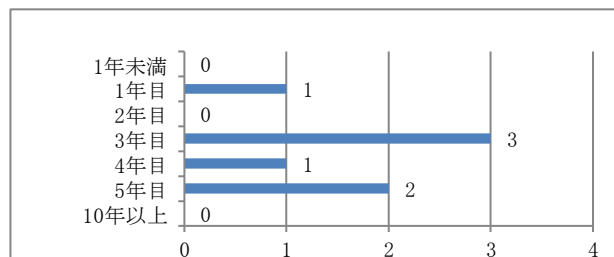
研修名	3)医療安全管理者交流会2～地域の医療安全は私たちの手で！～ ＜医療安全対策加算1・2施設対象＞	
開催日時	令和5年12月16日(土) 時間 14:00～16:00	
受講者数	15名(会員13名・非会員2名) 加算1施設:12名 加算2施設:3名	定員40名
講師	高知県看護協会医療安全委員会	
内容	誤認防止に関する取り組み紹介 ①患者誤認「ゼロ」に向けた取り組み ②2022年度の取り組み	

1. アンケート結果 回答数7名 回収率 46.6%

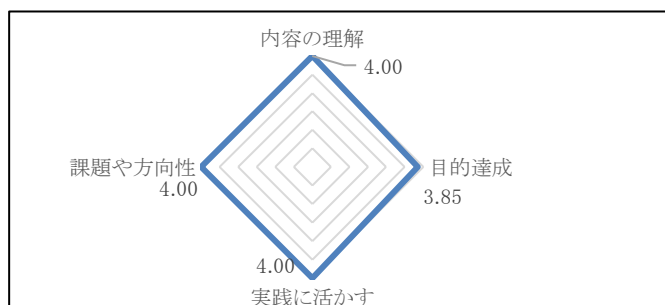
1) 職種



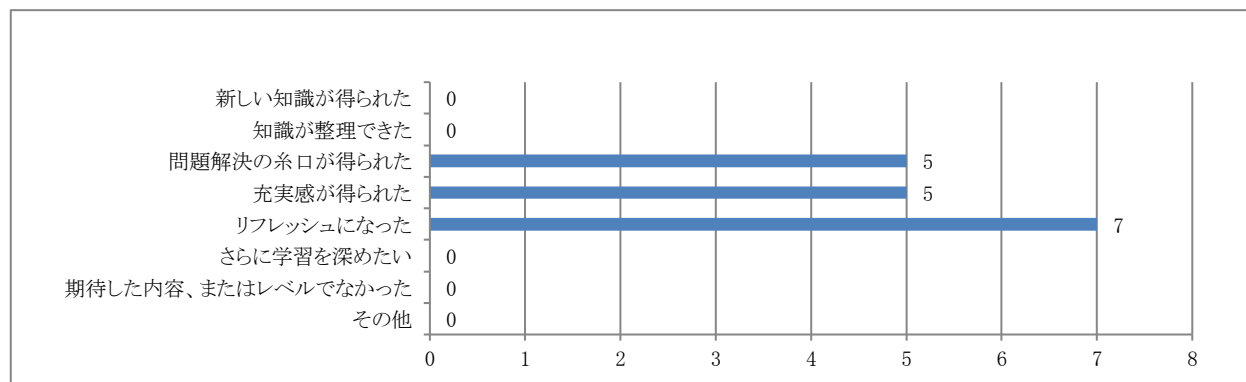
2) 医療安全管理者の経験年数



3) 研修内容の評価(4段階)



4) 研修全体の感想(複数回答)



2. 意見・感想(抜粋)

- ・感染管理認定看護師はネットワークがありいつも羨ましく思っていた。連携施設の方とは連絡を取り合っていたが、他の施設はどうされているのかとても気になっていた。今後この様な交流会が活発になればよい。

3. 研修担当者コメント

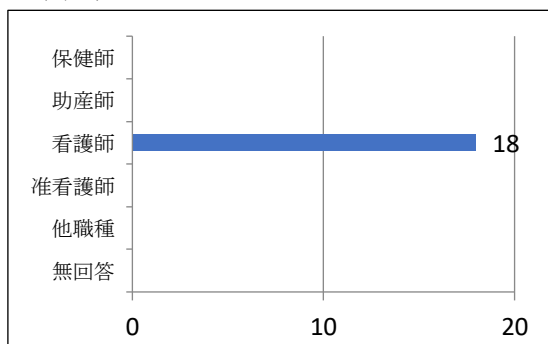
医療安全対策加算1・2を取得している施設の医療安全管理者の交流会を開催した。医療安全委員会委員2施設より取り組み報告を行い、医療安全活動や課題について情報共有・意見交換することができた。医療安全対策加算2施設の参加者が3名と少なかつたため、今後は、対象者の幅を吟味して広報を行い、高知県内の医療安全活動のネットワークを広げていきたい。

3.災害看護委員会

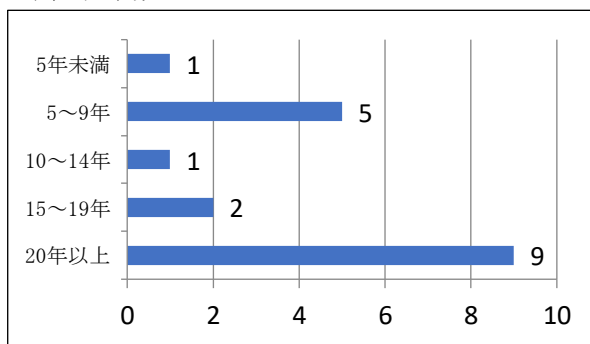
研修名	1)災害看護受援ガイドライン研修	
開催日時	令和5年8月11日(金)13:00~14:00	
受講者数	19名(会員19名) 集合:14名 オンライン:5名	定員40名
ねらい	①応援・受援の基本的な考え方が理解できる ②平時からの備え～発生時の体制を考えることができる	
講師	高知県立大学 看護学部 教授 竹崎久美子	
内容	広域自然災害 平時の備え 医療の継続 受援体制	講義

1,アンケート結果 出席者: 19名 アンケート回収:18名 アンケート回収率: 94.7%

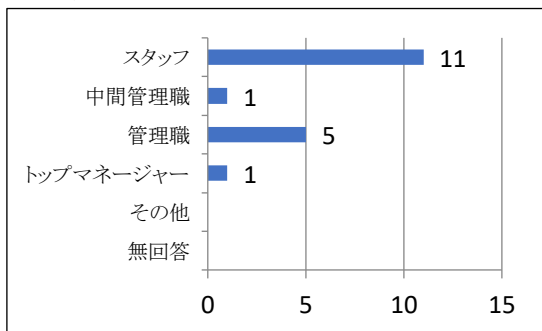
1)職名



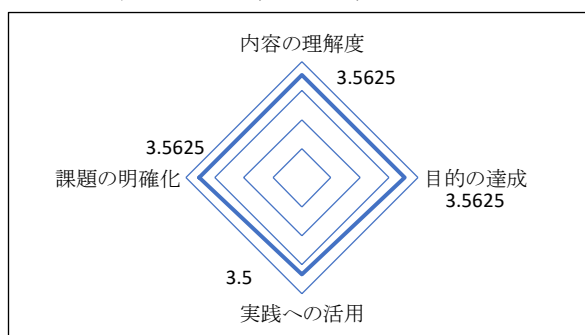
2)経験年数



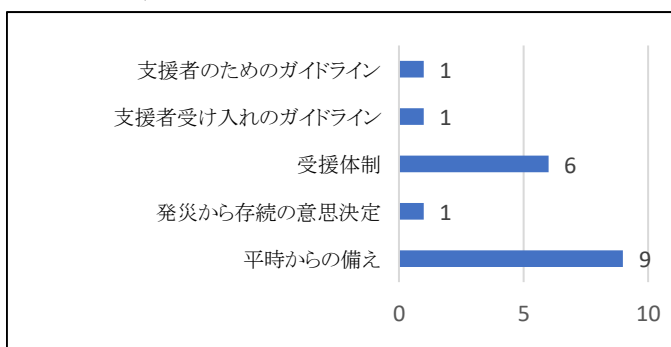
3)職位



4)内容理解,目的達成,活用度,課題の明確化



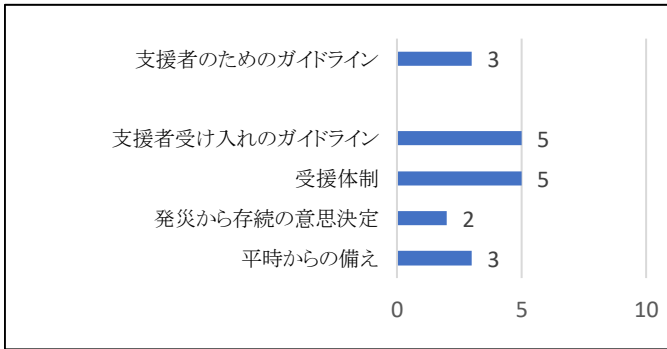
5)最も理解できた項目



◆理解できた理由(その理由)

- ・災害時の自施設のことしか、考えていた。
- ・支援を受けるための指揮が必要なことなど、分かりやすかった。

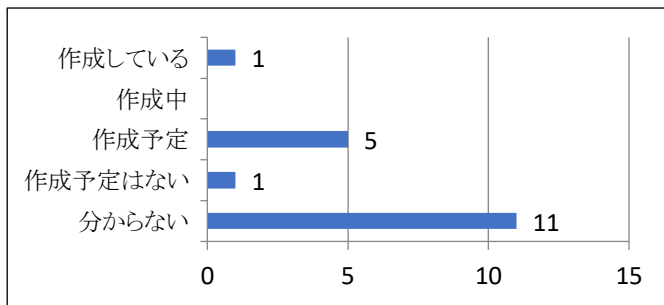
6) 特に難しかった項目



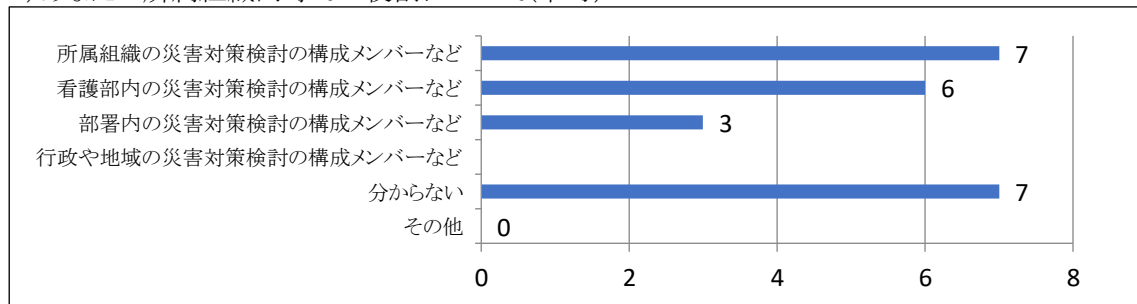
◆難しかった理由

- ・自身の所属先が施設ではなく管理者でないため、自分に置き換えて考えることができなかった。
- ・現在の業務内容について分析が必要
- ・職場で話し合いがないので知らないことが多かった。
- ・現場での同士のコミュニケーション、連携が必要になってくる。

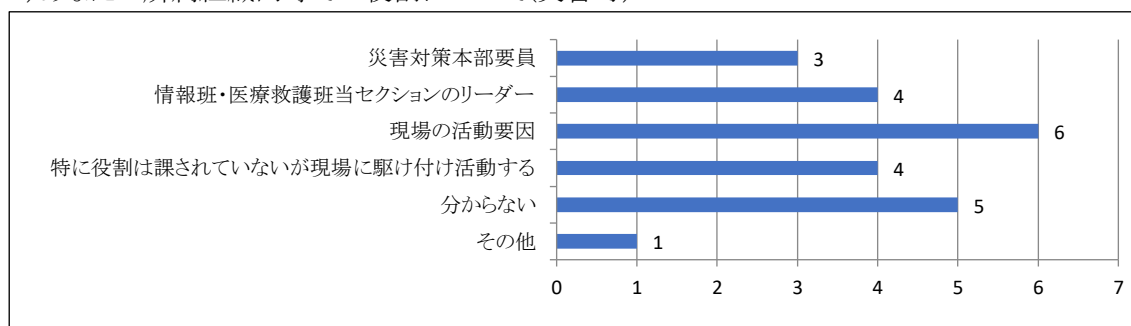
7) 受援マニュアルを作成しているか



8) あなたの所属組織内等での役割について(平時)



9) あなたの所属組織内等での役割について(災害時)



2. 意見・感想

- ・自施設での役割に活かしていきたい。

3. 研修担当者コメント

今回の研修でマニュアル作成の意識付けができ、イメージづくりに繋がり、自施設の課題や今後の方向性が明確になったと考える。

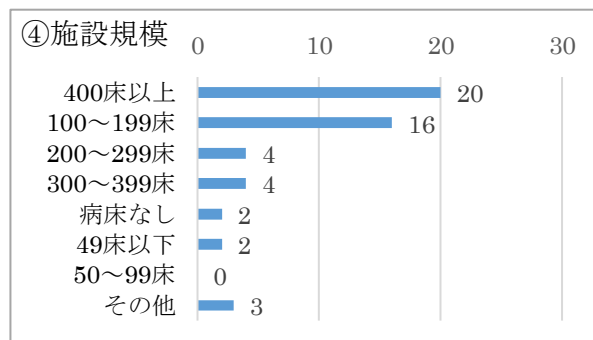
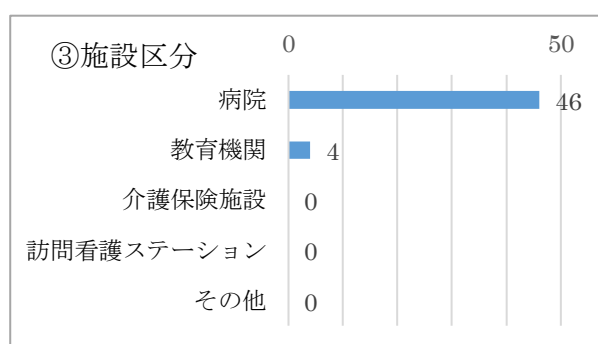
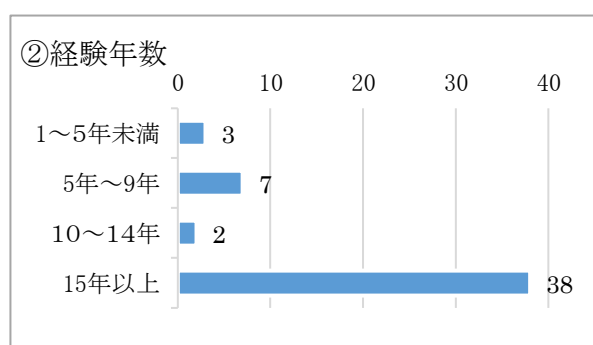
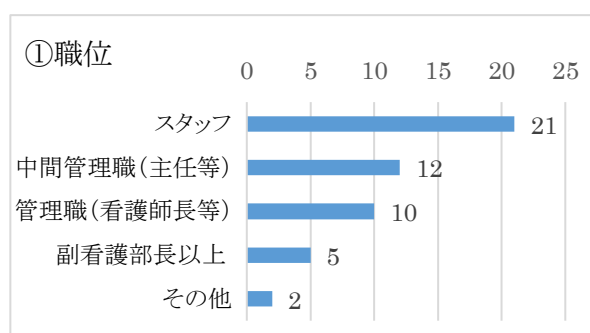
今年度はハイブリット研修で開催したが、受講者数が19名と少なく、今後の課題である。次年度は講師と災害看護委員会委員の協力を得ながら、録画配信等を検討し、受援ガイドラインの周知と各施設でのマニュアル作成の促進に努めたい。

1. 看護研究学会

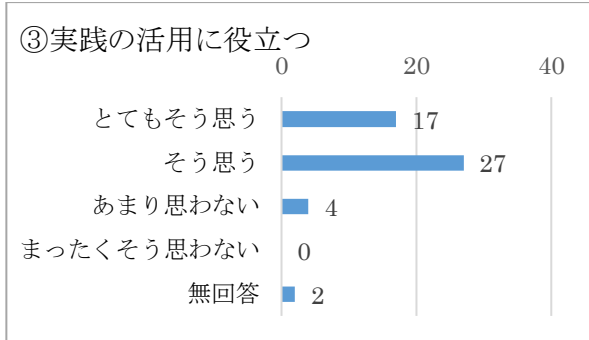
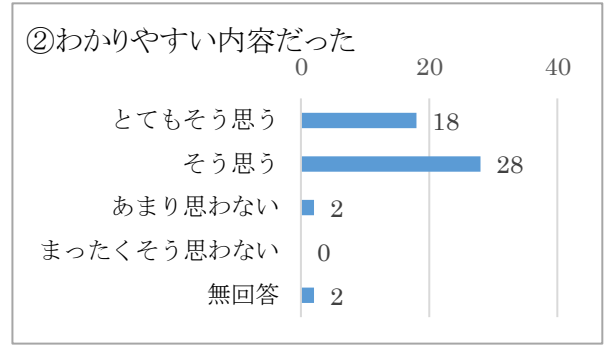
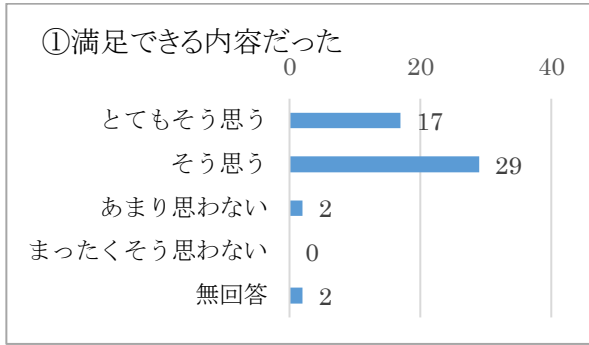
テーマ	自分らしく生きるを支える ～切れ目のない看護～	
開催日時	令和6年2月23日(金曜日)	時間 9:00～13:00
開催形式	参集	
参加者数	91名(保健師0、助産師3、看護師86、准看護師0、その他2)	
目的	県下の看護職者に研究発表及び実践活動報告の場を提供し、看護職の研究活動を推進するとともに、本県の看護の質向上を図る。	
演題	口演 22題	
プログラム	<p>I シンポジウム 高知家ONE TEAMでつなぐACP 座長 高知県立大学看護学部 特任教授 森下 安子</p> <p>シンポジスト ・行政の立場から 高知県健康対策部在宅療養推進課 課長 都築 一元 ・医師の立場から 伊与木クリニック 医師 伊与木 増喜 ・急性期病院看護師の立場から 高知大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師 佐々木 牧子 ・訪問看護師の立場から こうち看護協会訪問看護ステーション 所長 山本 明子</p> <p>II 研究発表・実践報告 第1群:教育・看護師支援 5題 第2群:看護実践・業務改善(1) 6題 第3群:連携・協働 5題 第4群:看護実践・業務改善(2) 6題</p>	

1) アンケート結果 ※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答
回答対象者 82名(研究会委員9名含む) アンケート回答 50 回答率 61.0%

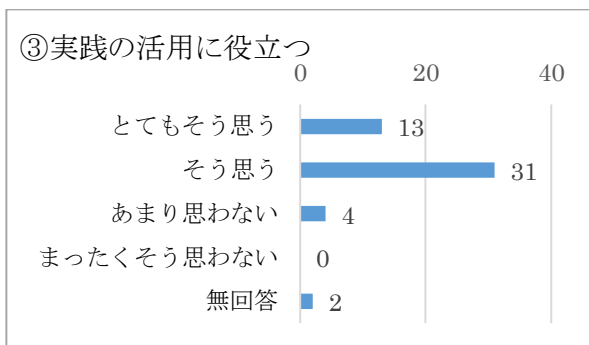
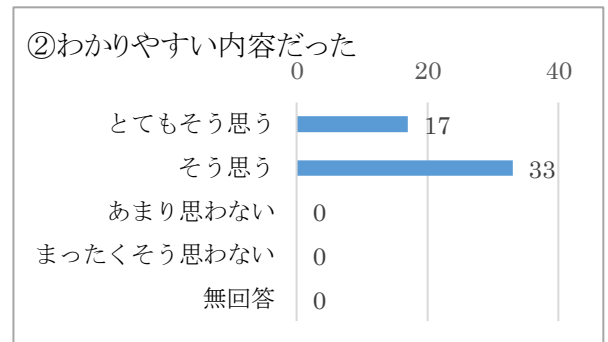
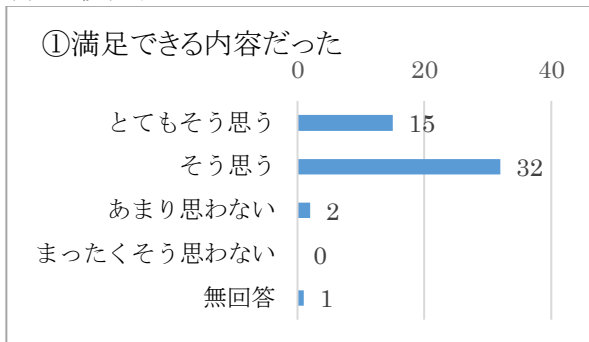
(1)参加者背景



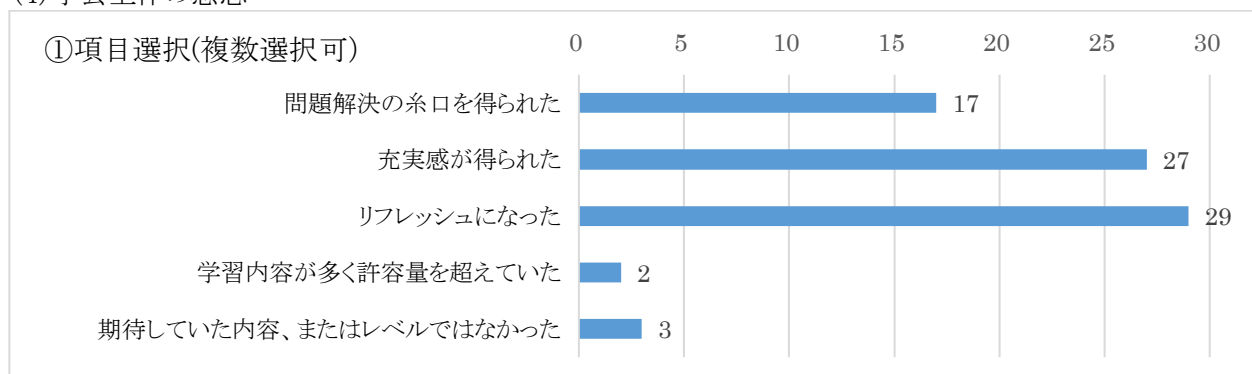
(2) シンポジウムについて



(3) 口演発表について



(4) 学会全体の感想



②自由記述

- ・ 県内の看護師の頑張る姿身近に感じられてよかった。
- ・ 予想以上に多くの方が参加してくれて良かったです。
- ・ 看護研究まだ取り組んでみたいと思いました。パワーポイントが小さすぎて見にくかったものもありました。
- ・ 久しぶりの研究発表で、緊張もしましたが 興味あるテーマもあり、刺激を受けました。
- ・ 発表者も質問された方もレベルが高く良かった。
- ・ 質問する方が少なく、寂しかったです。
- ・ 2つの会場が自由に行き来出来て良かったです。
- ・ 学び続けることの必要性を感じました。
- ・ 発表者は司会者がいる位置で発表できる方がスライド見ながらできたのではないかなと思います。
- ・ 現在社会にそった内容で多岐に渡りとても勉強になりました。
- ・ 研究発表も時代がかわってきたなと感じました。
- ・ 垣根が高くなく参加しやすい。
- ・ 演題発表は登壇すればそのまま発表するように説明書には書かれていましたが、前者のスライドが画面に表示され、自分でスライドを開いて始めなければなりませんでした。そのため、時間オーバーとなりました。
- ・ 看護に対する新しい考え方、医療の進歩を勉強する場となりました。
- ・ 色々な取り組みや具体的な看護実践の関わりが聞けてとても充実した日になった。
- ・ 半日で時間的にとても参加しやすかったです。自分の経験外の分野に触れることもできとても勉強になりました。また、退院支援について改めて考えさせられ病棟看護師としてできることを考えて行動していきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ パワポに音が流れたりするのは研究学会としてどうかと思いました。
- ・ 様々な分野の発表を聞かせていただき、大変勉強になりました
- ・ 活発な意見交換もでき、充実していた様に思います。今後の看護研究に活かしていきたいです。
- ・ 看護の活動範囲の幅はとても広いと改めて実感しました。
- ・ 大変参考になる内容でした。特にシンポジウムの ACP については、勉強になりました。
- ・ 以前より、参加者が減少したように思いました。

2)研修担当者コメント

令和5年度看護研究学会は参加者数91名で4年ぶりの参集開催となった。

高齢化が進み人口や医療機関が偏在する県下において看護職の連携を意識し、テーマを「自分らしく生きるを支える ～切れ目のない看護～」と掲げた。シンポジウムは、万が一の時に備えて、人生の最終段階をどう過ごしたいかを支える「人生会議」における連携を、行政・医師・急性期病院・訪問看護師の立場から提言頂いた。県下の取り組みの現状を参加者で共有できる機会は今後の連携に示唆が得られ有意義な時間となった。尚、アンケートの意見に、「退院支援時に今後さらに相互につないでいく取り組みができればと思う。」の声もあり連携が再認識された内容となった。

研究発表・実践報告は22演題と多数の演題応募を頂いた。内容も教育、看護師支援、看護実践、業務改善、

連携、協働等多岐にわたるものであった。また、アンケートの「実践への応用に役立つか」の問いに、約 88.5%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と答えており、今回の発表が臨床現場で活用されることを期待している。

研究会開催にあたり、ご協力をいただいた座長・発表者、参加者の皆様に心から感謝申し上げます。

地区支部看護研究発表会

【幡多地区支部】令和5年度 第28回看護研究学会

日時:令和6年2月17日(土) 14:00～16:40

場所:木俣病院 会議室

開催方法:ハイブリッド方式(ZOOM)

プログラム

開会あいさつ 高知県看護協会 会長 藤原 房子

第Ⅰ群 座長: 足摺病院 平井 尚子

1. 病院から介護医療院併設透析クリニックへ転換後の課題と取り組み ～働きやすい職場を目指して～
幡多クリニック 澤田 萌花
2. 在宅医療が必要な患者・家族への問題解決アプローチ ～病棟看護師に求められる支援～
竹本病院 岡本 真美
3. 病状説明を受けた患者家族の思いの多職種間による共通認識 ～内科・循環器病棟でのインタビュー調査～
幡多けんみん病院 村松 領子
4. 多職種で連携し入院患者の退院支援に繋がるカンファレンスシートを作成することができる
筒井病院 和田 みなみ
5. 当院一般病棟における手指消毒剤使用の現状と課題
渭南病院 太田 あけみ

第Ⅱ群 座長 渭南病院 濱崎 みか

1. 認知症治療病棟の新型コロナ感染の発生から収束まで ～2度のコロナクラスターを経験して～
聖ヶ丘病院 川口 真巳
2. 経管栄養チューブ汚染防止に向けての取り組み 幡多希望の家医療福祉センター 松本 伸一
3. スキャン式持続血糖測定器(リブレ)の有用性と行動変容につながった1症例
～リブレに対するスタッフの認知度調査及び、使用患者の使用に関する調査から～
四万十市立市民病院 岡村 加代子

4. 当院における高齢者の保湿全身ローションによる保湿効果の検証 大月病院 萩原 由香

5. 介護医療院から在宅での看取りを経験した家族の思い ～家族の語りから見えてきた私たちの課題～
介護医療院おおいだ 新谷 志保美

閉会挨拶 幡多地区支部長 伊賀 世起

閉会

【須崎・窪川地区、吾川・佐川地区支部】 保健・福祉・医療実践発表会

日時:令和6年2月3日(土) 13:00～16:00

場所:須崎市立市民文化会館

新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止

1 看護職員等研修事業

研修名	1) 保健師助産師看護師実習指導者講習会		
開催日時	令和5年8月7日(月)～11月2日(木)のうち33日間(189時間) 時間 9:30～16:30		
修了者数	31名(会員30名・非会員1名) 職種(助産師1名、看護師30名)	定員 50名	
目的	看護教育における実習の意義ならびに実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるように必要な知識、技術を習得する		
講師	研修日程表 下記表1参照		
内容	研修科目・時間数・内容 別添表2参照	講義・演習	

表1 講習会日程表

は公開講座

月日	曜日	午前 9:30～12:30	午後 13:30～16:30
8/7	月	講習会全体のオリエンテーション (開講式終了後～)	医療看護の動向と展望 高知県看護協会 会長 藤原 房子
8/8	火	教育原理 高知大学教育研究部 教授 岡谷英明	
8/9	水	教育原理(教育制度の観点から) 高知大学教育研究部 助教 柴田里彩	
8/10	木	教育原理(学習科学の観点から) 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗	教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗
8/21	月	教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗	
8/22	火	教育方法 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗	
8/23	水	発達心理 高知大学人文社会科学部 准教授 渡邊ひとみ	
8/24	木	教育心理 高知大学教育研究部 准教授 福住紀明	
8/28	月	教育心理 高知大学教育研究部 准教授 福住紀明	教育評価(教育評価の理論) 高知大学教育研究部 准教授 福住紀明
8/31	木	教育評価(教育評価の理論) 高知大学教育研究部 准教授 福住紀明	
9/5	火	教育評価(教育評価の実践) 高知大学教育研究部 准教授 野中陽一朗	
9/6	水	看護倫理(概論) 高知県立大学看護学部 准教授 藤代知美	
9/7	木	看護倫理(演習) 高知県立大学看護学部 講師 有田直子	セルフケア理論 高知県立大学看護学部 助教 中井有里
9/14	木	看護論 高知県立大学看護学部 教授 池添志乃	家族ケア 高知県立大学看護学部 教授 長戸和子
9/15	金	実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 教授 山脇京子	
9/19	火	看護教育課程 高知大学医療学系看護学部門 講師 下元理恵	実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 准教授 佐藤美樹
9/20	水	実習指導の原理 高知大学医療学系看護学部門 准教授 中野葉子	
9/21	木	基礎看護学 高知大学医療学系看護学部門 准教授 笹岡晴香	ヘルスプロモーション 高知県立大学看護学部 准教授 小澤若菜
9/22	金	母性看護学 高知県立大学看護学部 教授 渡邊聡子	小児看護学 高知県立大学看護学部 准教授 高谷恭子

10/2	月	看護教育課程	高知大学医療学系看護学部門	講師	下元理恵
10/3	火	看護教育課程 高知大学医療学系看護学部門 講師 下元理恵	成人看護学	高知大学医療学系看護学部門 准教授 佐藤美樹	
10/4	水	精神看護学 高知県立大学看護学部 教授 田井雅子	/		
10/5	木	在宅看護学 高知県立大学看護学部 准教授 川上理子	看護教育課程	高知大学医療学系看護学部門 講師 下元理恵	
10/6	金	老年看護学 高知県立大学看護学部 教授 竹崎久美子	実習指導の評価	高知学園短期大学看護学科 講師 東麻奈美	
10/16	月	実習指導の評価	高知学園短期大学看護学科	講師	東麻奈美
10/17	火	カンファレンス指導法 高知学園短期大学看護学科 講師 竹内浩美	実習指導の実際 (Gワーク)		
10/18	水	カンファレンス指導法 高知学園短期大学看護学科 講師 竹内浩美	実習指導の実際 (Gワーク)		
10/19	木	実習指導の実際 (Gワーク)	模擬カンファレンス準備		
10/20	金	実習指導の実際 (模擬カンファレンス含)			
10/30	月	実習指導の実際 (Gワーク)			
10/31	火	実習指導の実際 (Gワーク)			
11/1	水	実習指導の実際 (Gワーク)	発表会準備		
11/2	木	発表会	閉講式		

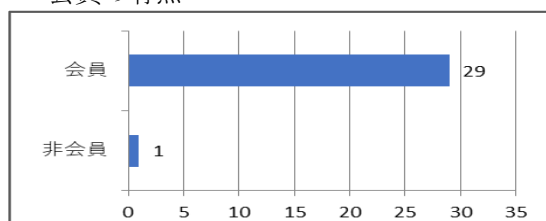
表2. 令和5年度 保健師助産師看護師実習指導者講習会 科目・時間数・内容

区分	科目	単位数	時間数	目標及び内容	
基礎分野	教育の基盤	教育原理	1	15	教育の本質の基本知識、概念及び必要な理論を学ぶ。 ・教育の本質、目的 ・教育活動の特性
		教育方法	1	15	教育方法の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・授業形態、教育方法及び教材の活用 等
		教育心理	1	15	人間の発達と学習過程における心理的特徴についての 基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・成長発達に伴う学習者心理の理解 ・学習過程における心理 等
		教育評価	1	15	教育評価の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・教育評価の目的と方法 ・講義・演習・実習評価の方法 等
専門分野	看護論	看護論	1	15	人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、看護に ついての視野を広げ、自己の看護観を明確にする。 ・看護の機能と役割 ・看護場面と看護観の再構成 ・健康の概念と健康支援 ・倫理的課題とその方法 等
		看護教育課程論	1	15	看護師等養成所の各教育課程の概要を学び実習指導 につなげる。 ・教育課程の基礎知識 等
	実習指導の基盤	実習指導方法論 (評価を含む)	2	30	実習指導案について理解し、教授方法を学ぶ。 ・実習指導の方法 ・実習評価の意義と方法 等
		実習指導方法演習	2	60	実習指導の展開の実際を学ぶ。 ・実習指導案の作成及び評価 (過程別、学年別、専門領域別等) ・実習の評価 等 等
					領域・対象別看護 3 基礎看護 3 成人看護 3 老年看護学 3 家族看護 3 小児看護 3 母性看護 3 精神看護 3 在宅看護
				36	指導案の作成 ・実習指導の展開について理解を深め演習等を通して 実際を学ぶ ・領域別の三観、週案、日案、場面設定指導案、カン ファレンス指導案を作成
		10	180		
その他			9		
			3	医療・看護の動向	
			6	オリエンテーション・発表・閉校式	
合計			189		

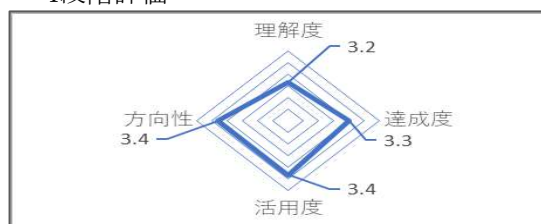
1. アンケート結果

配布:30名 回収:30名 回収率:100%

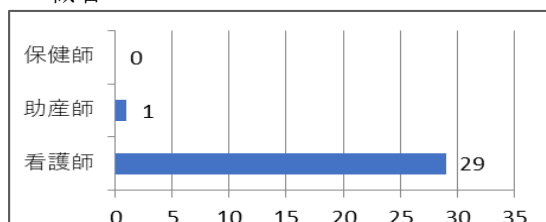
会員の有無



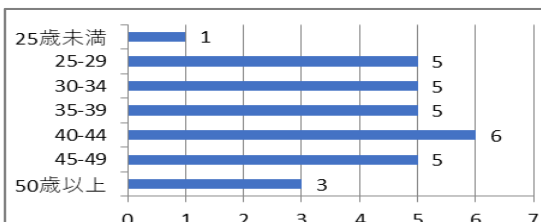
4段階評価



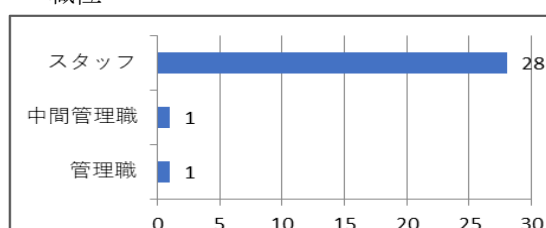
職名



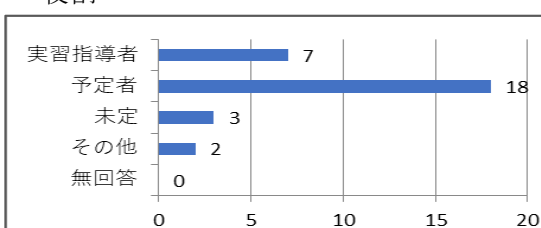
年齢



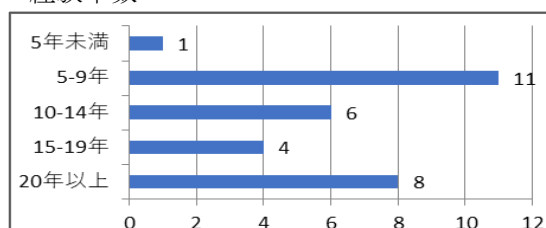
職位



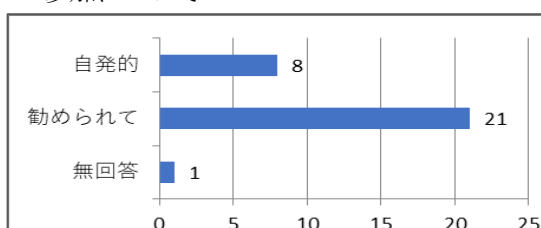
役割



経験年数



参加について



2. 感想・意見等(抜粋)

- ・今の学生の実態や教育方法を学び、実習指導で活用できる指導法を知ることができた。
- ・自分の課題が明確になった。
- ・教育とは何かを知ることができ、自分の経験、知識として身につける事ができて良かった。
- ・講師の話がとても分かりやすく、聞いている側を配慮してくださっているなどとても感じた。細かい気づかいや声掛けがとてもありがたく、気持ちよく受講することができた。
講義内容では興味深い事を知ることができ、今後の指導に反映していきたい。
- ・漠然と思いついて「こんな実習にしたい」という思いを、より具体的なモノにすることができた。
自身がロールモデルであり続けること、看護師や指導者は決して学生の敵ではない、恐れる存在ではないこと、学びの伴奏者であることをしっかりと示し、有意義な実習を一緒に作っていききたい。

3. 担当者コメント

本年度は18施設から31名が修了した。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類対応になり、8月から始まった本講習会は、基本的感染対策を遵守しながら4年ぶりに集合のみで開催することができた。「他病院の方々と交流が持て、久しぶりにグループワークもたくさんできて良い時間になり、参加できて良かった。」という意見が多く、集合形式の重要性を再認識した3か月であった。

本講習会の次回開催は令和7年度である。可能な限り集合形式をとりながら受講生のネットワークの構築につながるよう、意見交換や交流が図れるような新たな形式等の企画が必要と考える。

研修名	2)多施設合同研修
開催日時	令和5年4月14日(金)～7月29日(土)のうち14日間
受講者数	延べ828名(会員47名、非会員781名) 実人数169名(助産師2名、看護師151名、准看護師16名)
目的	新人看護職員研修ガイドラインに沿った研修を補完するために、基礎的知識・技術、態度を習得し、先輩看護師の支援のもとに職場に適応して就業が続けられることに役立つ。また、研修を通して、他施設の新人看護職員との交流、意見交換の場とする。
その他	開催日時、受講者数、ねらい、講師、内容については1. 計画書参照

1. 多施設合同研修計画書

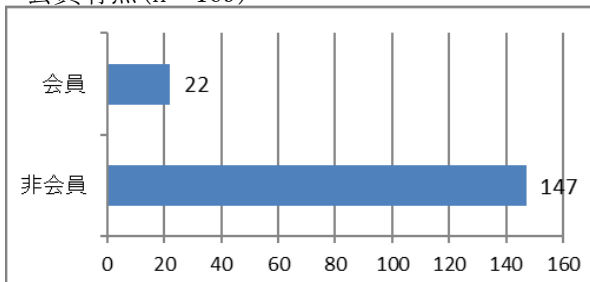
令和5年度多施設合同研修プログラム (実施済)							
テーマ	ねらい	内容	方法	講師名	開催日時	募集数	参加者数
医療安全の基礎知識	ヒューマンエラーの考え方を理解し実践できる	1. 医療安全の基礎知識 2. 組織で取り組む医療安全 3. 医療安全のためのKYT (グループワーク)	講義	伊勢田純子 高知赤十字病院 医療安全管理者	4/14(金) 9:30～ 12:30	80名	99名
魅力ある看護専門職に成長するために	社会人として、専門職業人として成長していくための心構えをもつことができる	1. 看護の動向 2. 専門職業人としての第1歩 3. 看護協会の役割について	講義	藤原房子 高知県看護協会会長	4/14(金) 13:30～ 16:30	80名	104名
感染管理の基礎知識 (1回目)	感染管理の基本的な考え方や実技を学び実践できる	1. 標準予防策と感染経路別予防策 2. 手指衛生と个人防护具について 3. 職業感染防止	講義 + 演習	森田安世 白菊園病院 感染管理認定看護師 アシスタント2名/日 調整中	4/27(木) 9:30～ 16:30	各50名	105名
感染管理の基礎知識 (2回目)					4/28(金) 9:30～ 16:30		
注射・輸液 (1回目)	点滴静脈注射の実施方法と適正な機器の使用方法を学び実施できる	1. 点滴静脈注射の実施手順 2. 点滴静脈注射に使用する輸液ポンプ・シリンジポンプの適正使用と注意事項 3. 点滴静脈注射の実施	講義演習	三谷 卓史 テルモ株式会社 四国支店高知県担当 指導者8名/日 調整中	5/25(木) 9:00～ 17:00	各32名	115名
注射・輸液 (2回目)					5/26(金) 9:00～ 17:00		
注射・輸液 (3回目)					5/27(土) 9:00～ 17:00		
フィジカルアセスメント (1回目)	身体をアセスメントをするための基礎的な知識と技術を学ぶ	1. フィジカルアセスメントとは 2. バイタルサインの意味 3. 呼吸・循環のフィジカルアセスメントに必要な知識 4. フィジカルアセスメントの基本技術 (問診, 視診, 触診, 打診, 聴診)	講義演習	池島真由美 近森病院 急性-重症患者看護専門看護師 アシスタント2名/日 調整中	6/14(水) 9:30～ 16:30	各30名	128名
フィジカルアセスメント (2回目)					6/15(木) 9:30～ 16:30		
フィジカルアセスメント (3回目)					6/16(金) 9:30～ 16:30		
救急対応 (1回目)	救急看護の知識を理解しエビデンスに基づいた救命技術が実践できる	1. 急変対応に必要なフィジカルアセスメント 2. BLSとAED 3. シナリオによる救急対応の実際	講義演習	大麻康之 (午前) 高知医療センター 救急看護認定看護師 寺尾浩 (午後) 高知赤十字病院 救急看護認定看護師 インストラクター8名/日 調整中	7/12(水) 9:30～ 16:30	各40名	144名
救急対応 (2回目)					7/13(木) 9:30～ 16:30		
救急対応 (3回目)					7/14(金) 9:30～ 16:30		

メンタル ヘルスケア (1回目)	ストレスとうまく付き合い、乗り越えるための対処方法を理解できる	1. リアリティショック 2. メンタルヘルスの基礎知識 3. ストレス対処方法 4. 仕事を楽しく続ける自分を 目指そう 5. 自分を元気に	講義 演習	中井 有里 高知県立大学 精神看護学領域助教	7/28(金) 9:30~ 16:30	各 55名	133名
メンタル ヘルスケア (2回目)					7/29日(土) 9:30~ 16:30		
*対象は免許取得後、初めて就労した1年未満の看護職員です。					募集計	676名	
*「感染管理の基礎知識」・「メンタルヘルスケア」は2回、					参加者	828名	
「注射・輸液」・「フィジカルアセスメント」・「救急対応」は3回、同じ内容です。					達成率	122.5%	
*募集人員を超えた場合、参加人数を調整し看護責任者に連絡させていただきます。							

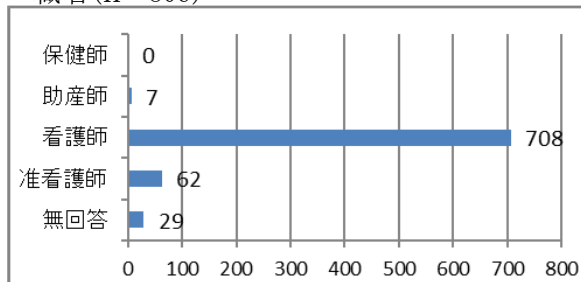
2. アンケート結果

出席者:828名 アンケート回収:806名 アンケート回収率:97.3%

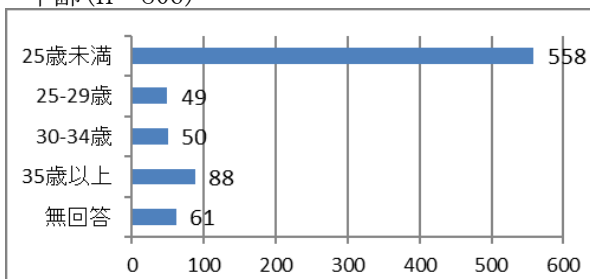
会員有無(n=169)



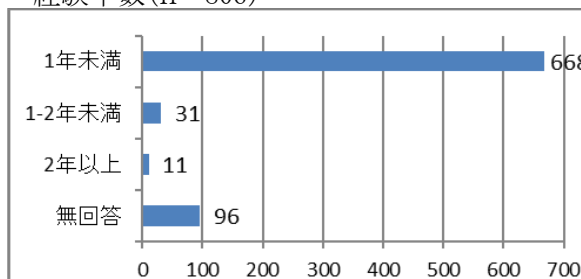
職名(n=806)



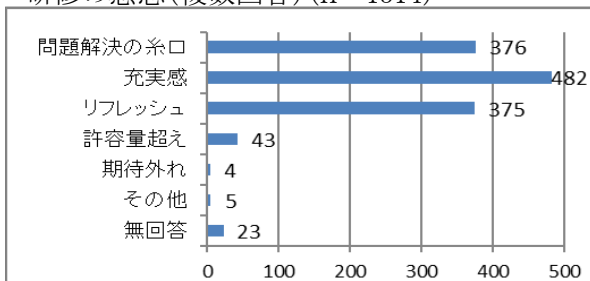
年齢(n=806)



経験年数(n=806)



研修の感想(複数回答)(n=1314)



4段階評価(n=806)



【感想・ご意見】(一部抜粋)

<医療安全>

- 日々の業務の中で起こりえるインシデントについて知ることが結果的に患者の安全を守ることにつながる事が分かった。
- インシデントや危険な事故になるようなこともしってしまったことがあった。今回の研修で、人間とはどういう特徴があって、だからこそどういったことに注意して看護業務をしていかなければいけない、ということが分かりやすく納得して話を聞くことができた。
- 自分で気を付けている事でも実際に話を聞いたり、現場に出たりすると意外と周りが見えていないことが多いと感じた。KYTのように例を取り上げることでいろいろなことが見えてきたり、他職種とのコミュニケーションにより新たな視点が見えてきたり、たくさんの考えが得られることが分かった。当病院でもこのような研修を定期的に導入するのも良いと思った。

<魅力ある看護専門職に成長するために>

- 新人ナースとして病院の仕組みや作業を覚えることで頭いっぱいになるが、どの場所に行っても”社会人としてのマナー”は新人の私たちにもすぐに取り組める事なので、この講義をふまえて自身の態度を振り返ってみようと思う。
- 高知県の看護の現状、日々の態度など自分達が頭に入れておかなければいけないことが学べた。これらを活かし日々の業務の質を高めていきたいと思う。
- 魅力ある、理想の看護師になれるように、日々向上心をもって働きたいと思う。

<感染管理>

- 私たちが普段から意識してないような動作でも感染しそうなことが多いと思った。患者さんや他の感染源とならないよう再度自身の行動を見つめ直す機会となった。また頻繁に洗えないもの等は特に気を付けなければいけないなと感じた。
- 清潔、不潔についての意識を高めることができた。
- 環境整備や防護具の選択など、一つ一つ確認した上で確実に正確に実践していきたい。

<注射・輸液>

- ・シリンジポンプ・輸液ポンプの手順について、詳しく学ぶことができた。病棟で活かしたい。
- ・病棟ではあまり時間がなくて、きちんとできていない所もしっかり細かい所まで教われたので良かった。今日言われたことを忘れず再度振り返ってやってみようと思う。
- ・実技もあって良かった。今回のような実技ありの研修を今後もしてもらいたい。
- ・今回のようにグループワークで活動できる研修に参加したい。

<フィジカルアセスメント>

- ・フィジカルアセスメントをしているようで、全然、広い視野で見えてない事がまだまだあるなど改めて実感した。報告する時には簡潔にまとめて伝えないといけないため、文章能力と知識も必要不可欠であり、これからもどんどん書いて慣れていこうと思った。
- ・学生時代の講義を思い出した。今思えば、学生時代に勉強してきたことが無駄ではなかったと、改めて思えた。新人だからこそ基礎を大事にしていくべきだと思った。
- ・現場では、今回の研修のようにじっくり「フィジカルアセスメント」を学ぶことができていなかったのも勉強になった。また、事例を用いたアセスメントやI-SBAR報告も参考になり、現場で活用したいと思う。

<救急対応>

- ・講義内容がとてもわかりやすかった。ワークも段階的でとてもよく理解できた。
- ・インストラクターさんが優しく教えてくださり、楽しく学ぶことができた。
- ・急変時の観察ポイントや医師へ簡潔に報告するポイント、心肺蘇生についてよく分かった。
- ・急変時の初期対応の基本やBLSの技術について学ぶことができ、実際に急変に当たった時に必要な対応がとれると思った。
- ・報告、連絡、相談とたやすく言葉にするが実際すると難しいと感じた。新人の頃は総合して判断することは不可能だと思うので、一つずつ分けて考えて伝えようと思う。

<メンタルヘルスケア>

- ・就職して仕事に慣れ始めたこの時期が1番疲れるので、この研修に来て良かった。
- ・作業に没頭するリフレッシュが楽しかった。
- ・自分が気付いていないうちに色々なストレスを抱えていることが分かった。自分のストレスコーピングの特性が理解できたため、それに順じたストレス対処法をしていきたいと感じた。
- ・グループワークの時間もあって知らない人達と話し、同じ悩みを抱えていて自分一人だけが悩んで壁にぶつかってるのではないと思えた。
- ・メンタルヘルスケア、コーピングを自身の課題として考える事は、業務を円滑に進める上でなくてはならないと感じた。精神科病棟に勤めているので、患者も自身も心身のケアをできる技術を身につけたい。

3. 担当者コメント

7研修全て募集人員を超えている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行後も感染対策の遵守に配慮しながら、できるだけ多くの新人看護職の方の参加ができるような演習を工夫したことで、「他の医療機関の人達と情報交換が行えた」「分かりやすく、楽しく学べた」「今後活かしたい」などの感想が全研修共通にみられ、高達成率に繋がったと考えられる。

引き続き、一人でも多くの新人看護職の方が参加し楽しく学べる研修を企画していきたい。

研修名	3)新人助産師合同研修	
開催日時	令和5年7月30日(土)~令和6年1月25日(木)	時間 9:30 ~16:30
受講者数	延べ69名(会員43名・非会員26名)	定員20名
ねらい	(1)県内に就労した新人助産師が、基本的な臨床実践能力を獲得することにより、看護の質の向上及び早期離職防止を図る。 (2)自らが主体的に学ぶ力を育て、継続的にキャリアアップに取り組むことができる。 (3)研修を通して新人助産師間の交流を図る。	
講師	プログラム参照	
内容(キーワード)	プログラム参照	集合講義・演習

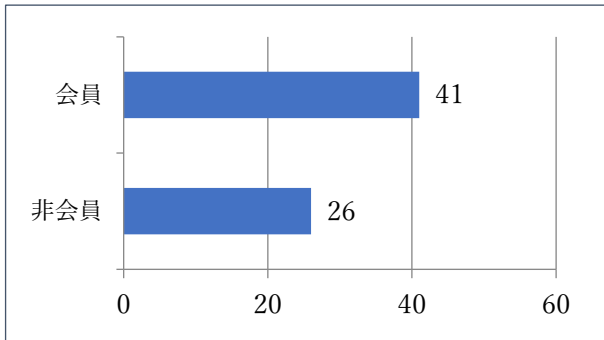
1. プログラム

開催日	テーマ・時間	内容	方法	講師
【公開講座】 7/29(土)	9:30~12:00 CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識*	CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識と判読について学ぶ	講義	高知県立あき総合病院 産婦人科部長 池上 信夫
	13:00~15:00 医療安全と助産記録*	医療安全の基本的な知識と法的根拠としての助産記録の在り方を学ぶ	講義	高知赤十字病院 看護師長 眞鍋 敦子
	15:15~16:30 交流会【新卒助産師対象】	他施設の新人助産師と交流	GW	助産師職能委員会
【公開講座】 8/29(火)	10:00~12:00 助産師として災害に備える①	助産師として災害への心構え・災害発生時の初期対応がわかる	講義	高知県立大学看護学部 教授 渡邊 聡子
	13:00~14:50 新生児のフィジカルアセスメントとディプロップメント	フィジカルアセスメントとは新生児をとりまく家族への支援環境調整について	講義	高知医療センター 新生児集中ケア認定看護師 山本 晃子
	15:00~16:30 不妊治療を受けた妊産婦の支援と家族支援	不妊治療を受けた妊産婦・家族への支援を考える	講義	高知医療センター 不妊症看護認定看護師 田淵 良枝
【公開講座】 9/30(土)	9:30~12:30 母乳育児支援の理論と実際	母乳育児の意義・効果について理解できる乳房ケアの実際を学ぶ	講義	香川県助産院ゆるり 助産師 鈴木 佳奈子
	13:30~16:30 助産師として災害に備える②	災害発生時の初期対応のその後	講義	高知県立大学看護学部 教授 渡邊 聡子
【公開講座】 10/28(土)	9:30~12:30 ハイリスク妊産婦の治療と管理	ハイリスク妊産婦の病態について学び、管理について知る	講義	高知大学医学部附属病院 産婦人科 講師 永井立平
	13:30~16:30 社会的ハイリスク妊産婦の看護	社会的ハイリスク妊産婦の看護及び心理的危機に直面した妊産婦と家族の看護について学ぶ	講義	高知大学医学部附属病院 助産師外来 助産師 公文典子
【公開講座】 1/25(木)	9:30~12:00 社会資源を活用した産後の継続支援	産後の家族役割・社会的機能の変化に伴うメンタルヘルス問題を理解し、産後ケア事業等の社会資源を活用した母子への支援について学ぶ	講義	助産院はぐはぐ 助産師 森木 由美子
	13:00~15:00 職業倫理*	助産師の職業倫理について学び、倫理的感応力を高める	講義	高知県立大学看護学部 准教授 嶋岡 暢希
	15:10~16:30 交流会【新卒助産師対象】	助産師としての今後の目標をたてる	GW	助産師職能委員会
6. *CLoCMiP	レベルIII必須研修			

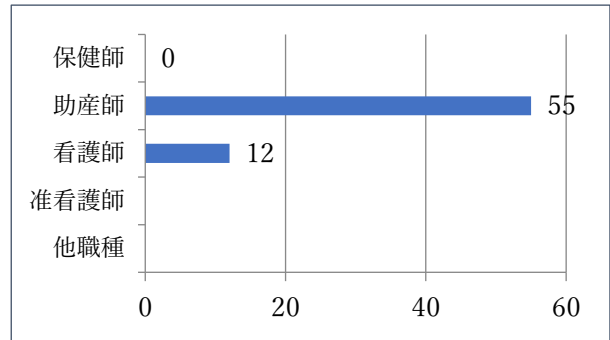
2. アンケート結果 参加者 延 67 名(助産師 55 名 看護師 12 名)アンケート回収率 97.1%

※アンケートは Google ドライブを使用したオンライン上の質問と回答(重複回答したものを含む)

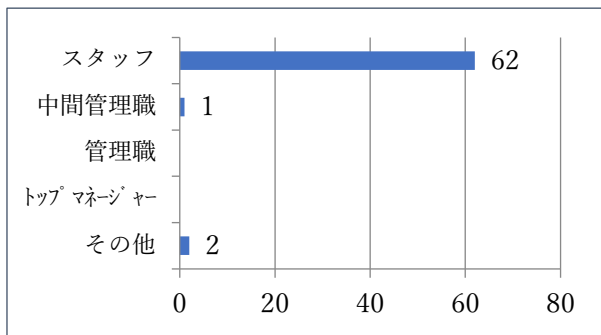
1) 会員の有無



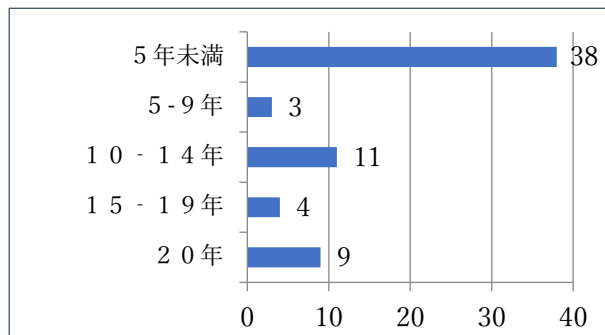
2) 職名



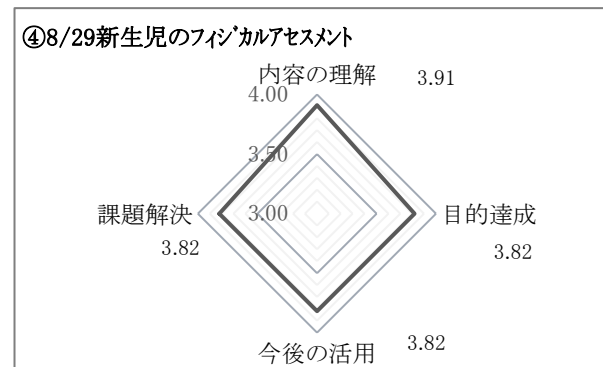
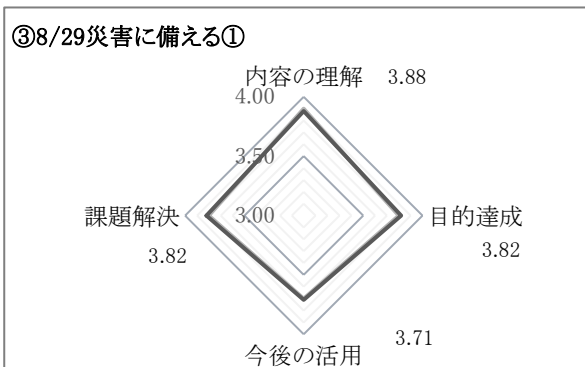
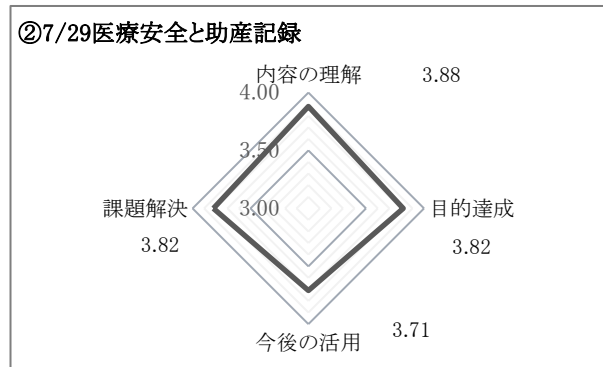
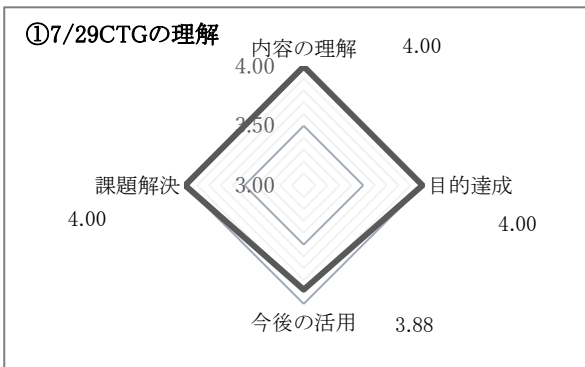
3) 職位

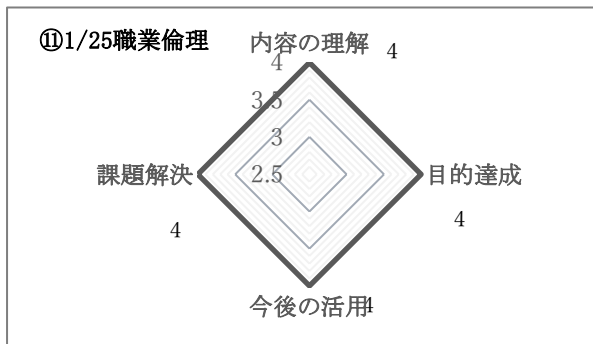
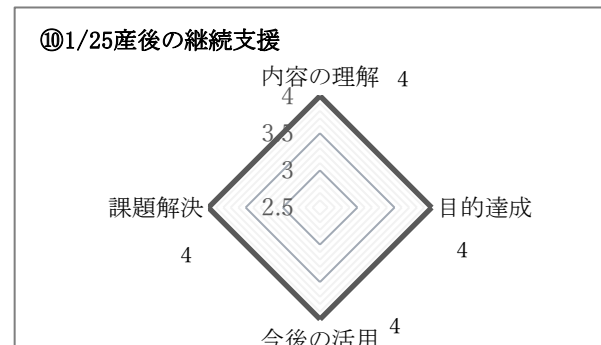
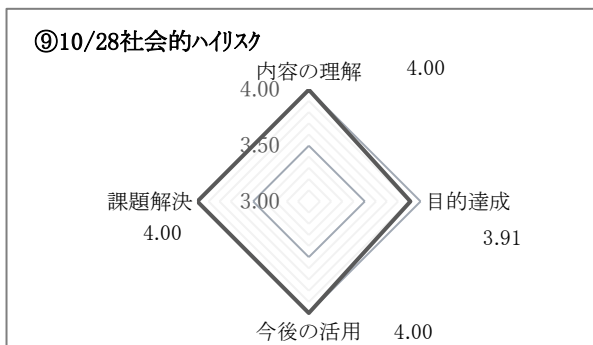
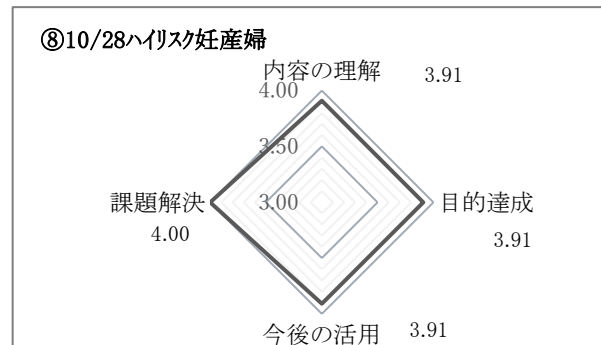
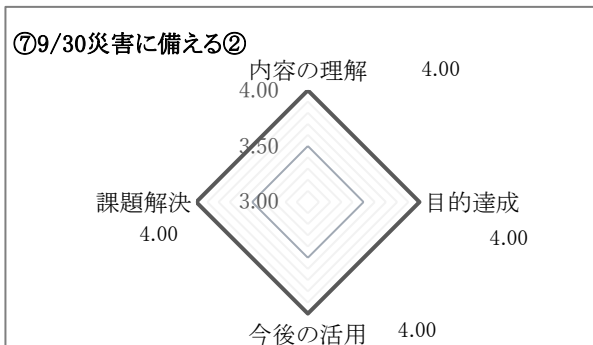
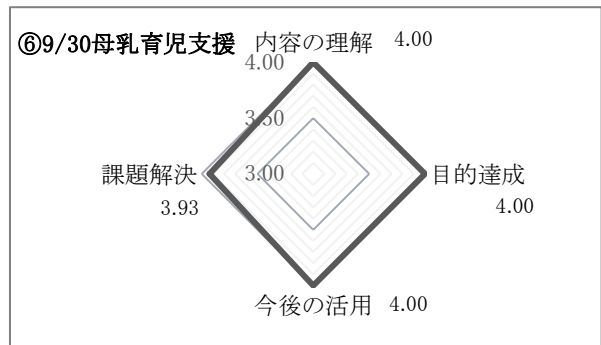
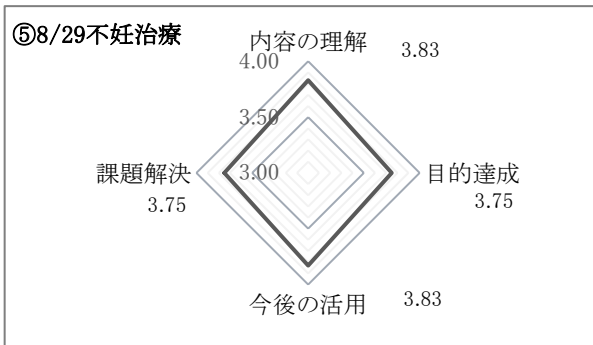


4) 経験年数

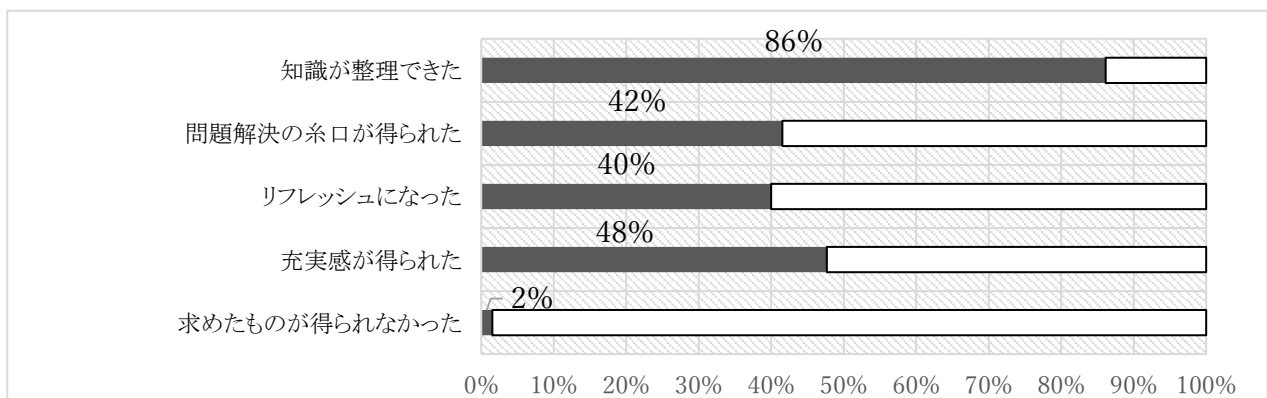


5) 研修成果





6) 感想



3. 研修担当者コメント

延研修受講者67名中29名(43.3%)が公開講座受講生であった。今年度は全11講座を公開講座とし、内3講座を CLoCMiP レベルⅢ必須研修対象研修とした。これらのことが、新人助産師以外の受講につながったと考える。新人助産師は、38名(56.7%)が新人助産師であり、新人助産師で全研修受講は、10名中4名(40%)であった。今年度は、全研修集合研修で開催でき、自施設以外の助産師との交流もできた。最終交流会では、この1年でできるようになったことと今後の課題を発表した。研修開始時よりできるようになったことが増え各自進歩したことを認め合っていた。今後も各施設のみならず高知県地域での活躍を期待する。

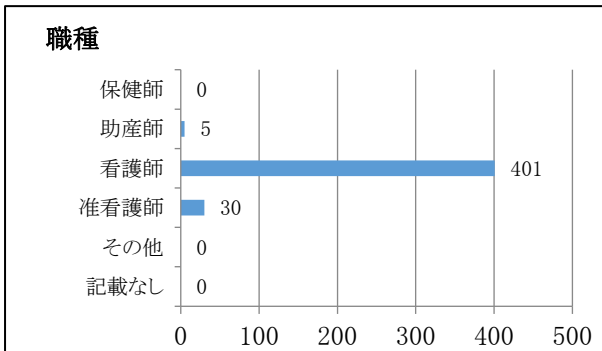
研修名	4) 感染管理担当者研修	
開催日時	令和5年5月27日(土)～8月26日(土) 内6日間	
受講者数	延べ人数 445名 実人数 95名(助産師 1名 看護師 87名 准看護師 7名) (会員 50名 非会員 45名) (領域Ⅰ 61名 領域Ⅱ 34名)	領域Ⅰ 定員 40名 領域Ⅱ 定員 40名
修了者数	81名(助産師 1名 看護師 73名 准看護師 7名)	
ねらい	感染管理担当者が施設・部署内での感染予防策を実施するための基本的知識を深め活用し、感染拡大防止対策能力の向上を目指す	
講師・内容	プログラム参照	
内容(キーワード)	感染管理の基本	講義・演習

1. プログラム

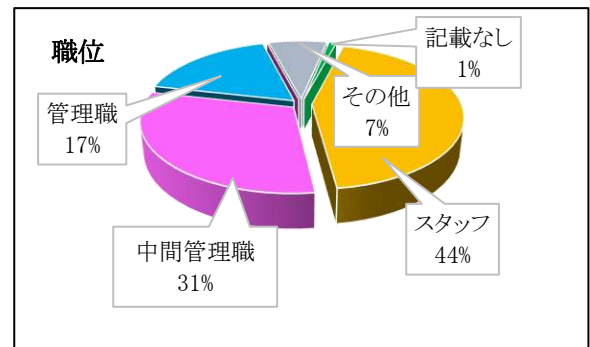
	日程	時間	項目	講師			
《講義》 感染予防対策の基礎知識 〔オンライン研修〕	1日目	9:00～9:05	オリエンテーション	高知県看護協会			
	5月27日(土)	9:05～9:30	高知県の新興感染症対策の取り組みと対策について ～新型コロナウイルス感染症5類に移行となって～	高知県健康政策部 健康対策課			
	領域Ⅰ・Ⅱ共通		9:30～12:00	感染症の基礎知識	社会医療法人近森会近森病院 感染症内科部長 石田 正之		
			13:00～14:45	新興感染症(新型コロナウイルス感染症)基礎知識と最新情報			
			15:00～16:30	抗菌薬の基礎知識			
	2日目	5月28日(日)	9:30～12:30	感染管理体制 感染対策の実際 情報管理	社会医療法人近森会近森病院 副看護部長 感染管理認定看護師 近森 幹子		
	領域Ⅰ・Ⅱ共通			13:30～16:30		サーベイランス アウトブレイク時の対応	
				3日目		9:30～12:30	標準予防策
	6月3日(土)		経路別予防策				
	領域Ⅰ・Ⅱ共通	13:30～16:30	職業感染対策 洗浄・消毒・滅菌 ファシリティマネジメント				
	《演習》 感染予防の実際 〔集合研修〕	4日目	9:30～11:00	新興感染症(新型コロナウイルス感染症)看護	独立行政法人地域医療推進機構 高知西病院 感染管理認定看護師 笠原 久美		
		領域Ⅰ	領域Ⅱ	6月7日(水)	6月11日(日)	11:10～12:30	標準予防策・演習 手指消毒 PPEの着脱
13:30～15:00							クラスター対応
				15:10～16:20	グループワーク ソーニングを考えてみよう	感染管理認定看護師 笠原 久美	
				16:20～16:30	課題について 自施設の感染対策の課題と解決に向けた行動計画の立案		
5日目		9:30～12:30	・各施設での取り組み・行動計画の進捗状況の報告発表	社会医療法人仁生会細木病院 感染管理認定看護師 土居 世知			
8月26日(土)		領域Ⅰ	・意見交換 修了証授与				
午後:領域Ⅱ		13:30～16:30	・各施設での取り組み・行動計画の進捗状況の報告発表				
			領域Ⅱ	・意見交換 修了証授与	独立行政法人地域医療推進機構 高知西病院 感染管理認定看護師 笠原 久美		

2. アンケート結果 出席者計:455名 回答 436名 平均アンケート率:95.8%

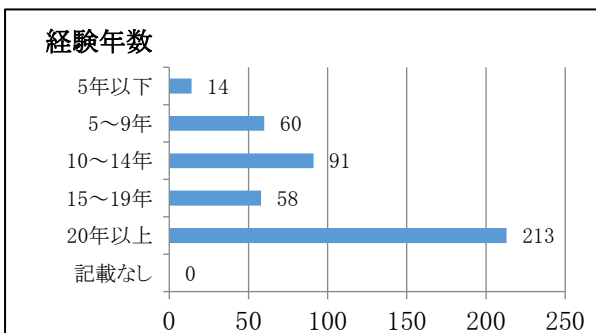
1)職名 n=436



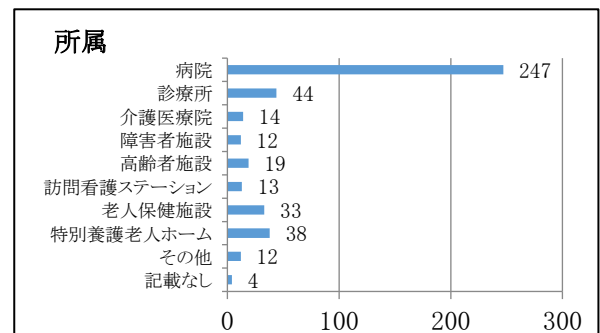
2)職位 n=436



3)経験年数 n=436

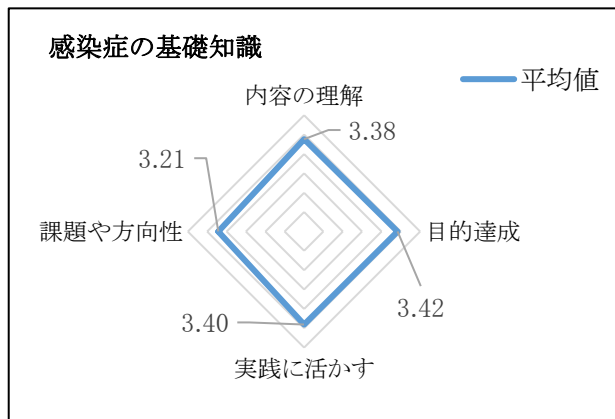


4)所属施設 n=436

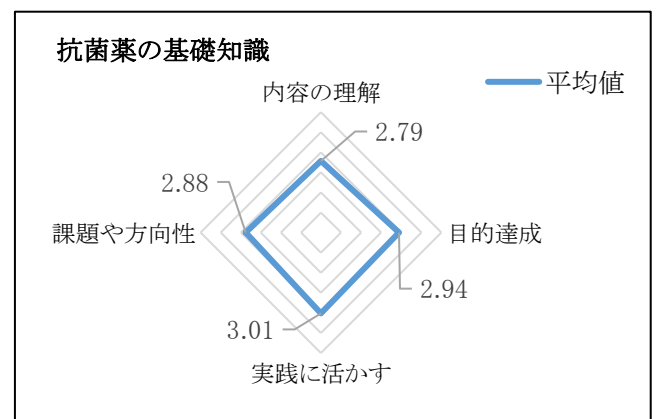


3. 研修別内容評価 指標 4段階(4:とてもそう思う 3:そう思う 2 あまりそう思わない 1 全くそう思わない)

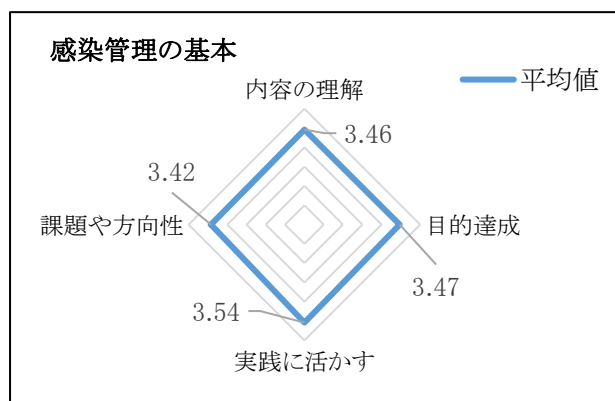
1)感染症の基礎知識<<1日目>> n=89



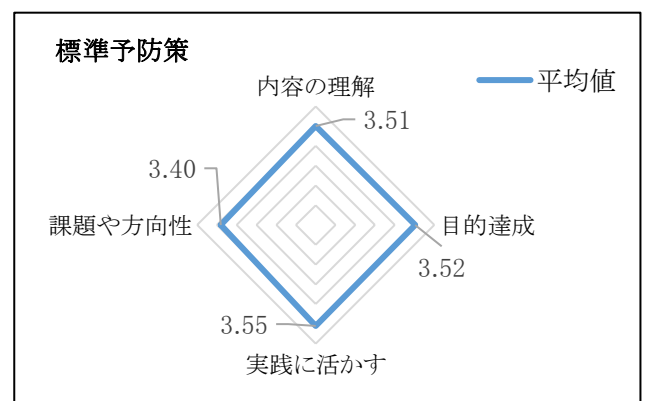
2)抗菌薬の基礎知識<<1日目>>n=89



3)感染管理の基本 サーベイランス <<2日目>> n=98

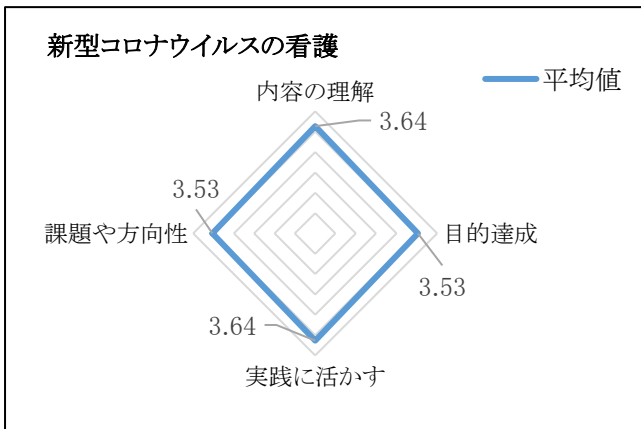


4)標準予防策 <<3日目>>n=87

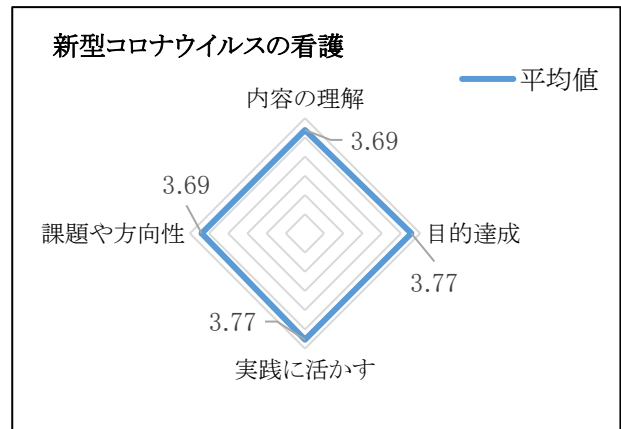


5) 新型コロナウイルス感染症の看護《4日目》

領域Ⅰ n=55

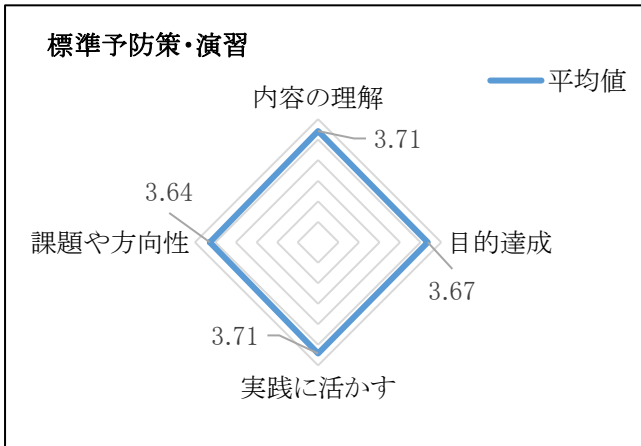


領域Ⅱ n=26

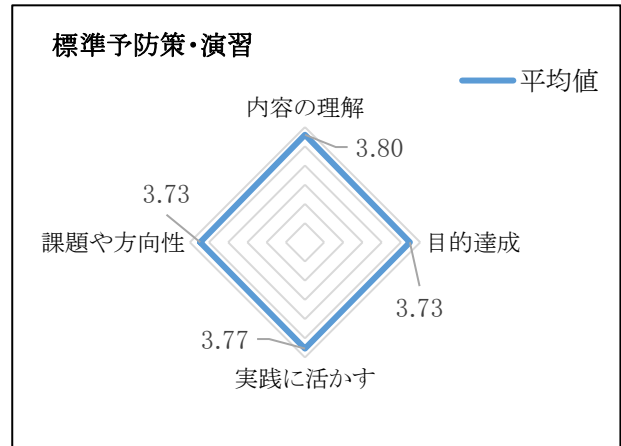


6) 標準予防策 演習《4日目》

領域Ⅰ n=55

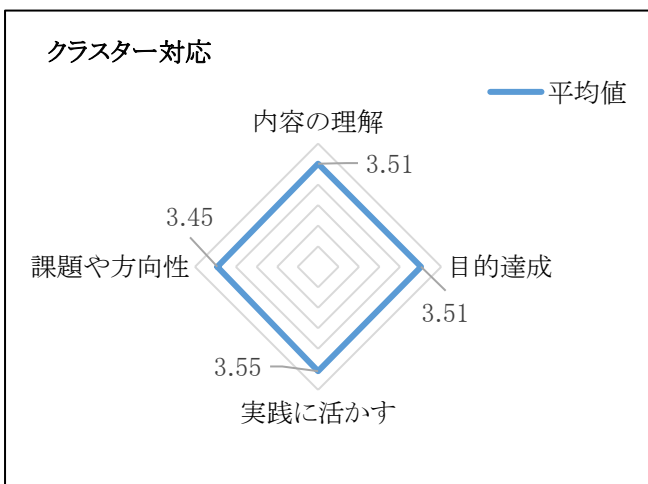


領域Ⅱ n=26

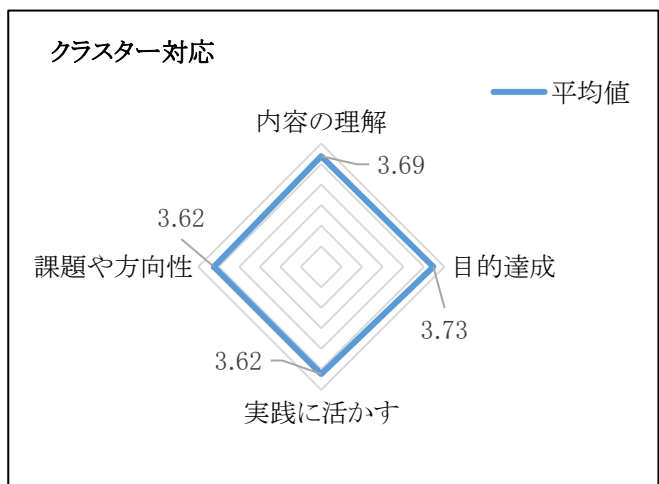


7) クラスター対応《4日目》

領域Ⅰ n=55

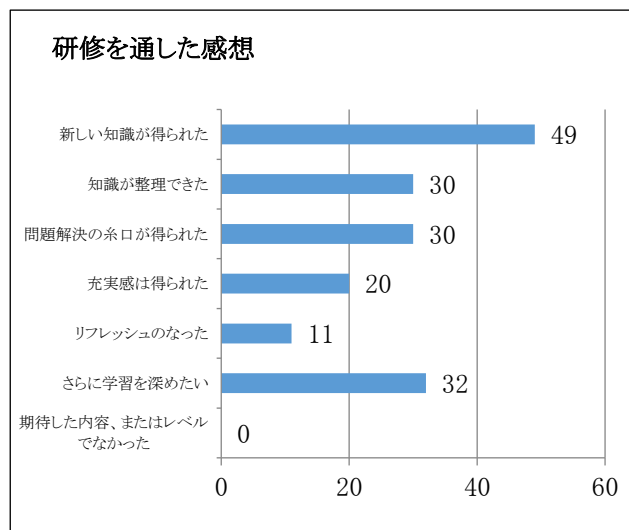
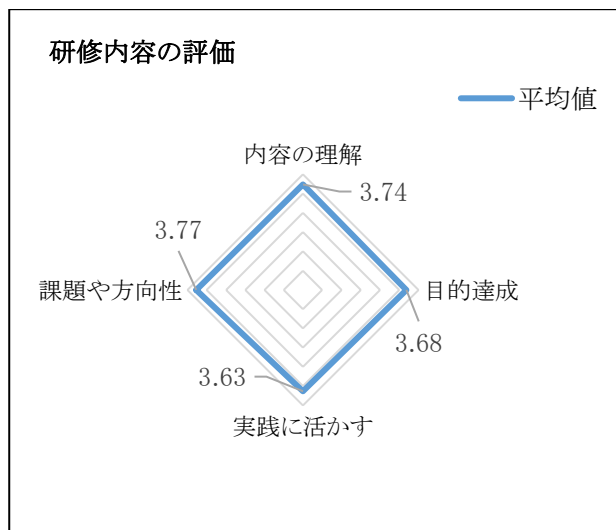


領域Ⅱ n=26

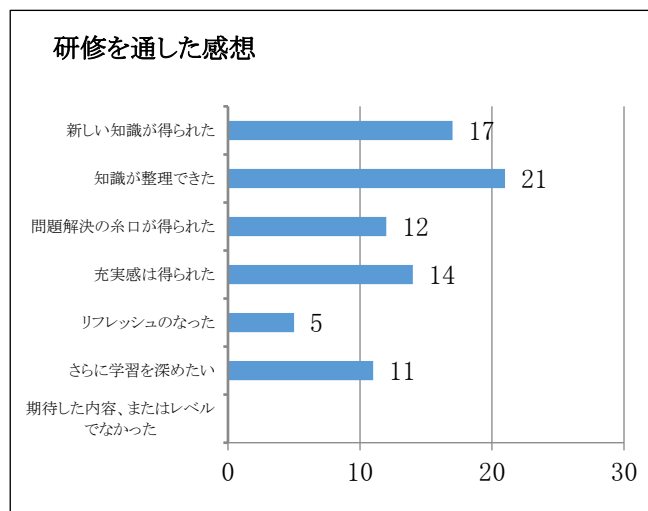
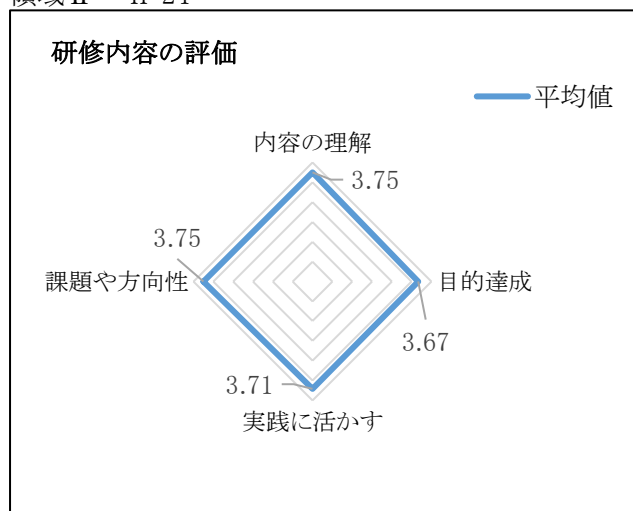


4.研修全体の評価

領域Ⅰ n= 57



領域Ⅱ n=24



2. 研修の意見・感想(最終日アンケートより抜粋)

- ・他の施設の取り組みを聞かせて頂き、刺激になった。
- ・感染管理の研修を受講してより一層感染対策の理解を深めたい。
- ・今回の感染研修での学びを、実践したい。
- ・研修に参加し、課題の明確化が出来、今後の取り組み方についても他施設の方の発表を見て非常に参考になった。
- ・クラスターに初めてなり他の施設の対策が勉強になった。
- ・今回の学びを今後の業務改善に繋げて行きたい。
- ・充実した内容で、学ぶことが多かった。
- ・引き続きマイペースで、周囲と協力して感染対策に取り組みたい。
- ・皆様の発表を聞いて、自施設でも取り組みたいと思えるものが多く、たくさんのものを得られた。

・やるべきこと、そのために必要なことを考える機会になった。日々努力していきたい。

4. 研修担当者コメント

感染予防策を自施設および地域の医療機関等において実践・推進し、感染対策のリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、2年目の開催となった。4日間の感染症の基礎知識・感染予防対策の研修を経て、各施設での取り組み・行動計画・進捗状況について8月26日報告会を行った。自施設の課題の明確化と他施設の取り組みを知り、今後の感染対策に活かすことができると考える。

5) 高知県専任教員養成講習会開講準備

研修名	高知県専任教員養成講習会開講準備		
開催日時		時間	
受講者数			
ねらい	令和6年度開講に向けて滞りなく準備を進める。		
講師			
内容	申請書類、運営規程、募集(実施)要項、カリキュラム、教育目標と内容、シラバス、演習授業科目別進め方、学習進度表、年間日程表、教育実習関連の規約、教育実習記録、出願・審査に関する書類など 開講・運営に必要な書類の作成、講師交渉、教育実習先交渉 など 専任教員養成講習会検討委員会 3回開催 演習担当講師会 1回開催	講義・演習	

講習会準備担当者コメント

令和6年度開講に向けて検討委員の協力を得ながら準備を進めた。規程や使用書類作成は滞りなく行えた。講習会で教授いただく講師の方々にも快諾いただくことができ、基礎教育だけでなく、臨床での教育力を強化できる講習会となるよう勧めていきたい。

2. 訪問看護師研修事業

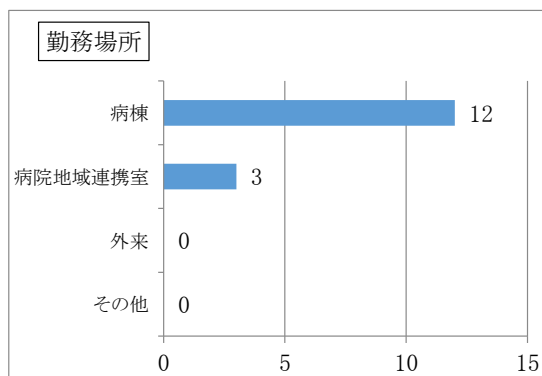
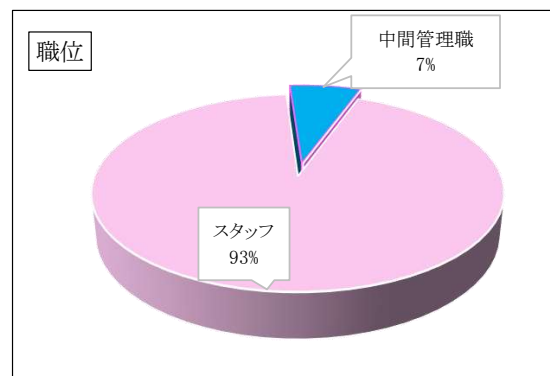
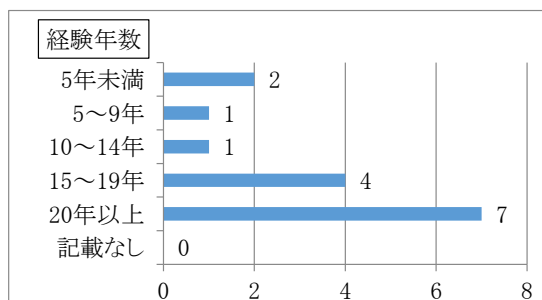
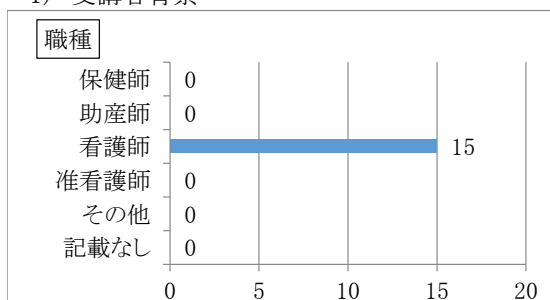
研修名	1) 施設－在宅を支援する看護師育成研修(退院調整看護師育成研修)	
開催日時	令和5年7月19日・7月26日・8月116日 (9:30～16:30) 実習3日間 期間 8月～11月	定員 : 24名
受講者数	令和5年7月19日 受講者数 24名(欠席 1名) オンライン 9名・集合 15名 7月26日 受講者数 25名 オンライン 9名・集合16名 8月16日 受講者数 24名(欠席 1名) 集合24名	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 施設－在宅の連携について学び、看護師の役割を明らかにできる 在宅療養者の状態に応じてケアおよびサービスの調整ができる 施設内の退院支援システムの課題を明らかにできる 在宅移行支援計画の作成ができる 	
講師	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護ステーションちかもり 所長 在宅看護専門看護師 山本 詩帆 細木病院在宅部教育課長 在宅看護専門看護師 井上 加奈子 高知赤十字病院 地域医療連携課 在宅看護専門看護師 山本 恵理 	
内容	講義 <ul style="list-style-type: none"> 施設－在宅の移行を支援する看護師の役割と機能 施設－在宅の移行期における療養者と家族への支援(実践) 退院調整の実際 病院・施設内の組織化と在宅への移行期にある事例のケア検討 訪問看護ステーション・訪問診療・施設等の実習 <ul style="list-style-type: none"> 同行訪問で在宅療養の実際を体験し、在宅移行支援に向けて医療機関看護師の役割を考える 	講義・演習 実習

1. アンケート結果

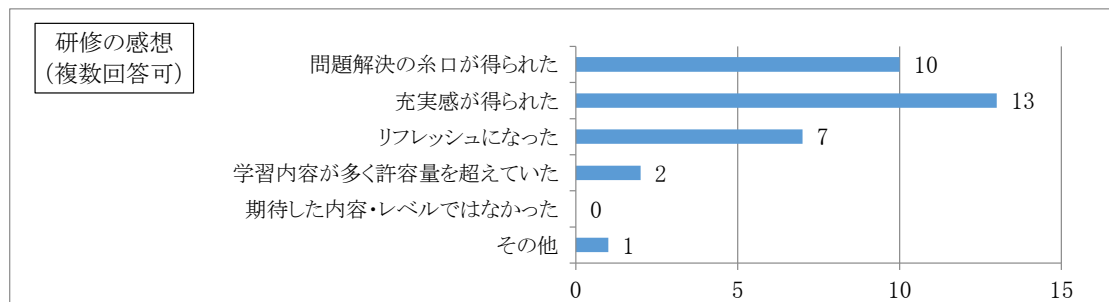
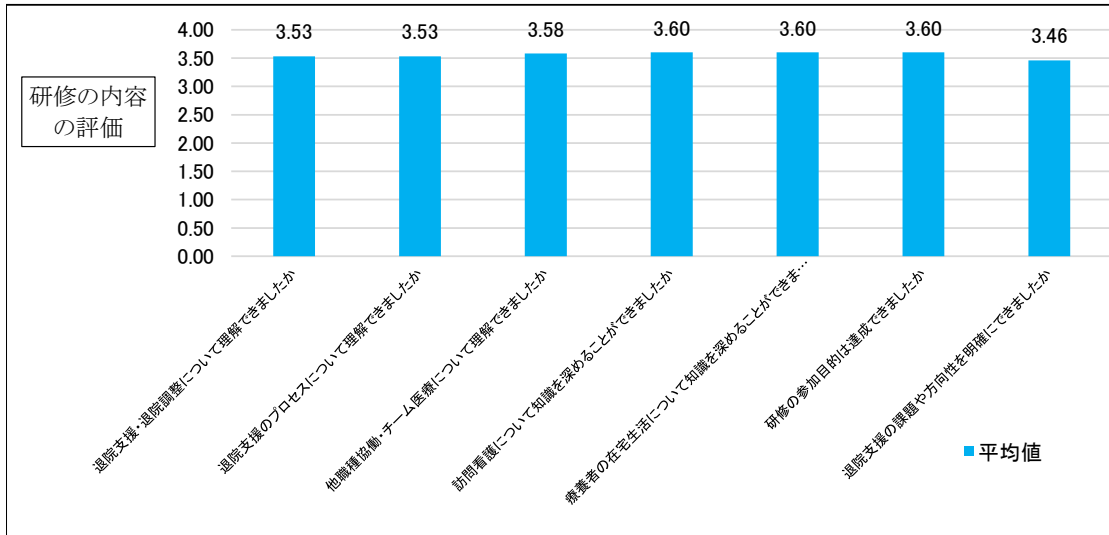
アンケート実施日 令和5年 8月16日

アンケート回答数 15名 回収率 62.5%

1) 受講者背景



2) 研修内容について



2. 意見・感想(抜粋)

- ・仕事に反映出来るよう努めたいと思う。
- ・色々な病院で働いている方の意見をきいて勉強になった。
- ・訪問看護を離れ、勉強の為病棟で経験している。また訪問看護へ行きたいとより思った。
- ・これまで病棟勤務の経験しかなかったので、今回の研修は新鮮でとても勉強になりました。勤務先が急性期の病棟なので、自宅退院する方はだいたい自立している検査入院の方だったり、その他は転院する方も多く、普段なかなか在宅の視点で患者さんと関わることが少なかったので視野が広がった。患者、家族の意向を尊重することは病院においても、地域においても共通する視点だと思った。
- ・訪問看護の仕組みや退院調整のプロセスの糸口を知れてよかった。グループワークも様々な意見を知られて楽しかった。
- ・参加人数が丁度だったと思う。
- ・グループワークが苦手だが、構成人数が丁度で楽しく出来た。
- ・地域連携室に所属し約5ヶ月で、全てが初めての業務であり自分にあつたレベルかどうか不安であったが、分かりやすい内容であった。

3. 研修担当者のコメント

令和2年度より受講者が減少し、令和4年度は14名となっていたが本年度は受講者が25名と増加となった。この研修は、講義・演習の他に在宅療養の現場を知る必要を考慮して、同行訪問・見学実習を取り入れ研修を開催している。実習記録には、①自宅での看取りに立ち会った経験 ②本人の希望や家族の意向を早めに確認する必要性を学んだ ③サマリーを記載する時にADL・IADLが必要であると思った等の実習の学びが記載されていた。指導者のコメントとして、本人のニーズに合い家族の負担の軽減に繋がる安心した在宅生活を支援することや本人・家族との信頼関係を築くことが大切であること、少し視野を広げて看ることの勧め等が記載されていた。以上のことから同行訪問・見学実習は、受講者の貴重な経験となっていると思われる。次年度は、複雑な課題をもっている事例の検討など、研修内容をイメージ受講してもらえよう説明を追加して募集したい。

2. 訪問看護師研修事業

研修名	2)施設－在宅を支援する看護師育成研修 シンポジウム ～多職種をつなぎ、在宅療養を継続するための支援について考える～	
開催日時	令和6年2月17日(土) (13:30～16:00)	定員 : 50名
受講者数	受講者数 20名	会員:17名 非会員:3名
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅への移行支援に必要な知識を得て、医療機関・施設から在宅への円滑な移行を支援できる ・在宅療養者と家族が抱える課題を明らかにして、在宅生活を継続するための支援について学ぶ 	
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県立大学看護学部特任教授 森下 安子 ・高知生協病院在宅療養センター 医師 原田 健 ・高知中央居宅介護事業所 介護支援専門員 植田 五美 	
シンポジスト	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションLOCAL 看護師 中本 知子 ・訪問看護ステーションLOCAL 理学療法士 西村 聡二 ・あじさい薬局北本町 薬剤師 西村 直祐 ・ホームケア土屋高知 訪問介護士 片平 光 畑山 一樹 ・サービス利用者 向井 克彦 (ビデオレター) 	
内容	人工呼吸器を装着して在宅サービスを利用している向井氏に対する各職種の関わりについて	

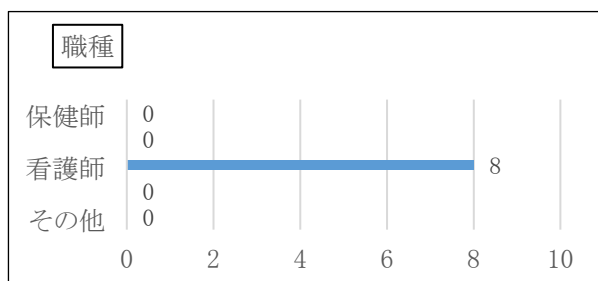
1. アンケート結果

アンケート実施日 令和6年 2月17日

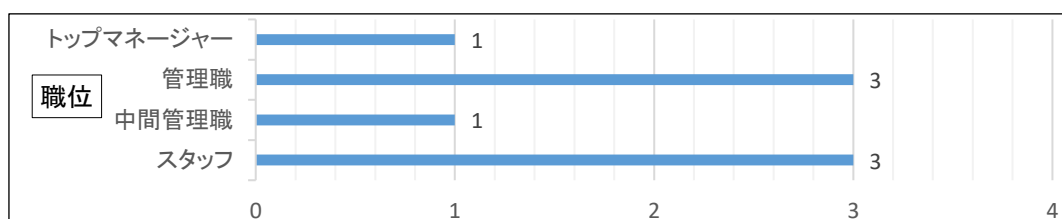
アンケート回答数 8名

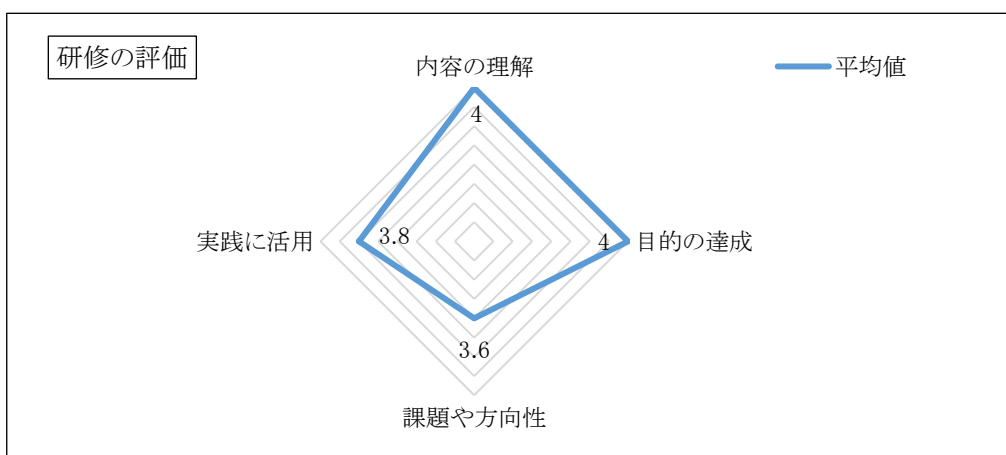
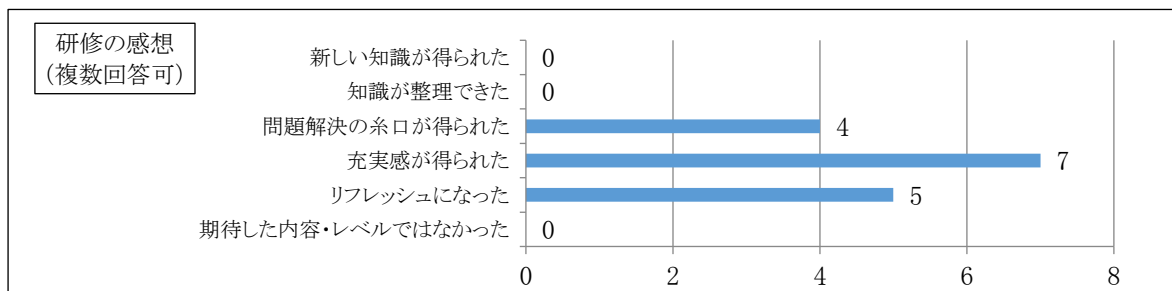
回収率 40%

1) 受講者背景



2) 研修内容について





2. 意見・感想(抜粋)

- ・多職種が協働し、対象者の方を支えているのがよくわかった。
- ・とても心温まる現実だった。在宅の大変さが分かる分とても成功の良い内容だった。様々な課題に取り組み在宅での生活を支えていけたらと思った。
- ・在宅で実際に行われている多職種の関わりを知ることができ今後の支援に活かしたい。
- ・多職種の方がそれぞれの視点で発表され、理解が深まった。とても有意義な研修だった。
- ・資料があるとよかった。

3. 研修担当者のコメント

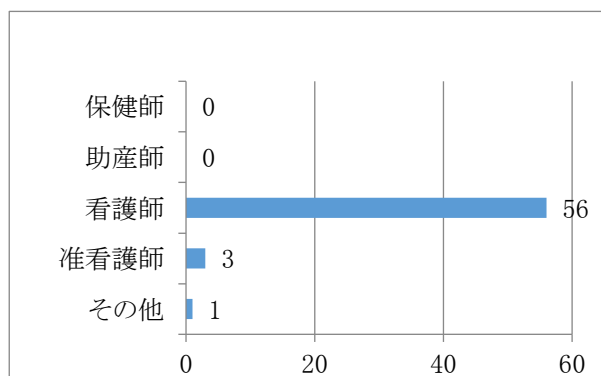
今回、人工呼吸器を装着して在宅サービスを利用している方への各職種の関わりについて、多職種を含めてシンポジウムを初めて開催した。オープニングで利用者の方をビデオで紹介し在宅での様子がイメージしやすく、率直な思いを語ってもらえ心に響いた。また、シンポジストの方々と参加者との意見交換ができた。今年度は、シンポジスト決定のため広報期間が短く、参加者も20名と少なく看護職のみの参加であった。来年度は、多職種が参加してもらえるよう広報の方法を考えるとともに開催方法もハイブリット方式をとり、沢山の職種に参加してもらおうよう計画したい。

事業名

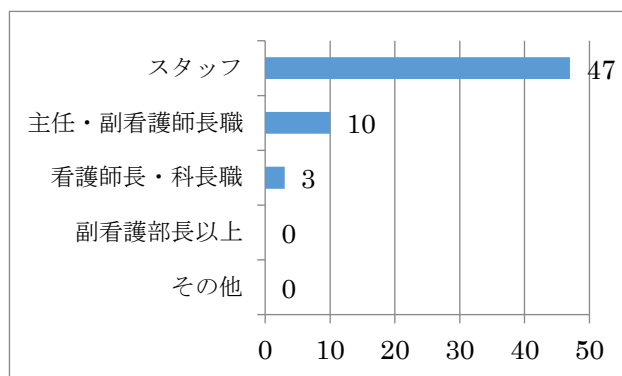
研修名	看護職員認知症対応力向上研修	
開催日時	令和5年9月24日(日)～26日(火)	時間 9:30～16:30
受講者数	67名(会員50・非会員17)	定員 50名
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症患者の入院から退院までのプロセスに沿って基本的な知識を習得する ・個々の認知症の特徴・症状に対する実践的な対応力(アセスメント、看護方法・技術、院内外連携手法)を習得する。 ・マネジメント(人員、環境、情報管理等)の実践的な対応方法及び教育技能を習得する 	
講師	医療法人一条会 渡川病院 院長 吉本 啓一郎 JA 高知病院 認知症看護認定看護師 松高 ゆり 社会医療法人近森会近森病院 認知症看護認定看護師 小松 有希 医療法人おくら会 芸西病院 老人看護専門看護師 田村 文佳	
内容	看護職員 認知症対応力	講義・演習

1. アンケート結果 回答数 60名 回収率 90%

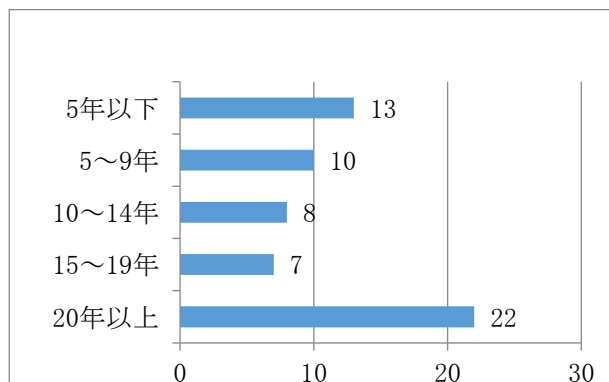
1) 職名



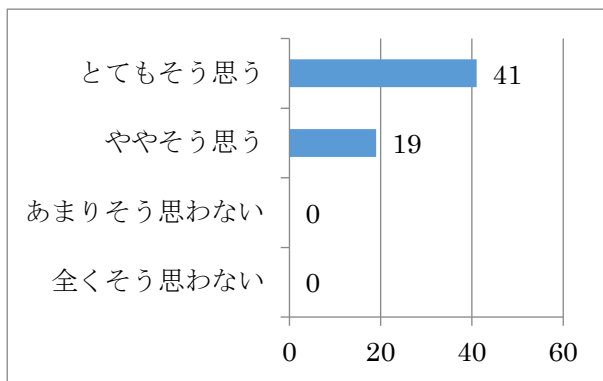
2) 職位



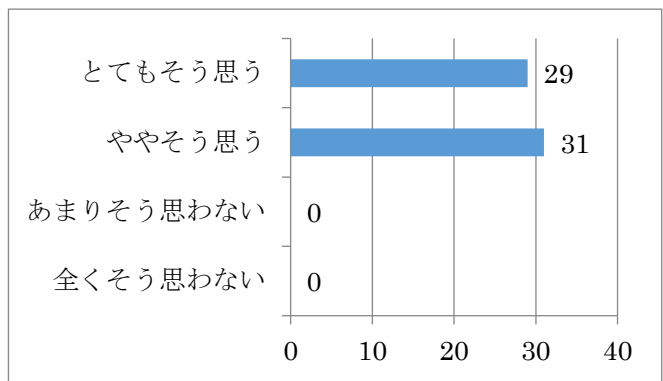
3) 経験年数



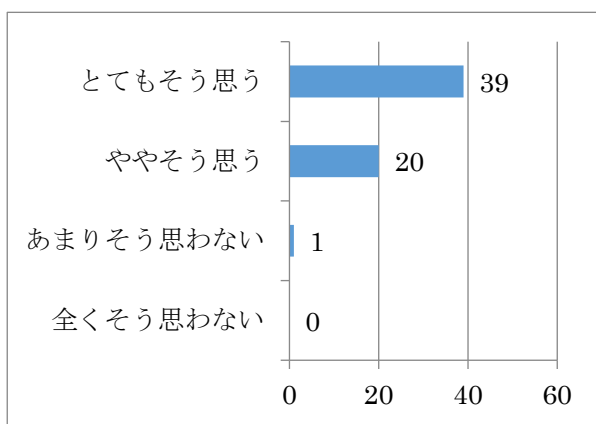
4) 研修内容の理解度



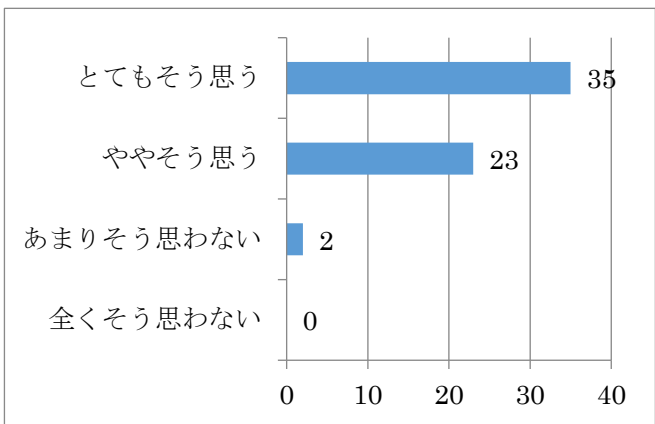
5) 参加目的の達成度



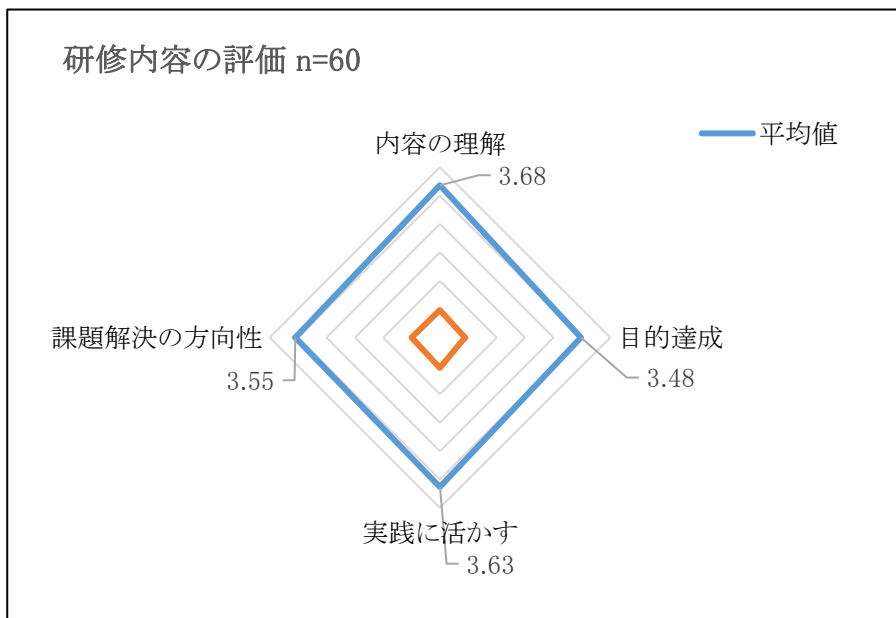
6) 今後の活動に活用できるか



7) 課題、方向性の明確化ができたか

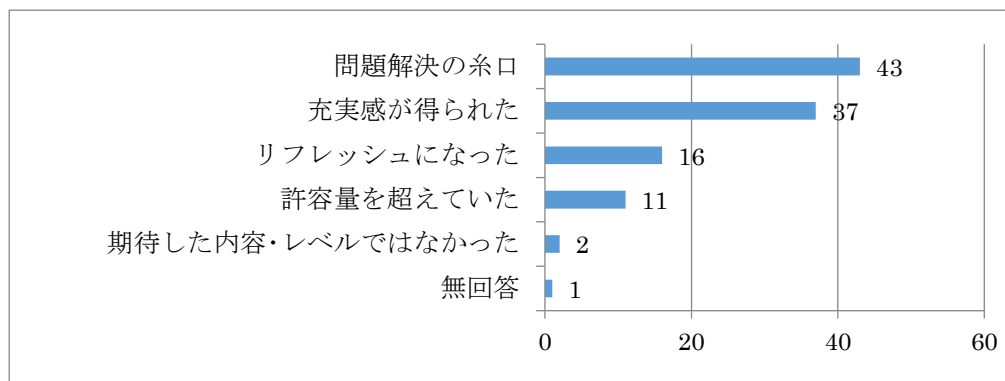


8) 研修内容の評価



9) 研修の講義全体を通じた感想

(複数回答)



2. 感想

- ・今から病棟で認知症チームを立ち上げるので勉強になった。
- ・他病院の方々との話し合いができ、色々な情報も知る事ができよかったです。
- ・大変勉強になりました。(3件)
- ・認知症看護について知識やケアが深まる講習でした。
- ・現場に活かせるとても有意義な研修でした。
- ・とても学びが深まりました。明日から活かします。
- ・認知症ケアについて再度考える機会になりました。自分の対応を見直して、他のスタッフへの伝達講習もしていければと思っています。
- ・今回の講義で気付けたことが多くあり、明日から業務に生かしていこうと思いました。
- ・改めて人としての尊厳について認識し、気づかずにしている事があるのではないかと思います。管理者や他のスタッフにも聞いて欲しいと思いました。大変、勉強になりました。

3. 研修担当者コメント

認知症の知識・実践対応力・組織へのマネジメントについて広く学べ、受講生からは、「勉強になった」と多くの声が聞かれていた。

高齢化社会の中、認知症患者との関わりは常に身近な問題で、参加者の興味や関心が非常に深く、自分達の経験を振り返りながら講義を聴くことができたと感じた。演習では、積極的に意見交換や、他施設の方との情報共有を行うことができ、今後取り組むべき課題が明確にされていた。

カリキュラム改訂に伴い、講義・演習共に非常に充実した内容であった。今回学んだことを、日々の認知症看護に活かし、スタッフへの育成・教育に携わっていくことで認知症看護の質の向上につながる事を期待したい。

4 医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修

研修名	1) 医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修	
開催日	令和5年12月5日(火) 6日(水) 支援者・コーディネーター合同 令和6年1月18日(木) 19日(金) コーディネーターのみ	定員 :各30名
受講者数	令和5年12月5日(火) 42名 集合18名・オンライン24名 6日(水) 42名 集合18名・オンライン24名 研修別参加者数 支援者養成研修 19名 コーディネーター養成研修 24名 令和6年1月18日(木) 19日(金) 23名 ※ 医療的ケア児等支援者修了書を有する 1名を含む	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児等の発達や疾患等の特徴、各疾患によるライフステージや必要な医療的支援をイメージし、地域の医療的現状を把握する。 医療的ケア児等と家族を支援するための地域連携、資源の開発の方法等を理解する。 事例を基に、ニーズの把握、当事者の意向に沿った計画作成、関係機関との調整などができる。 	
講師	プログラム参照	
内容	合同研修 1) 医療的ケア児の支援に必要な基本的知識 2) 支援体制の整備と連携 3) 本人・家族の思い 4) ライフステージにおける支援	講義
	コーディネーター研修 1) 支援計画作成の実際	演習

令和5年 高知県医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修プログラム

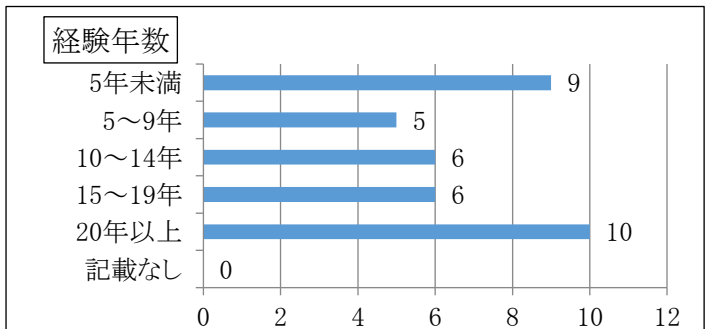
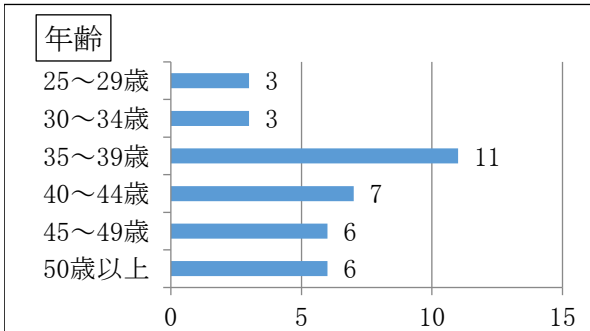
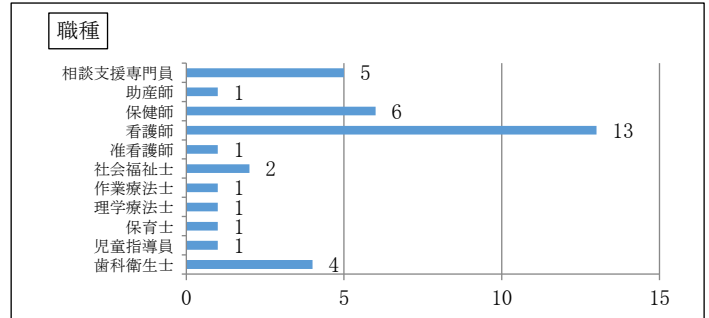
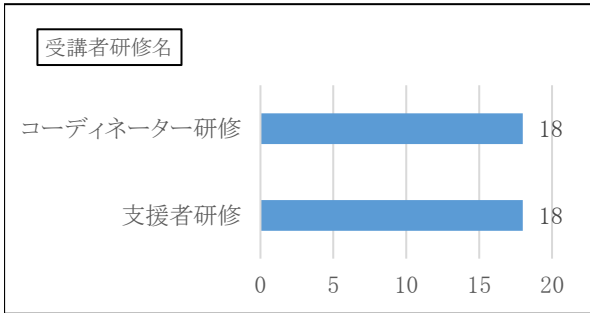
令和5年度高知県医療的ケア児等支援者養成研修・医療的ケア児等コーディネーター養成研修プログラム 注)変更になる場合もございますので、予めご了承ください。							
研修名	日程	研修内容	講師等	日程	研修内容	講師等	
1 日 目 12 月 5 日 (火) オン ライ ン 受 講 可	8:10~8:30		受付	2 日 目 12 月 6 日 (水) オン ライ ン 受 講 可	8:30~9:00		受付
	8:30~8:35		オリエンテーション		9:00~10:00 1時間	●福祉 虐待について	中央児童相談所 初期対応部長 國澤 真紀 氏
	8:35~9:00	あいさつ 高知県の医療的ケア児の現状と 取り組み	高知県子ども 福祉政策部 障害福祉課 チーム(障害児支援担当) 中岡 辰則 氏		10:00~10:10		休憩(10分)
	9:00~11:00 2時間	●医療1 障害のある子どもの成長と発達の特徴 疾患の特徴、生理、救急時の対応	社会福祉法人土佐希望の家 医療福祉センター 施設長 吉川 清志 氏		10:10~12:10 2時間	●本人・家族の思いの理解 本人・家族の思い、意思決定支援 ニーズアセスメント	佐川町 田元 朝美 氏 佐川町健康福祉課 保健師 山本 鈴佳 氏
	11:00~11:10		休憩(10分)		12:10~13:10		昼食(1時間)
	11:10~12:40 1.5時間	●総論 医療的ケア児等の地域生活を支える 医療的ケア児等のコーディネーター に求められる資質と役割 ●支援に必要な概念	高知県立大学看護学部 小児看護学 准教授 佐東 美緒 氏		13:10~15:10 2時間	●福祉 支援の基本的枠組み福祉の制度 遊び・保育、家族支援	高知県立大学社会福祉学部 教授 西内 章 氏
	12:40~13:40		昼食休憩(1時間)		15:10~15:20		休憩(10分)
	13:40~15:10 1.5時間	●ライフステージにおける支援 各ライフステージにおける相談支援に 必要な視点 在宅移行支援 ●医療的ケアに必要性が高い子ども等 の特徴及び支援	高知大学医学部附属病院 新生児集中ケア認定看護師 小笠原 美和 氏 高知大学医学部附属病院 看護師 佃 勇輝 氏		15:20~16:20 1時間	●支援体制整備 支援チーム作りと支援体制整備 支援体制整備 医療・福祉・教育の連携 地域の資源開拓・創出方法	幡多希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 林 恵 氏 永吉 納美 氏
	15:10~15:20		休憩(10分)		16:20~16:30		修了式(支援者養成研修受講者のみ)
	15:20~17:20 2時間	●連携 小児在宅医療における多職種連携 連携・協働の必要性	あおぞら診療所高知潮江 所長 松本 務 氏		16:30~18:30 2時間	●計画作成のポイント 演習に向けた計画作成のポイント	社会福祉法人土佐希望の家 医療福祉センター 在宅支援部 相談支援課長 相談支援専門員 林 恵 氏 (高知県相談支援専門員協会 理事)
17:20~18:20 1時間	●医療2 訪問看護のしくみ	訪問看護認定看護師 ハルヤケルケ 佳永 氏	4 日 目 1 月 1 9 日 (金)	8:30~8:45		受付	
3 日 目 令 和 6 年 1 月 1 8 日 (木)	8:30~9:00		受付	8:45~12:15	●演習 事例検討	講師 福岡県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター兼トータルアドバイザー 横田 信也氏 講師・ファシリテーター 土佐希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 林 恵 氏 幡多希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 永吉 納美 氏	
	9:00~12:30	●演習 計画作成	講師 福岡県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター兼トータルアドバイザー 横田 信也氏 講師・ファシリテーター 土佐希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 林 恵 氏 幡多希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 永吉 納美 氏	12:15~13:15		昼休み	
	12:30~13:30		昼休み	13:15~16:45	●演習 事例検討		
	13:30~17:00	●演習 計画作成		16:45~17:00		修了式	

1. 医療的ケア児等支援者・コーディネーター合同研修アンケート結果

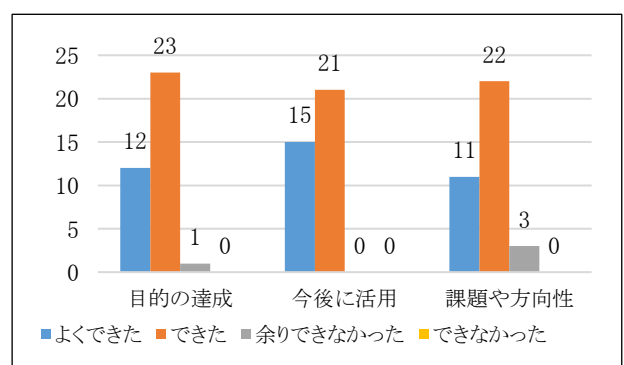
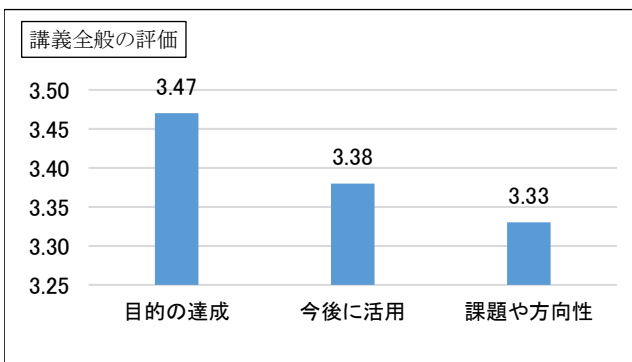
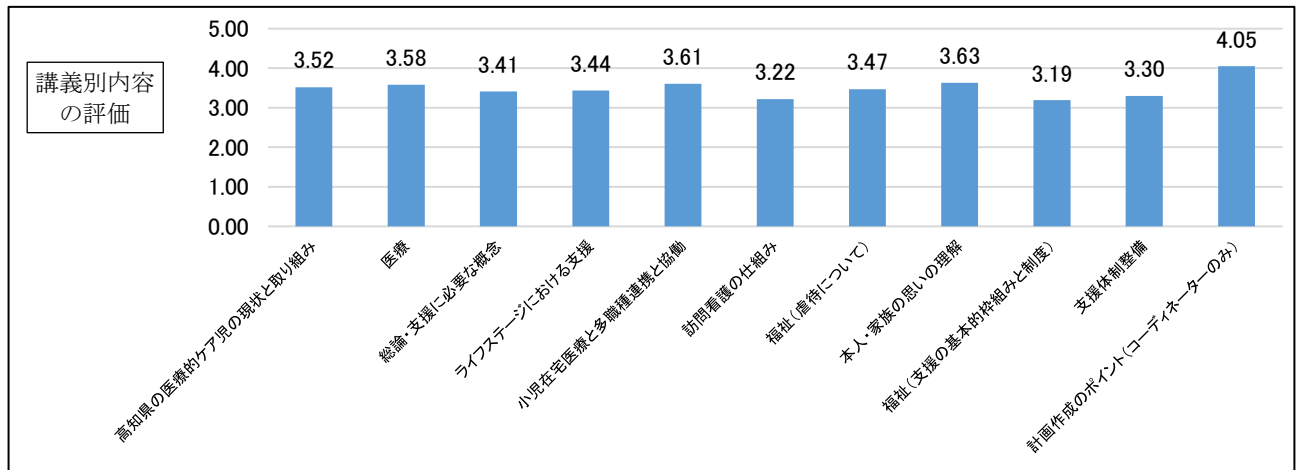
実施日 令和5年 12月5日～6日

回答数 36名

回収率 85.7%



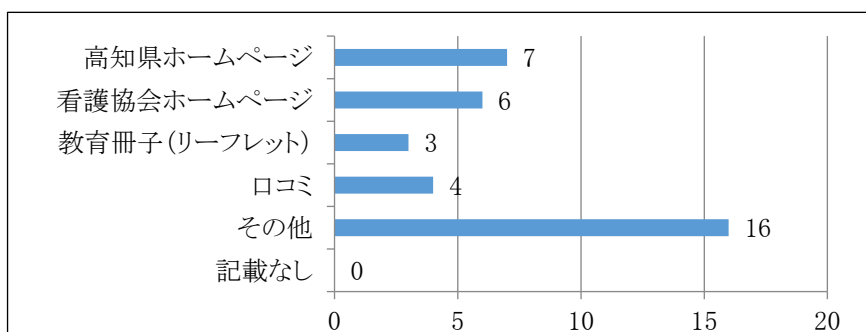
2) 研修内容について



②あまりできなかったを選択した理由

- ・内容が複雑で理解するのに時間がかかると思う。わかりにくかった。

3) 研修を何で知りましたか(複数回答可)



その他の内容

- ・上司からの勧め 9名
- ・高知市からの情報提供メール 3名

4) 研修に参加した目的 (抜粋)

- ・医療的ケア児に関わることがあるため
- ・医療的ケア児等コーディネーターとしての役割を理解し、支援に活かすため
- ・保育園で看護師として従事しています。今後医療児童が入所されてきたとき、どんな支援が必要か、私に何が出来るのか、準備をしておきたかったので、参加しました。
- ・医療的ケア児の理解を深めるため
- ・普段は高齢者に関わる事が多く、医療的ケア児さんの知識が少ないため
- ・部署教育
- ・地域に医療的ケア児がいるため。
- ・今後のサービス拡充に向けた準備など
- ・医療的ケア児や家族への支援について、知識を深めるため
- ・職務に活かすため
- ・医療ケア児について詳しく学びたかった
- ・スキルアップ
- ・地区に医療的ケア児の方がおり、支援に関わっている、また母子保健コーディネーターとして職務にあたっているため
- ・医療的ケア児の受け入れ体制を作るため
- ・業務内容の向上
- ・医療的ケア児に特化した研修はなかなかないので、より深く医療ケア児について学びたかったから
- ・NICUから在宅支援 児の緩和ケアやレスパイト運営 乳房ケア 新生児訪問経験を持ったそれらの経験をもとにハイリスク児や医療ケア児を持つ家族に父子母子分離中から産後ケアを届け生命不安や在宅移行への不安軽減をお手伝いできたら また 医療と地域を県下隔々で繋いで行けたらと考えたから
- ・現在小児科病棟混合の部署で働いており、今後の転職時の参考にするため
- ・地域の医療的ケア児等コーディネーターとして務めるため
- ・在宅支援の知識向上
- ・上司のすすめ
- ・医療的ケアの知識がなく、今の仕事をしていたので、基本的な知識を習得したかったため
- ・NICUで勤務している中で医療的ケア児と関わりがあり退院に向けた他職種の連携を学ぶため

5) 意見・感想（抜粋）

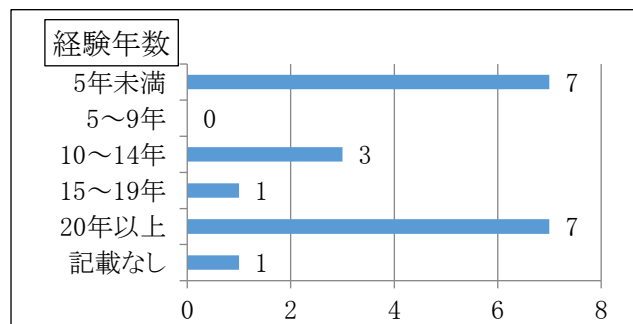
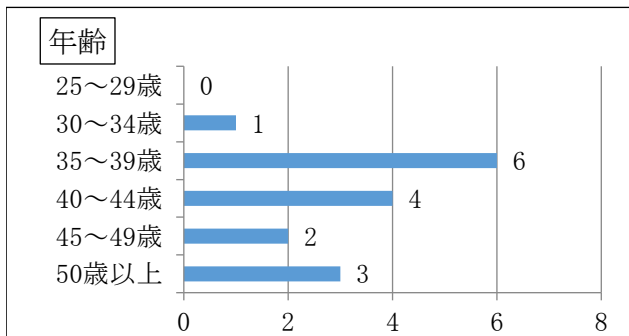
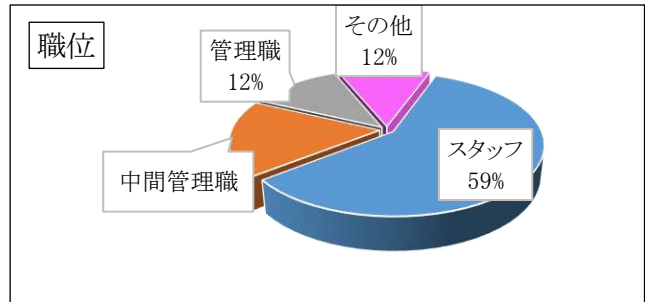
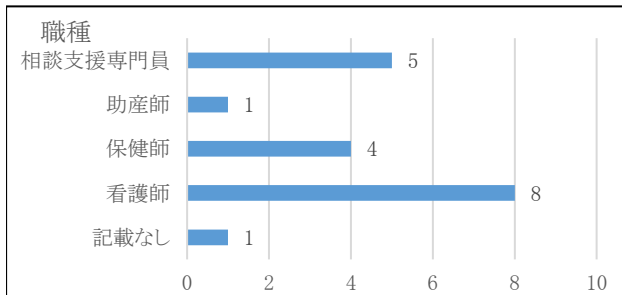
- ・私自身も重症心身障害児(ダウン症5歳)を育てる当事者です。医療的ケアはないものの、重度知的障害で、ようやく歩き始めたところです。これからの成長が楽しみでもあり、不安もあります。講義を通して今までの経験を振り返り、これからを見据えることができた。
- ・実際の事例を知ることができてよかった。
- ・全く医療的ケアについての知識がないまま、医療的ケア児に関わっていました。ケア児の身体や人工呼吸器をみていましたが、本人の気持ちとか本人にとって何が良いかを考えて、多職種がそれぞれの得意分野を活かして協力しあって関わっていることを学びました。多方面からの意見や、特にご家族の思いを聞いたことが良かったです。今、関わっているケア児や家族に当てはめながら研修を受けました。自分がみていること以外の周りのことも少し分かったように思います。
- ・どの講義の内容もすばらしく、目からうろこの内容でした。虐待や医療児童についてまた地域での支援やいろんな制度などもよく理解できました。この内容を学んだだけでなく、実践で生かすことができたらと思っています。
- ・大変勉強になりました。在宅医療に関する研修があればまた参加させて頂きたいです
- ・2日間ありがとうございます。職業として30年以上、障害者歯科診療20年以上、天使の翼プロジェクト参加もさせて頂いた経験もありますが、医療、教育、福祉の支援体制、地域共生社会として学ぶ事が無くもう数十年。2023年障害者歯科学会では医療的ケア児の演題があり医療的ケア児等支援者養成研修テキストが歯科の分野が入った改訂テキストが出されるのではとお聞きしました。歯科の分野からも支援が少しでも出来ればと思っています。よろしくお願い致します。講師の皆様お疲れ様でした。色々な学びがありました。
- ・佐川町の田元さんの講義が良かったです。ケースバイケースかと思いますが、急性期でない方で家族が家でみれない方が入れる入院先や施設の空き状況(県下)など知りたいと思いました。講義中に聞き取れていなければすみません
- ・医療的ケア児の実際のサービスや自宅での様子家族との関係がわかりとても勉強になりました。これから関わろうとする色々な職種のひとにとってとても実になる研修でした。有難うございました。
- ・どの先生も分かりやすかったです。保護者の方の発表も勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ほとんどの方は良く聞こえましたが、早口で聞き取りにくい方もいたので改善してもらいたい
- ・盛りだくさんの研修内容ありがとうございました。受身の研修だったので交流が持てず残念でした顔の見える関係作りの機会になればもっと良かったのではと思います。本に書いてある内容を読むだけでなくもう少し具体的に講義頂ければと思う研修もありました。医ケア児家族自身のお話もお聞きできありがたかったです。ただ精神的にご負担もあるのではとも思い恐縮でした。私は相談支援員ではないのでこの研修を受講していいのかと考えました
- ・自分の知らない情報や支援、サービスを知る事ができました。ありがとうございました。
- ・現在医ケア児の子どもさんに関わっているので、講義内容を照らし合わせながら聞くことができ、とても参考になりました。ありがとうございました
- ・地域で暮らすために、今あるサービスの工夫や具体例がとても参考になりました。
- ・全く医療的ケアについての知識がないまま、医療的ケア児に関わっていました。ケア児の身体や人工呼吸器をみていましたが、本人の気持ちとか本人にとって何が良いかを考えて、多職種がそれぞれの得意分野を活かして協力しあって関わっていることを学びました。多方面からの意見や、特にご家族の思いを聞いたことが良かったです。今、関わっているケア児や家族に当てはめながら研修を受けました。自分がみていること以外の周りのことも少し分かったように思います。

2. 医療的ケア児等コーディネーター研修(演習) アンケート結果

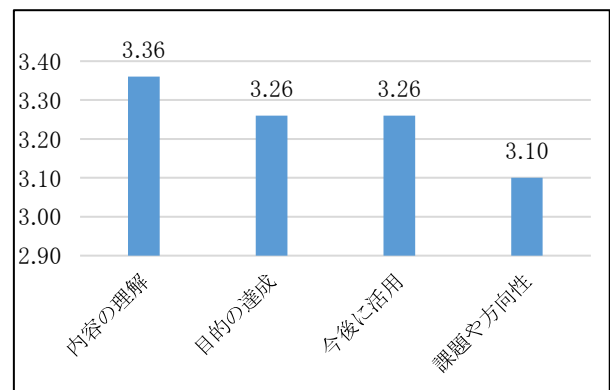
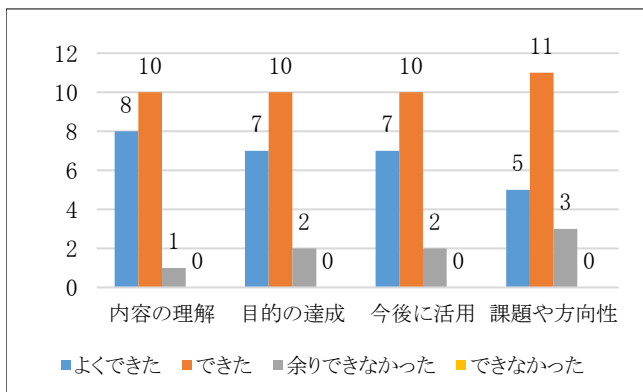
実施日 令和6年 1月18日～19日

回数数 19名 回収率 82.6%

1) 受講者背景



2) 研修内容について



3) 意見・感想（抜粋）

・貴重な機会をいただきありがとうございました。直接、相談支援業務に関わる予定のない方の参加が、高知県のコーディネーター数として反映されていくことに疑問は感じます。また、病院ソーシャルワーカーの参加がなかったので、退院時カンファレンスに私たち福祉関係者が呼んで貰えるようになるのか心配です。おいでになっていた医大、医療センターの看護師さんにせいぜい福祉をつかうなら、障がい福祉課を呼んでほしいことを伝えさせていただきました。

・GWでここはできるあそこはできない等サービスありきの検討になる事が多かった。計画立案もこう書くべき論に終始したファンリテーターも家族の思いをいれると複雑になるから絞って等の助言があり、地域サービス情報交換の雑談となっていた。計画立案ありきでなく多角的ニーズ等の抽出深掘りができれば良かった。アンケートは1日1日取って頂いたら修正できるのではないのでしょうか。医ケアとなる可能性のある児により早期からコーディネーターが関われる体制があれば尚良いと感じた。今後とも基本相談支援をする機会の多い立ち位置を活かし活動していきたい。

・看護師さんが多いグループで、医療に傾きがちなプランを自分は子どもの発達過程を大事にしたいと発言出来たのは良かったが、専門性の違いは肌で感じた。どの立場でも、子ども主体で、子どもに寄り添った計画を立てサービスを遂行出来る人材でありたいと思う。

・普段から福祉に関わる機会が少なく知識も浅いので、知らないことがたくさんあり勉強になりました。

・病院や病棟、患者によると思いますが、病院側も在宅を見据えて支援を行なっているため、そのことを前提として研修を開催してほしいです。それぞれの職種の立場からのコーディネートになると理解しました。目指す所は同じでも、多方面からの役割がもっと具体的に理解できると、即実践につなげる事ができると思いました。

・横田信也先生の講義を受け、医療ケア児等コーディネーターの役割が少しですが理解することが出来た気がします。横田先生が冒頭に「たくさんを終了者はいるが、実際に関わっている人は限られている」と話された言葉が心に残っています。今回の研修を実践に繋げられるよう努力していきます。長時間に渡りありがとうございました。フォローアップ研修を心待ちにしています。

・相談支援専門員等普段協働する機会がない職種の方の意見をたくさん聞くことができて勉強になった。

3. 研修担当者からのコメント

本年度もオンラインと集合での研修方法で開催した。本年度は、歯科衛生士の受講が初めてあり、医療的ケア児への関わりが多職種へ広がっていると感じた。

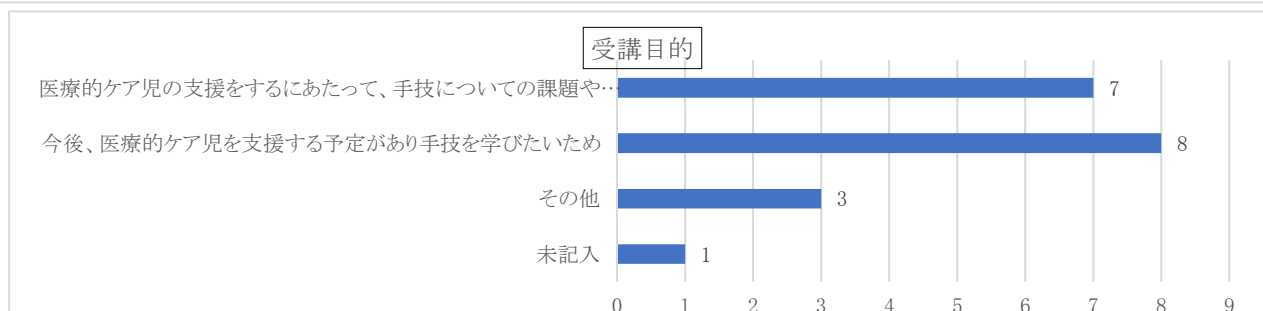
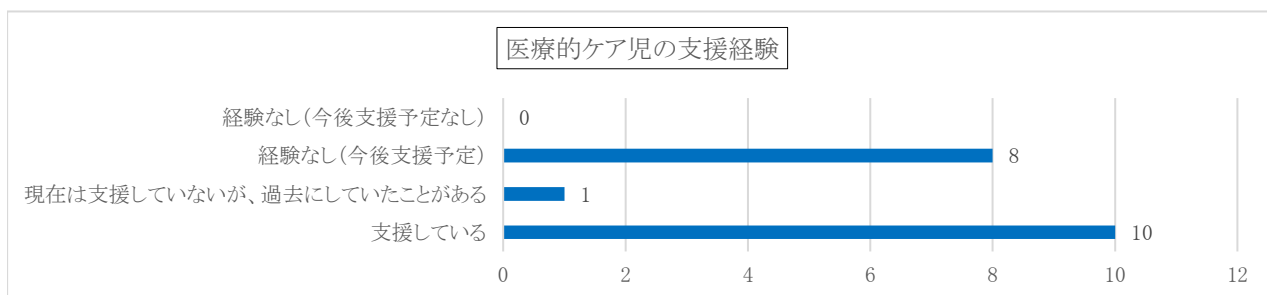
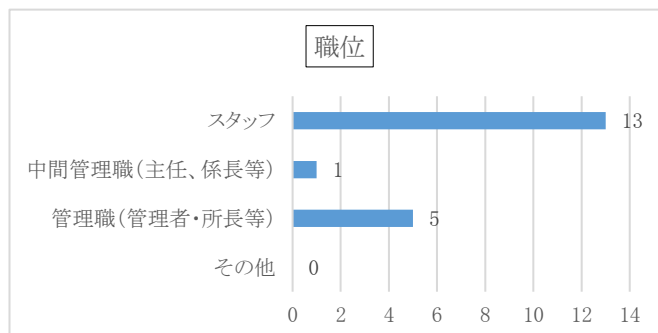
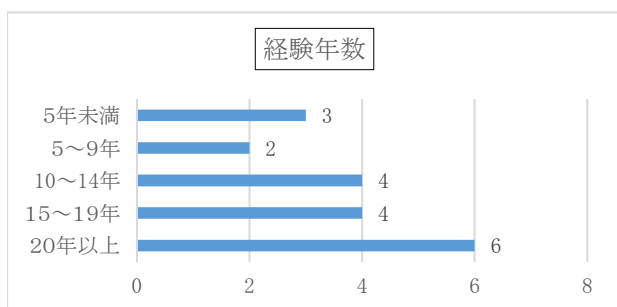
コーディネーター研修演習では、当協会への集合研修を実施した。それぞれのセッションでは意見交換が活発に行われ医療的ケア児等コーディネーターに必要な心得について受講生皆が共有することができた。

4. 医療ケア児等養成研修

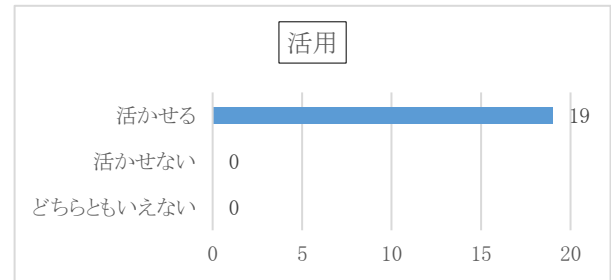
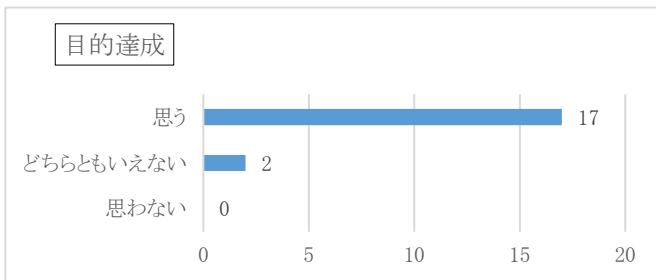
研修名	2) 医療的ケア児等のための看護技術研修(在宅領域)	
開催日時	①令和5年11月25日(土) 13:30~16:30 ②令和6年3月2日(土) 13:30~16:30	定員 :各12名
場所	高知県立大学池キャンパス	
受講者数	① 11名 (会員5名・非会員6名) ② 12名 (会員4名・非会員8名)	
ねらい	医療的ケア児と家族の支援に必要な看護技術を学ぶ	
講師	あおぞら診療所高知潮江 松本 務 高知中央訪問看護ステーション 長野 良江 こうち看護協会訪問看護ステーション 島内 さぎり 高知県立大学看護学部 有田 直子 高知県立大学看護学部 田之頭 恵里	
内容	医療的ケア(吸引、気管カニューレ、経管栄養)について実技演習	

1. アンケート結果 ①回答数 9名 回収率 82% ②回答数 10名 回収率 83%

1) 受講者背景 (n=19)



2) 研修内容について



- ・実践的な講義と実技実習ができた。
- ・新しい知識や技術など、なるほど！という内容がたくさんあった。
- ・人形を使って実際、手順や挿入長さなど自分で確認しながら技術を実施でき、わからないところは教えていただきながら学べた。
- ・経験年数も少なく、日々の業務の中でも不安や分からない、気になることが多々あり、参考書に載っていても内容が難しかったり、細かなことまでは載っていなかったりと、実際の現場を通して経験されている先輩方の説明と実技がわかりやすかった。
- ・基本的な事がわかっていないと実践で活かせないと思うので少しでも学べた事は活かしていきたいと思った。
- ・今、関わっている医療的ケア児に研修で教えて頂いた技術を直接することはないが、看護師として今後仕事を続けていく上で役立つと思った。
- ・病院と違って在宅環境でのケア方法を学ぶことができた。
- ・直接先生方に疑問を聞いた事でとても参考になった。
- ・現在、胃ろう管理中のため、抜去時の対応の再確認ができた。気管カニューレ者はいないが、対応が詳しく理解できた。
- ・抜去時の対応方法など新たな学びになった
- ・学んだことを伝達していこうと思った。
- ・人形で医療的ケアを経験できたこと、機器や物品に触れたこと、具体的なトラブル対応等が聞いたこと等で医療的ケア児への対応がイメージできた。(繰り返し学習は必要だと思う)
- ・現在私は、病後児保育室に勤務しているが、今後、保育園に医療的ケア児が入園するようになり、併設施設である病後児保育室を利用する可能性もある事と、病後児の利用がない時には、園の補助業務もしている為、在園児の医療的ケア児に対し、自分の看護技術力アップが必要であると思った。

2. 意見・感想（抜粋）

- ・今回受講出来なかったスタッフにも受けてもらいたい。今後もこのような研修会を定期的に開催していただきたい。
- ・事前学習動画は、繰り返し見たい動画であった。
- ・事前学習動画にいろいろな教材もあり、大変勉強になった。人形だったけれども実際に触れて経験させてもらうことができて基本がしっかり学べたので良かった。実際のトラブルの場の事例などもら聞かせてもらって大変参考になった。制度などもしっかり勉強していきたい。
- ・事前学習動画で前もって知識や手技を確認でき研修を受ける準備ができた。グループの方と一緒に実技を受けることで自分の不足部分や改善点に気づけより勉強になった。講師の方もとても質問しやすく丁寧に教えてくださったのでわかりやすかった。呼吸器や急変時の対応も学びたい。
- ・事前学習は少し多いかな？と思ったが、必要な内容で知らなかった事もありとても勉強になった。直接医師からのアドバイスも聞け学びの多い研修であった。今後は医ケア児のポジショニングや病態生理について、側彎の方に対する急変時の対応など研修あれば参加したい。
- ・ケアの手順集については、専門職の方だけに特化したような内容が難しいものではなく、医療的ケア児に関わるみんなが理解しやすい中身となっており、とても理解しやすく活用しやすいと思った。
- ・事前学習動画を見て研修を受ける流れは自分的には良かった。人数も多くななく講師の方の説明も分かりやすく質問もやすかった。次回も参加したいと思った。職場の看護師にも受けてほしいと思った。
- ・最初の演習場所で、グループの自己紹介をしたので、演習に入って行きやすかったと。質問は、講師にその都度答えていただいたので、分かりやすかった。グループメンバーで、日頃の業務のことなど意見交換する時間があつたら良かった。医療的ケア児の急変時の対応について研修を希望します。
- ・とても身になる良い研修だった。
- ・側彎の予防やポジショニング、BLSなどについて学びたい。
- ・緊急時の対応について。災害時対応。
- ・事前学習動画も分かりやすかった。当日は限られた時間だし、後の振り返りや情報としても、事前学習付きは良い方法だと思う。今回の研修は大きな学びとなりました。疾患別の講義もしあるならぜひ受けたいです。

3. 研修担当者のコメント

この研修は、今年度より初めての開催であった。昨年度より、会議やプレ研修を行い研修に臨んだ。受講生には研修前に事前学習動画を視聴してもらい研修に参加していただいた。この事前動画については受講生より評価が高かった。当初は、訪問看護ステーション等に勤務する看護師を対象としていたが、公募する中で、保育園等で医療的ケア児に関わっている方の参加希望が多かった。医療現場で働いていた看護師が現場を離れ、地域や在宅で医療的ケア児等の支援に関わることが年々増加していることが伺える。

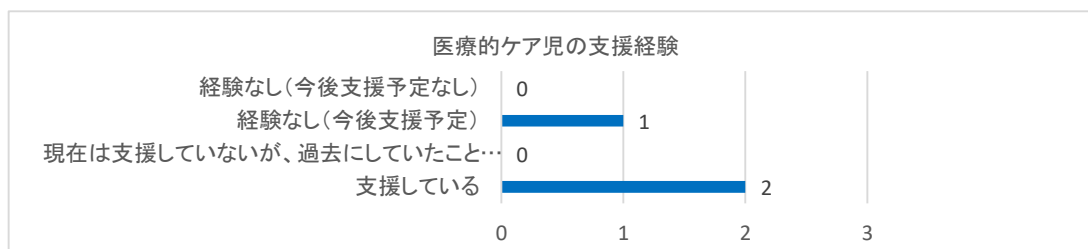
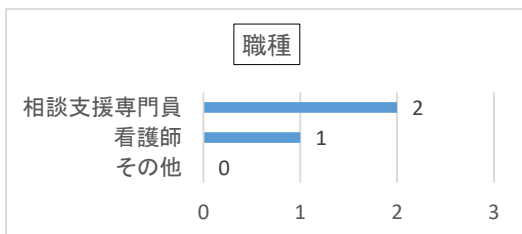
研修では、それぞれのブースで質問をし講師からの回答を受けていた。研修最後のセッションでは、受講生からの質問に対して全員で情報を共有することができた。次年度も継続した研修を実施していきたい。

4. 医療ケア児等養成研修

研修名	3) 医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修 医療的ケア児等を地域で支えるためのスキルアップ研修 ～医療的ケアを必要とする子どもの声をきこう！～	
開催日時	令和6年3月22日(金) 13:30～16:00	定員 :10名
場所	高知県看護協会会館	
受講者数	5名(会員1名・非会員4名)	
ねらい	医療的ケアを必要とする子どもの声を聴きその思いを感じることができる	
講師	土佐希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 林 恵 幡多希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 永吉 納美	
内容	医療的ケアを必要とする子どもさんとの対話等	

1. アンケート結果 回答数 3名 回収率 60%

1) 受講者背景



2) 受講目的

- ・理解を深めるため
- ・知識や見聞を広めたいため
- ・医療ケア児等コーディネーターとして勤務予定のため

2. 意見・感想（抜粋）

- ・ご本人の意見や意思を直接聞く機会や家族、支援者の気持ちを知ることができて大変意義のある研修だった。
- ・医療内容が多様な医療的ケア児に関わる時、各ケースの幅広さや、内容等専門的な事に対して、支援者としての不安感を抱えている。研修を受けることで、横のつながりや色々な助言を頂けることが、勉強になる。
- ・ご家庭とオンラインで結んでの研修は、とても貴重な時間であった。
- ・今後も医ケア児本人やご家族の声を聞ける研修会に参加したい。
- ・とても勉強になった。また参加させて頂きたい。
- ・医療ケア児等コーディネーターとして活動されている方々の話を聞きたい。
知識と経験値を積み上げ、少しでも寄り添えるコーディネーターとして活動していきたい。

3. 研修担当者のコメント

今回の研修は、受講生を少人数とし、医療的ケアを必要とする13歳の中学生の自宅と会場をオンラインで結びトークセッションを実施した。講師や受講生との対話を通じ笑いを交え、暖かな雰囲気の中での研修会であった。研修後に受講生からそれぞれの思いを手紙に綴った。

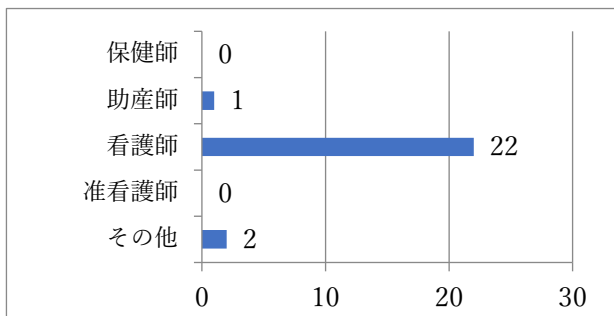
今後も、コーディネーターが活動できるよう、県担当者や講師と内容を検討し研修を継続していきたい。

5.就労環境改善のための体制整備事業

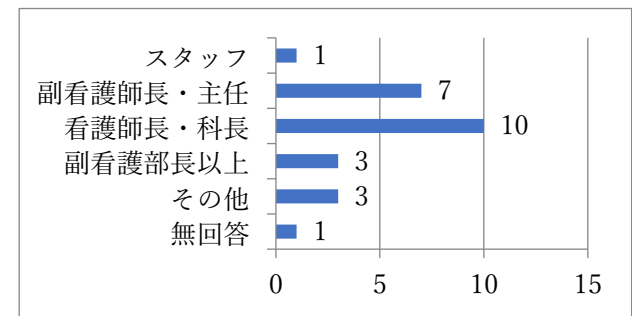
研修名	1) 看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ・【公開講座】	
開催日時	令和5年9月12日(火) 公開講座はweb開催	時間 9:30~15:30
受講者数	公開講座 27名(会員23名、非会員4名) ワークショップ 16名(5施設)	
ねらい	ワーク・ライフ・バランスインデックス調査の結果を分析し、課題の抽出とアクションプランの作成、勤務環境改善に取り組む	
講師	【公開講座】看護業務の効率化先進事例発表・2022受賞施設より ①「患者の転倒転落リスクをAIで予測し多職種連携で個別ケアを実践する！」 社会医療法人石川記念会 HITO病院 (愛媛県) ②「コロナ禍がもたらしたリリーフ体制構築の効果」 社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会千里病院 (大阪府)	
内容(キーワード)	就労環境改善 効率化 体制整備	講演・ワークショップ

アンケート結果 出席者:27名 アンケート回収:25名 アンケート回収率:92.6%

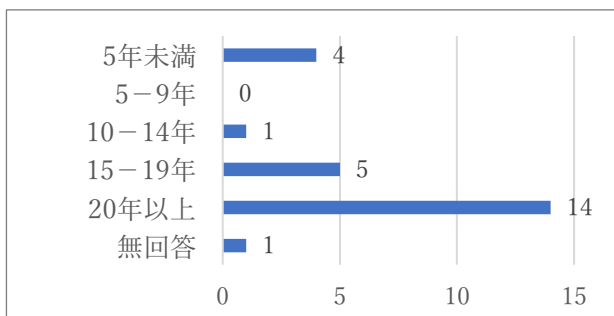
1) 職名



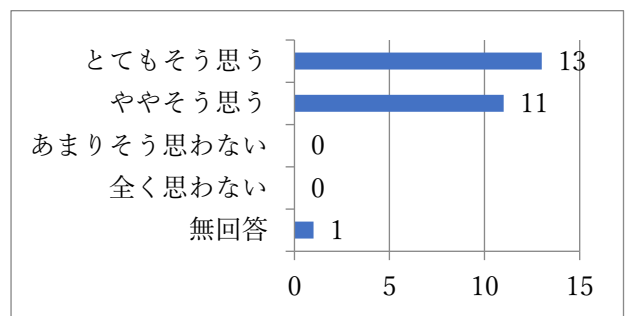
2) 職位



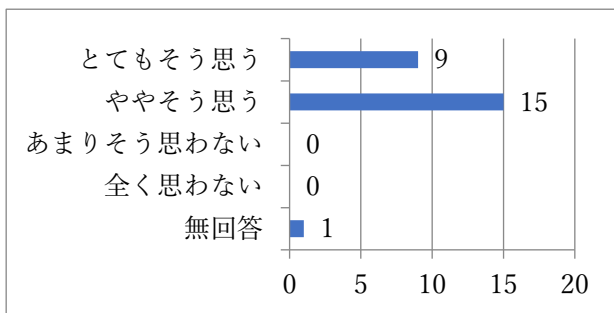
3) 経験年数



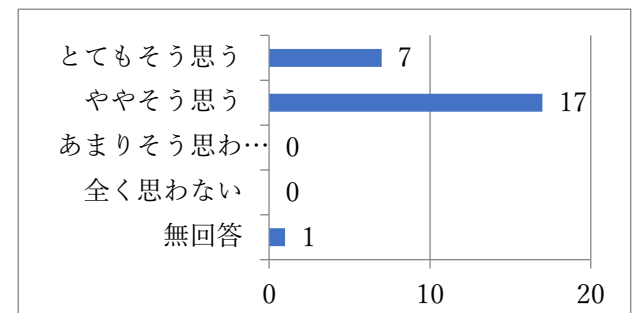
4) 研修内容の理解度



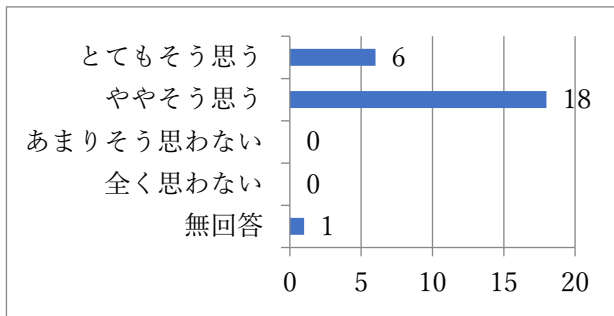
5) 参加目的の達成度



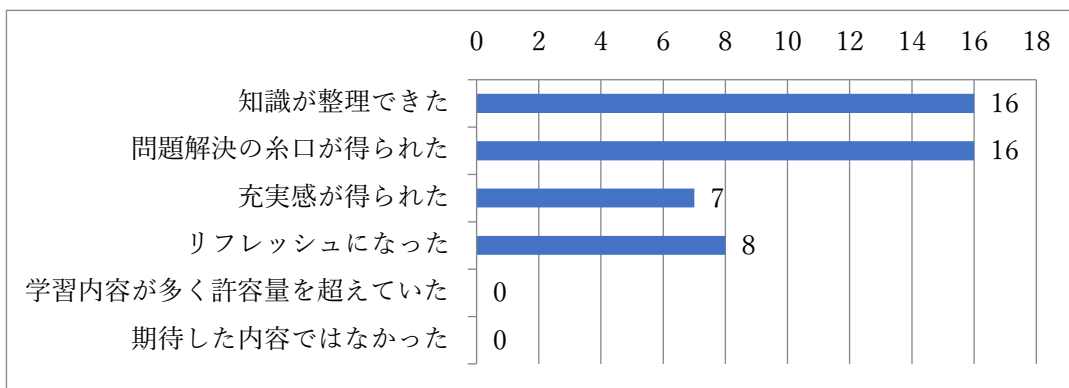
6) 今後の活動に活用できるか



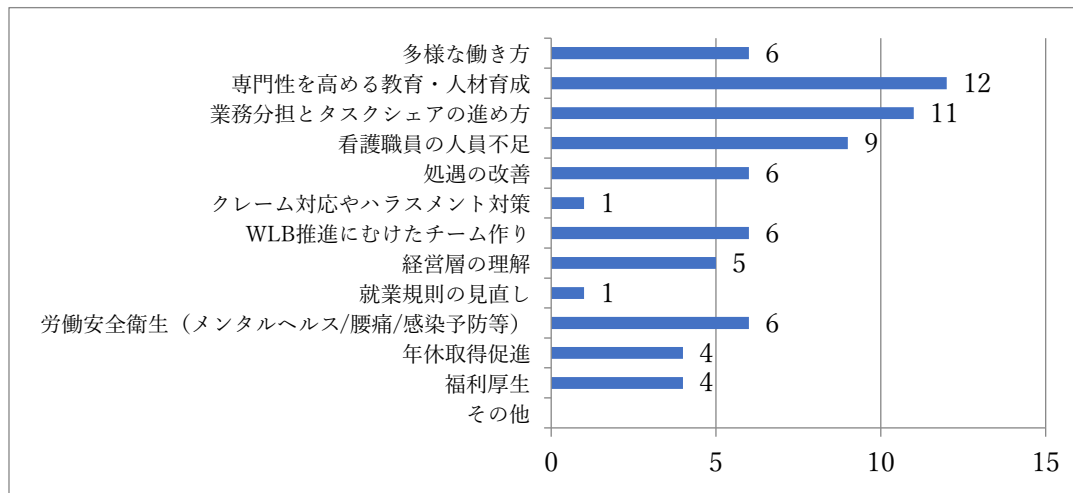
7) 課題解決の方向性が明確になったか



8) 研修全体を通じた感想(複数回答)



9) WLBを推進するための貴施設の課題は何ですか(複数回答)



※その他

- ・部署間の時間外労働格差が大きいこと
- ・日頃に職員の経験や知識を深めたいことを知っておくのもよいと感じた

2. 感想、意見

- ・とても参考になり良かった。
- ・考え方の整理が出来た。
- ・有意義であったと思う。
- ・年休の取得ややりがいといった課題が多いと思うが、職員がやりがいをもって仕事に取り組める環境作りができればよいと思う。

- ・他施設のお話や取り組みについて聞いて勉強になった。同じような課題も多く、もっと話を聞きたいと感じた。
- ・公開講座も、取り組みの参考になった。
- ・色々な施設の問題点などを聞くことができてとても勉強になった。

3. 担当者のコメント

今年の公開講座は、日本看護協会主催の「看護業務の効率化先進事例発表・2022」の受賞施設より、2つの施設に実践報告を依頼した。どちらの施設も、超少子高齢化の中で医療人材が不足することを想定し、DX化による業務効率化の促進や看護職員のリーフ体制の構築等、先駆的な取り組みであり、大変参考になる内容であった。

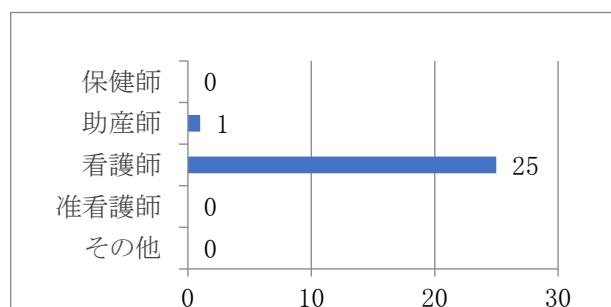
令和5年度のインデックス調査参加は8施設で、うち5施設がワークショップに参加し、自施設の課題分析後アクションプランの策定を行い実践するよう取り組むことができた。

5. 就労環境改善のための体制整備事業

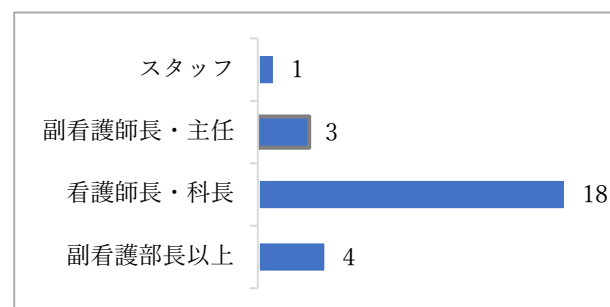
研修名	1) 看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ・【公開講座】	
開催日時	令和6年2月9日(金) 公開講座はweb開催	時間 9:30~16:00
受講者数	公開講座 45名(会員44名、非会員1名) ワークショップ23名(8施設)	
ねらい	自施設のアクションプランの実践報告や、他施設の報告を聞き、更に働きやすい職場環境改善にむけて取り組むことができるようになる。 ①策定した自施設のアクションプランの実践により、目標を達成することができる。 ②他の施設の課題に対する実践報告を聞くことで、自施設での参考にすることができる。	
講師	【公開講座】「人を育てるー幸せなキャリアの土台を築くための管理職の役割」 法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授 高田 朝子	
内容(キーワード)	就労環境改善 効率化 体制整備	

アンケート結果 出席者:45名 アンケート回収:26名 アンケート回収率:57.8%

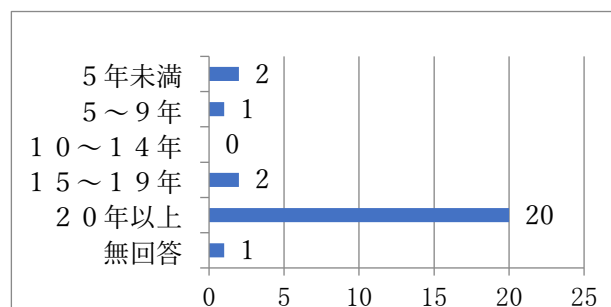
1) 職名



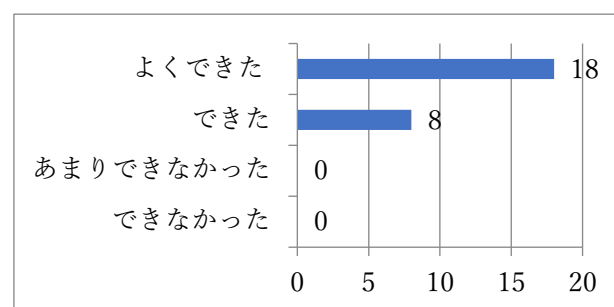
2) 職位



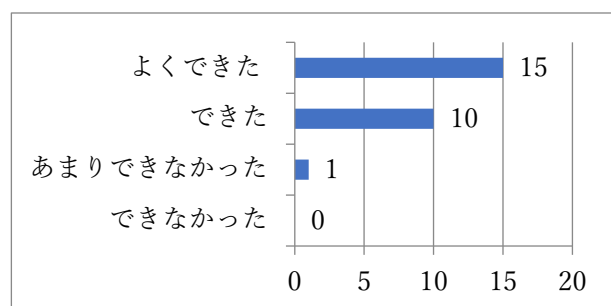
3) 経験年数



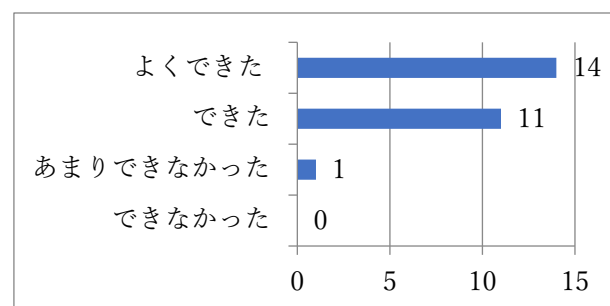
4) 研修内容の理解度



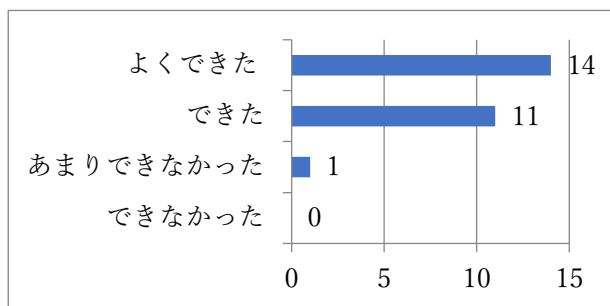
5) 参加目的の達成度



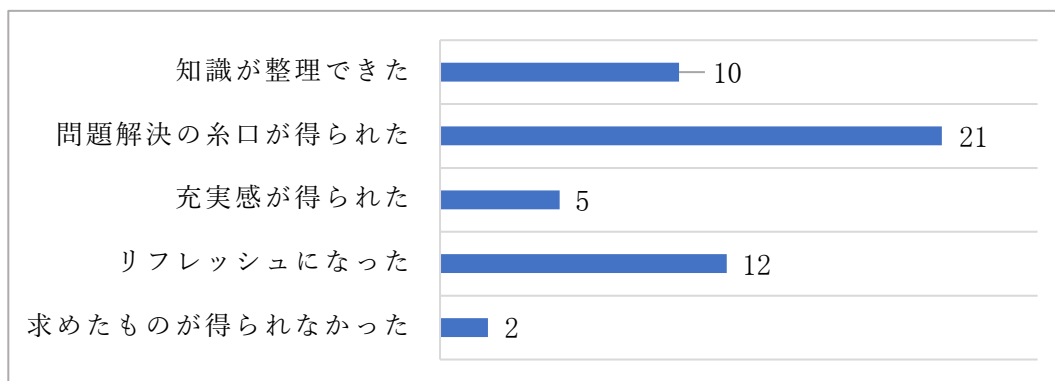
6) 今後の活動に活用できるか



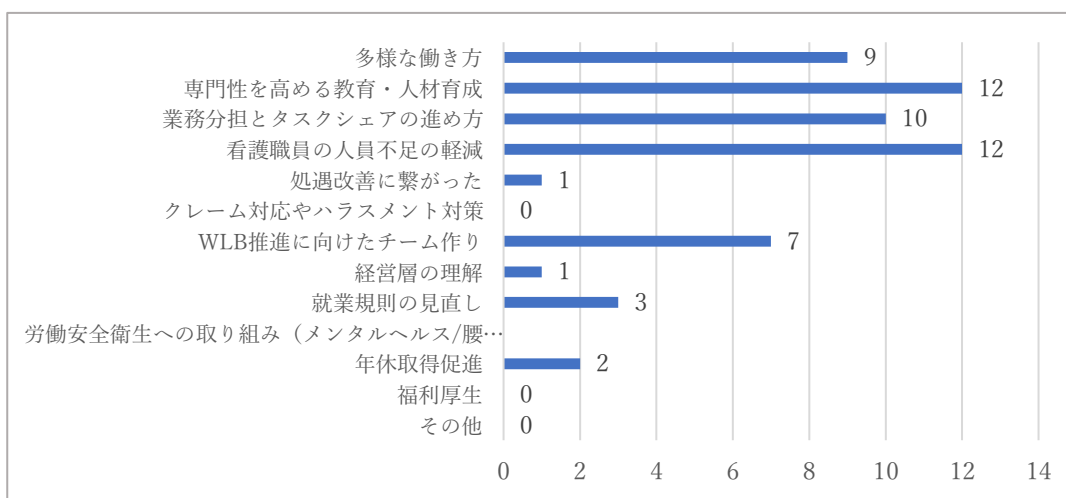
7) 課題解決の方向性が明確になったか



8) 研修全体を通じた感想(複数回答)



9) 今年度 WLB を推進してきたことで、よくなったと思われること(複数回答可)



2. 感想、意見

- ・リーダーシップについてポジティブに振り返ったり、改めて考えることができた。また、明日からがんばろうと思えて、参加してよかった。幾度かの修羅場体験を通して成長してきたが、させる立場になると躊躇してしまう。フィードバックを通して支えること、成長と一緒に感じ喜べるようになれるとよいと感じた。
- ・公開講座に参加して、看護に限定した視点のみならずリーダーシップや課題解決についての広い視点を知ることができた。看護が特殊という考え方から脱却する必要があると感じた。
- ・他施設の取り組みを共有でき、参考になった。
- ・各施設の取り組みが分かった。参考にさせていただく。
- ・他施設の取り組みを知ることができ、当院でも取り入れて業務改善に繋げられる内容があったので参考にしたいと思う。

- ・ 公開講座に参加させていただいた。人を育てたいけれどどう進めたらいいのかわかなくて悩んでいた。マンツーマンにも力を尽くしていたのだが、肩の力を抜いていこう、環境づくりに尽力していこうと思う。今後どうしていったらいいのかわか、すぐに答えは出せないがとても分かりやすく、面白く、そして参考になった。
- ・ 今後も、継続的に取り組みをすすめていく。

3. 担当者のコメント

公開講座はオンラインで行った。人を育てることはリーダーシップの大事な要素であり、リーダーシップの構成要素は「決めること」「配ること(教育を配る・育てる)」「繋げること」である等、人材育成におけるリーダーシップのあり方や管理者の役割について改めて学ぶことができた。

ワークショップでは、取り組み施設の報告が簡潔にまとめられていた。他施設の取り組みが共有でき参考になった、自施設の業務改善に繋げることができる内容であったとの声が聞かれた。

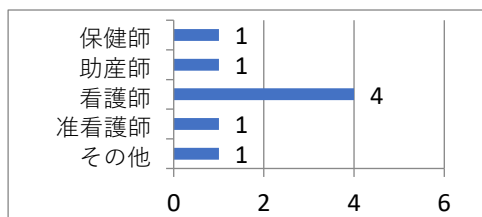
6. 新型コロナウイルス感染症等対応人材育成研修

研修名	新型コロナウイルス感染症等対応人材育成研修		
開催日時	令和5年1月16日(火)	時間	9:00～16:00
受講者数	受講者 8名(会員2名 非会員6名)		定員 30名
ねらい	新型コロナウイルス感染症等の新興・再新興感染症の拡大といった健康危機発生時に備え、IHEAT要員に対して保健所などにおいて支援する業務の実施方法や感染症に関する科学的知見に基づいた知識や技術の習得を図り、IHEAT要員による支援体制を整備することを目的としている。また、登録者以外にも(保健師、看護師等)研修を実施し、応援派遣体制の強化を図ることを目的としている。		
講師	医療法人白菊会白菊園病院 感染管理認定看護師 森田 安世 高知市保健所地域保健課副参事地域保健・人材育成担当管理主幹事務取扱 小原 牧 高知市保健所地域保健課結核・感染症担当係長 山崎 真妃 高知県衛生環境研究所保健科学係長 松本 一繁 高知県立大学看護学部 助教 高橋 真紀子(体験者談)		
内容	感染症の基本的知識と予防対策や保健所における新型コロナウイルス感染症対応の実際(事例演習含む)、疫学的調査やPPE装着方法		講義・演習

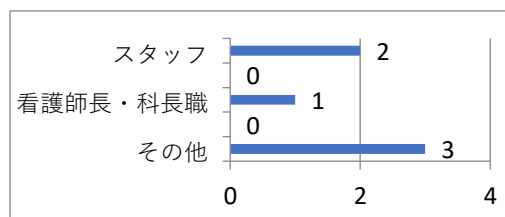
受講者: 8名 アンケート回収: 7名 アンケート回収率 87.5%

I. アンケート結果

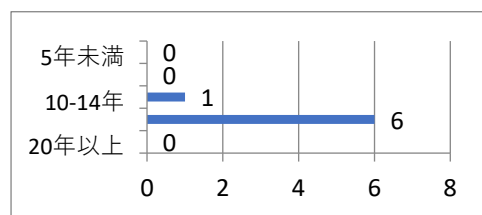
1 職名



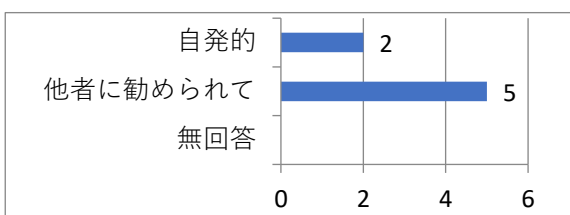
2 所属



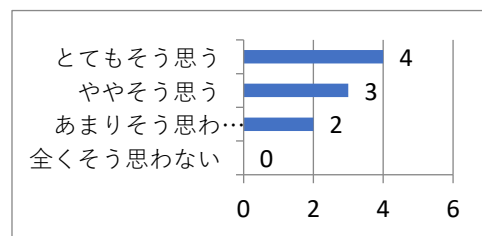
3 経験年数



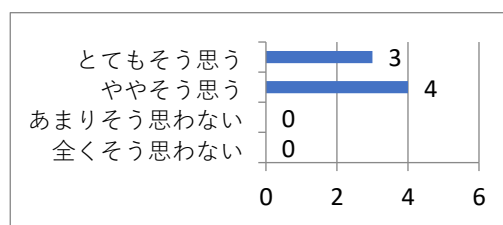
4 参加の動機



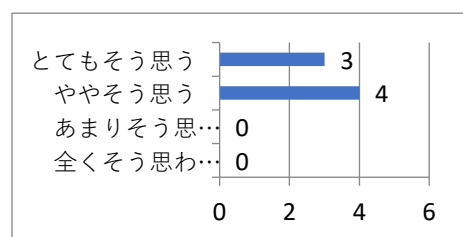
5 研修内容の理解度



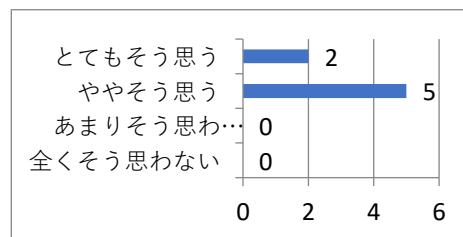
6 参加目的の達成度



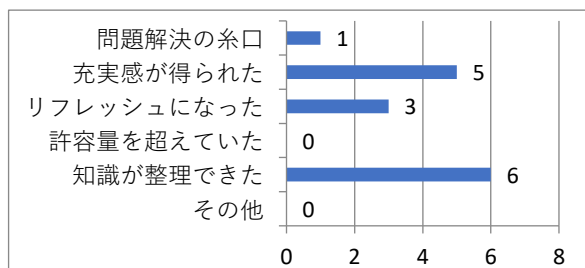
7 今後の活動に活用できるか



8 課題、方向性の明確化ができたか



9 研修の講義全体を通した感想(複数回答可)



II. 研修全体を通した感想

- ・感染症に特化した看護師がいる施設もあるが、医師のいない施設のコロナ対応の大変さを昨年聞きました。その後 5 類になってからの状態や工夫、改善点なども知る機会があればよいと思います。
- ・疫学的調査の対応は、ケースバイケースであるが、「訓練」という視点で事例を重ねていくしかないように思います。
- ・看護師、保健師と現場での業務は分かれると思うが、それぞれの分野の感染症支援について知っておくことは大事だと思う。
- ・施設での感染対策では認知症の患者さんもおられ、感染対策も一言では言えないだろうと思いました。その大変さを聞きたかった。
- ・感染者ベッドのゾーニングをもう少しゆっくり聞きたかった。
- ・積極的疫学調査をする中で、言葉だけのコミュニケーションでは難しいと感じた。
- ・PPE の演習は、振り返りにもなったし、防護服の着脱方法が体験できて、しんどさや解除の方法が実践でき良かった。
- ・感染経路別予防策では、疾患による経路を理解することや行動に移せることが大切だと思った。時々、このような研修が必要だし、実際に感染発生時のシミュレーション訓練が必要だと思った。
- ・ロールプレイでは、限られた情報からいかに対象者と関わるかテクニックが必要だと思った。クラスターの特定や家庭内での感染防止なども伝えていくコミュニケーションスキルの向上が必要だと思った。
- ・PPE 着脱手順では、自分を守ることや感染拡大防止をすることを意識して安全な着脱をする必要があり、定期的な訓練が必要だと思った。
- ・積極的疫学調査では、多人数や様々な性格の人に対して聞き取りをすることになる。言葉の選択の難しさや調査対象者からの信頼を得ることの難しさなど大変な業務であると思った。
- ・PPE 着脱訓練では、フル装備を体験でき楽しかった。当時は、防護具が足りない状況であったため、物品の使い捨てはもったいないと思ったが勉強になった。

III. 担当者コメント

主に IHEAT 要員対象の研修であるが、未登録者の参加も推奨しており、今後の登録要員増加のためにも参加者増加につなげる方法を考えていくことが課題である。また、研修内容は、主に住民から感染症の知識や対策をどのようにすればよいのかなどの相談に対応できる知識・技術の習得を考えたものにするとなお良いと思った。

看護職員確保対策事業

1.事業の目的

保健師、助産師、看護師及び准看護師で、未就業の者に対し就業促進に必要な事業、看護業務等のPR事業を行い、医療機関等の看護職員の確保に寄与する。また、看護師等の人材確保の促進に関する法律に基づく離職者の届出制度に対応し、スムーズな復職につなげる支援を行う。

2.事業内容

1)看護の心普及等・ナースセンター強化事業

(1)ナースセンター事業

「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、高知県の委託を受け高知県ナースセンターの運営を行う。

ア. 看護職員就業促進事業

①就業を容易にするための看護技能知識についての相談、就業に関する指導を行う

②公共職業安定所との連携を図り、ナースセンターコンピューターシステム(NCCS)を利用して求人状況に関する情報の提供、就業の斡旋を行う。

《実施曜日等》

区分	実施曜日	1日の実施時間	年間実施日数
①看護技能知識についての相談、 就業に関する指導 ②無料職業紹介事業	月～金	9時～17時	246日

《eナースセンター登録者数及び就業率》

区分	eナース登録 未就業者数(A)	eナース新規 登録者数(B)	就業者数 (C)	就業率 {C÷(A+B)}×100
保健師	36人	12人	5人	10.4%
助産師	1人	0人	0人	0.0%
看護師(准)	看484人 准5人	168人	75人	11.4%
計	526人	180人	80人	11.3%

※2024年3月31日時点(2023年度末)

《eナースセンター求人登録施設数及び医療機関数等》

	病院(A)	診療所(B)	計(A)+(B)
2024年4月1日の総数	120	525 (うち有63床)	645
eナースセンター求人登録施設数 (2023年度末時点の登録数)	53	6 (うち有3床)	59

《2023年度 相談等件数》

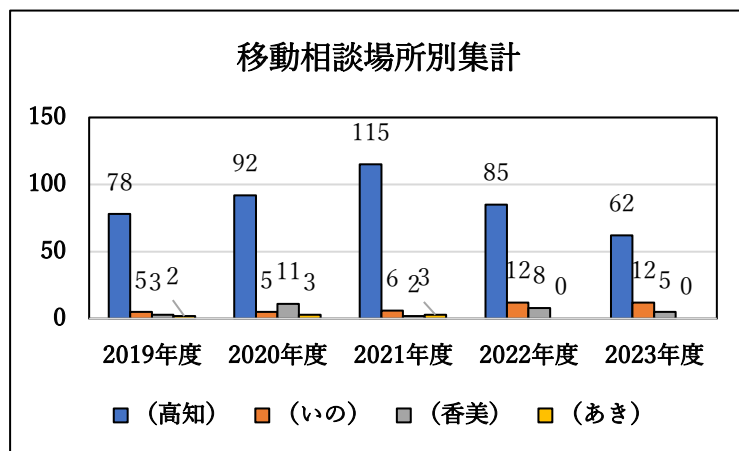
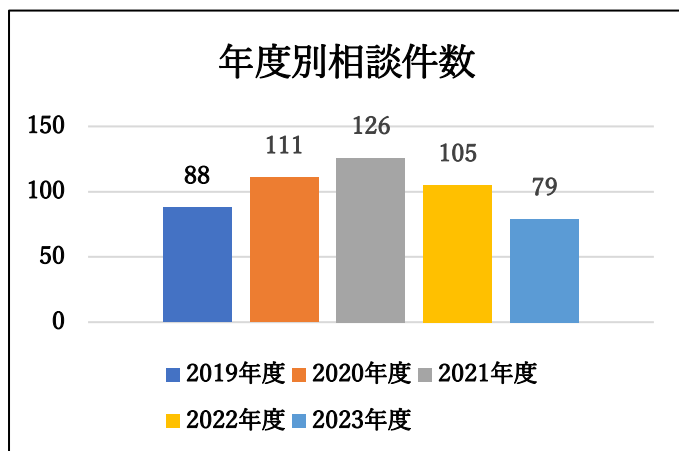
業務		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
求職	未所	1	8	8	7	3	4	5	4	5	8	4	1	58
	TEL	15	29	37	40	37	37	11	19	12	55	46	20	358
	メール	2	2	0	5	1	3	6	6	1	0	15	0	41
	郵送	2	0	12	1	2	1	0	0	0	0	1	0	19
	FAX	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	その他	5	11	1	23	2	6	6	9	10	10	6	2	7
求人	未所	0	0	23	2	0	0	2	1	1	8	0	1	38
	TEL	32	33	14	29	57	46	42	12	12	9	27	42	355
	メール	4	5	0	11	5	5	5	2	2	8	1	1	49
	郵送	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	FAX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	6	9	0	0	0	0	0	0
進路	未所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	TEL	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
	メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	郵送	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	FAX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	10	0	17
合計	61	89	101	120	116	108	86	53	43	95	109	72	1053	

《公共職業安定所(ハローワーク) 出向相談実績》

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたが、相談件数は昨年度より減少している。e ナースセンター新規登録者やハローワークに来所された人などに対して、広報活動は継続して実施し、研修参加などを促していく。

ハローワークとの連携では、就業相談者の共有や人材確保対策推進協議会への参加、医療関係面接就職相談会へ参加を行い、協力体制の継続を図った。

年2回開催される、ふくし就職フェア(主に介護職)のイベントにも出向き、年間平均5名程度と少なめではあるが、看護職の相談がある。イベント開催後からナースセンターを利用する求職者もいるため、継続して働きかけていく。



イ. 「看護の心」普及事業

- ① 高校生及び学校の進路指導担当者等を対象に、看護職等についての知識や理解を深める機会とし、将来の看護職の人材確保のための広報活動、進路相談事業を行う。

- ②「看護の心」の普及啓発を通じて、県民一人ひとりの看護についての関心を高め、理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図るための事業を行う。

《こうち看護フェア》

5月13日(土)、こうち看護フェアをオンラインで開催し、先輩看護職の語り、看護系学校教員による学校紹介、県の奨学金について説明があった。看護職をめざす高校1～3年生78名(1年生3名、2年生8名、3年生61名、学年不明6名)が参加した。

先輩看護職の語りでは、保健師、助産師、看護師、訪問看護師から、自らの体験、業務内容、患者との関わり、魅力などについて語りがあった。アンケートでは、「進路の参考になり、改めて看護師になりたいと思った」「これからの未来の自分と重ね合わせて考えることができた」「保健師、助産師にも興味がわいた」「現場で働いている看護師さんのアドバイスも聞けて良かった」との感想が聞けた。

また、看護系学校紹介には、県内の大学、短期大学、専門学校7校が参加し、それぞれの学校の特徴やオープンキャンパスの紹介などについて説明があった。参加した学生からは、「看護学生の声が聞けて、イメージしやすかったです」「高知県には多くの看護学校があって参考になった」「進学先を超えた就職のことまで現実的に考えられる機会になりました」という感想が多く聞かれた一方で、「スライドが早くメモができなかった。もう少し学校の紹介を聞きたかった」などの意見もあった。次回開催の参考に反映したいと思う。

《ふれあい看護体験》

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい始め、2019年より開催を見合わせていた。しかし、新型コロナウイルス感染症が5月8日から5類になったため、開催するにあたり意向調査を行なった。各施設新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残っている状況ではあったが、協力病院が35施設(受入可能人数232人)あり、4年ぶりに開催の運びとなった。高校生参加希望人数は444名と多くの応募があったが、受入れ枠はほぼ半数のため、225名が体験予定となった。7月28日から8月18日の夏休み期間、実際実施できた病院が29施設、高校生は179名と減少した。理由は、施設側(職員・患者)でコロナ感染者が増えたことや、台風の影響で協力施設が減り、参加できなかった高校生がいたこと。また、高校生側の怪我や体調不良者もいたためである(7施設24名が参加不可)。

高校生からは、「看護師さんがどんな雰囲気の仕事しているか、わかった」「患者さんとお話する機会があり、楽しかった」「見学した科が興味のある科じゃなかったけど、他の科にも興味を持つことが出来て、視野が広がったのでいい経験ができた」「調べるだけじゃわからないこともあるので実際に見て色々な体験をさせてもらってすごく看護師になりたいと思えたので良かった」「臨床の場だからこそ気づくことができる、感じるがあった。例えば患者さんとのコミュニケーションひとつにしても、ただ会話をするだけでなく、看護師の患者に対する態度、観察視点、気遣い全てが信頼関係などへと結びつくのだなと思った」という感想が聞かれた。

久しぶりの開催であったため、高校2、3年生を中心に協力施設へ振り分けたが、来年度は進路を考える時期にある1、2年生を中心に体験ができるようにしたいと考えている。

《とさっ子タウン》

子どもたちが市民となり運営する「こどものまち」とさっ子タウンが、8月に開催された。高知市民活動サポートセンター、認定特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議、公益社団法人高知市文化振興事業団等が主催し、高知市文化プラザかるぼーとで、およそ 50 種類ほどの職種を 217 名の子どもたちが、お仕事体験をした。高知県ナースセンターもナースセンター委員と協力し、健診ブースを作成。子どもたちに看護体験を提供した。子どもたちからは「楽しかった。」「兄弟がいるから赤ちゃん抱っこしたことあるよ。」等元気な声が聞かれた。

(2)ナースセンター強化事業

①離職者の把握と早期復職の支援を行う。

- ・医療機関を訪問し届出制度によるナースセンターへの登録普及活動
- ・医療機関等の離職者等の状況を把握(とどけるん)
- ・就業相談

②潜在看護職員復職研修事業を実施する。

《とどけるん登録状況》

	累積数	前年比
2020 年度	84	22
2021 年度	135	51
2022 年度	58	-77
2023 年度	28	-30

《施設訪問》

病院	施設・訪問 ST	市町村	学校	合計
14	3	1	1	19

2023 年度は高知県訪問看護総合支援センターができ、現在訪問看護師で働いている方、これから訪問看護師を目指そうとしている方々の支援に力を入れる取り組みが始まり、ナースセンターも高知県内の訪問看護ステーションも施設訪問に加えた形で実施した。

《再就職相談会》

再就職を考えている看護職と看護職を確保したい施設の求人担当者を対象に 2 回開催した。

	7/2(日)	1/28(日)
求人施設数	19	14
求職者数	12	15
就職者数	2	3

第 1 回は、病院 13 施設、障害者支援施設 1 施設、デイサービス1施設、訪問看護ステーション3施設、看護学校1施設であった。参加年齢は 60 歳以上が4名、50 歳代が5名、40 歳代が2名、30 歳代が1名。うち 60 代が 1 名、50 代が1名病院に常勤で就職した。

第 2 回目は、病院 12 施設、訪問看護ステーション1施設、看護学校1施設。参加年齢は 60 歳以上が4名、50 歳代が6名、40 歳代が3名、30 歳代が2名であった。うち 60 代が1名、40 代が1名、30 代が1名病院に就職した。常勤1名、非常勤2名であった。

《潜在看護職員等復職支援研修》

この研修は、復職のための心構え、最新の看護現場の状況、看護実践に必要な基本的な知識と技術等を確認することにより復職支援につなげることを目的に、年3回開催している。今年度は、計 22 名の参加者があり、4名が就職した。

研修プログラムは次頁の内容で、講師は専門分野で活躍している現場の看護師の方々である。

2022 年度			2023 年度		
開催月	参加	就職	開催月	参加	就職
6月	6	3	6月	9	3
9月	8	2	9月	9	0
2月	2	0	12月	4	1

【 2023 年度 中央地区研修プログラム 2 日間 】

	テーマ	講師
60 分	医療・介護福祉を取り巻く社会の変化	高知県看護協会会長 藤原 房子
120 分	創傷管理の基本	《皮膚・排泄ケア認定看護師》特定行為研修修了看護師 社会医療法人近森会 近森病院 安松 和美
120 分	救急対応	《クリティカルケア認定看護師》特定行為研修修了看護師 社会医療法人近森会 近森病院 酒井 由夏
120 分	感染管理の基礎	《感染管理認定看護師》 社会医療法人仁生会 細木病院 土居 世知 地域医療機能推進機構 高知西病院 笠原 久美
120 分	医療安全の基礎知識	《医療安全管理者》 日本赤十字社高知赤十字病院 看護副部長 伊勢田 純子
60 分	採血・筋肉注射・点滴の模擬実施	看護師 杉本美和子

実務研修

協力施設	実務人数	就職者数	雇用形態
もみのき病院	2名	2名	常勤1名・非常勤1名
あき総合病院	1名	0名	—
三愛病院	1名	1名(実務研修以外の病院)	非常勤
こうち看護協会 訪問看護ステーション	1名	0名	—

新型コロナウイルスが5類に移行されてから実務研修を再開した。講義のみ参加した求職者が1名就職したの
に比べ、実務研修に参加した求職者は3名であった。実際、協力病院で研修に参加し、患者さんや同職業の方
と触れ合うことで自信に繋がり不安が軽減したという感想が聞かれたため、来年度も少しでも多くの潜在看護師が
現場復帰できるように協力施設と密に連携しながら、継続して取り組んでいく必要があると感じた。

《プラチナナースセミナー》

病院や施設において、様々な看護の経験を積み、熟練した看護技術と対人スキルをもつプラチナナース(定
年退職前後の看護職等)の方々が、退職後のライフプランや生活の保障について考える機会を目的に7月と11
月に開催した。参加者は就業中で定年退職が近い年代が主であった。年金や資産運用の内容の他にスキルを
実際どのように活用していくとよいかを聞きたいという声も聞かれたため、来年度はグループワークやディスカッ
ションなど、就業中の方々との交流をメインにし、退職後の働き方のヒントになるような講義ができるように考慮し
ていく。また、潜在看護職はパソコンやスマートフォンに慣れてない方が多く、kangonoto での申込が難しいとい
う意見が聞かれ参加がなかった。申込方法を電話やメールに変更し、どのかたでも参加が出来るように工夫する
予定である。

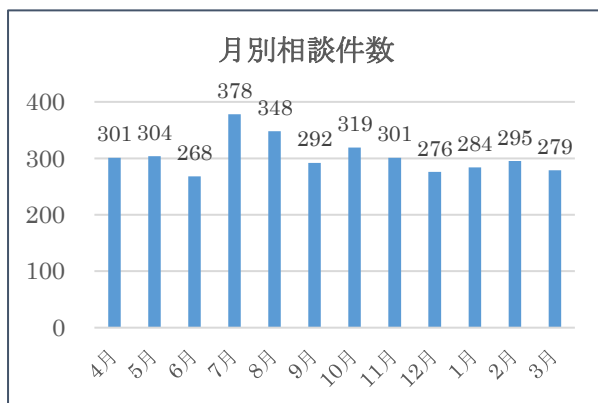
2023 年度	7/25(火)	11/28(火)
参加者数	5	5
参加者のうち Zoom 参加	1	2
就職者数	就業中の方が参加	就業中の方が参加

小児救急電話相談事業

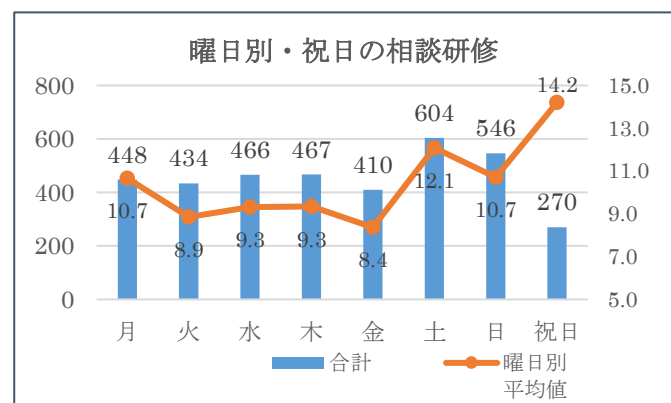
事業名	こうちこども救急電話相談	
目的	小児を持つ保護者などが安心して子育てができるよう環境づくりを推進し、子育て支援を行うため、夜間、子どもの病気などに関する電話相談に応じ、怪我等の応急処置についての助言と情報提供を行い、保護者に安心を提供する。	
開催日時	令和5年4月1日～令和6年3月31日	20:00～1:00(5時間)
相談員	小児看護に精通した看護職	
対象者	おおむね15歳未満の子どもの保護者等	
留意事項	① 電話相談の実施にあたっては、相談者に対し、相談員が行う助言が電話による限られた情報に基づくものであり、相談者の判断の参考とするためのものであることを十分に説明し、理解を得たうえで行う。 ② 相談員は、相談受付後は相談記録を作成するとともに、相談者のプライバシー保護に努め、相談記録等の管理に十分配慮を行う。	

こうちこども救急電話相談結果（令和5年4月～令和6年3月） n=3,645

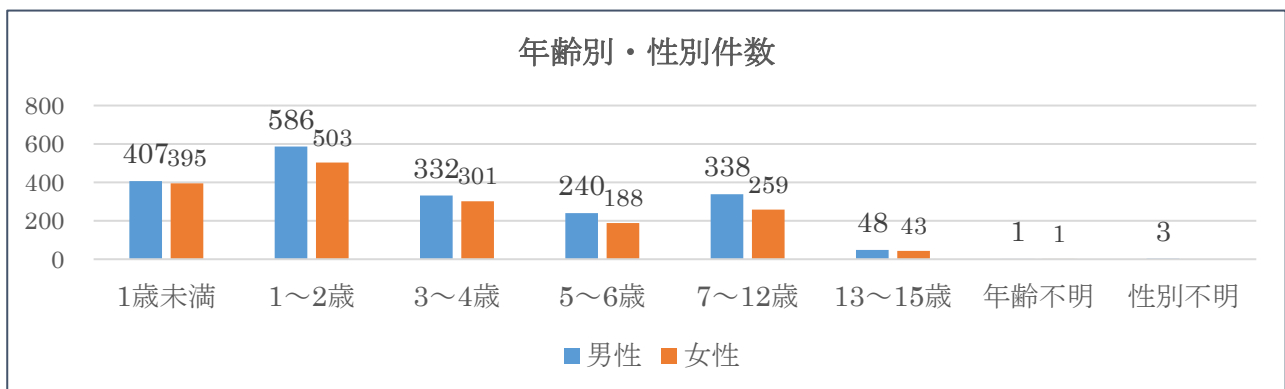
1. 月別相談件数



2. 曜日別相談件数



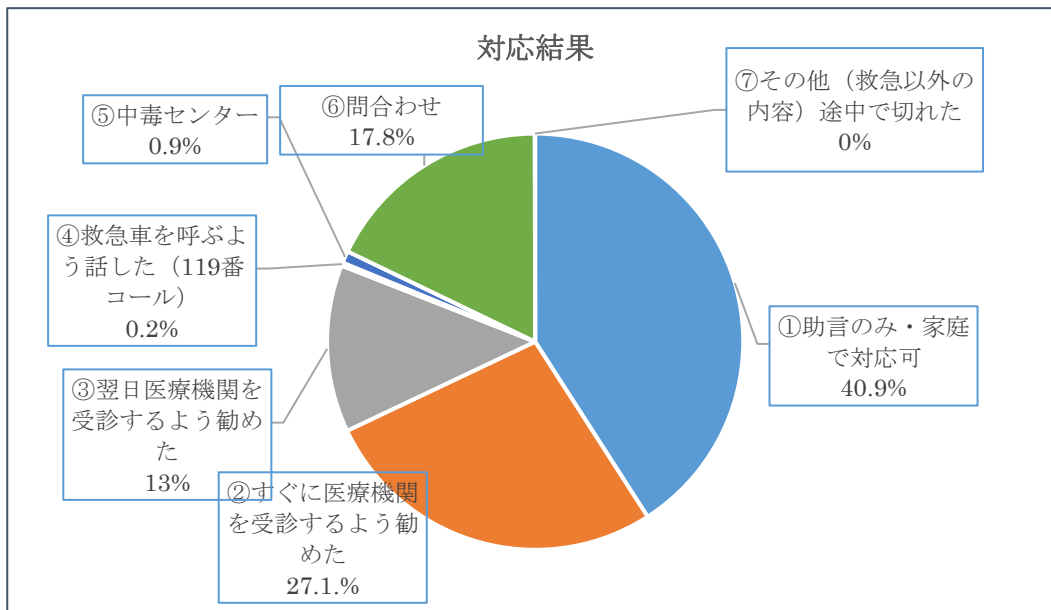
3. 年齢別・性別相談件数



4. 年間相談者件数・割合

相談者	母親	父親	祖父母	親戚	その他
相談件数	2,955	646	33	5	6
%	81.1	17.7	0.9	0.1	0.2

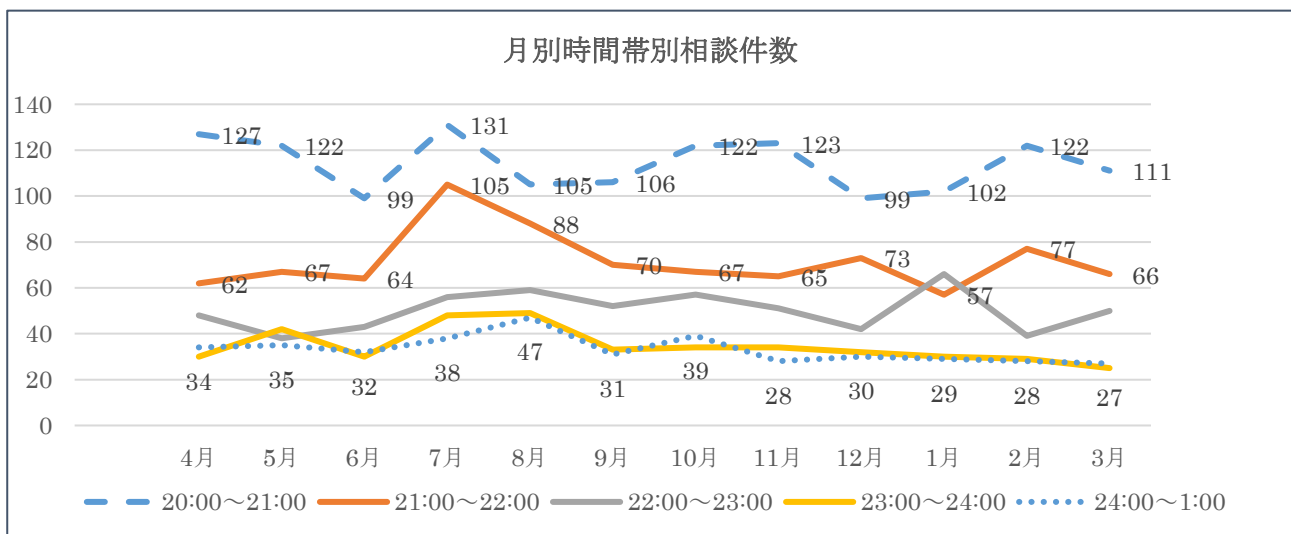
5. 対応結果別割合



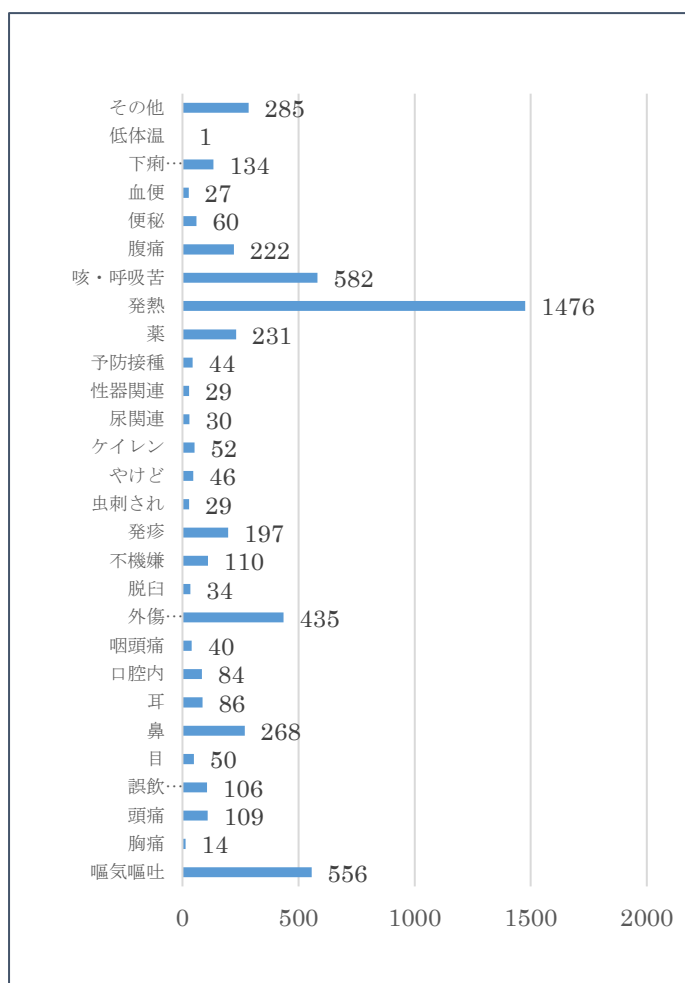
6. 相談者居住地域別件数

高知市	南国市	香美市	香南市	土佐市	室戸市	安芸市	須崎市	四万十市	宿毛市	土佐清水市	東洋町	奈半利町	田野町	北川村	馬路村	安田町	芸西村	大豊町
2214	326	121	174	156	14	34	88	87	30	4	2	11	7	2	0	6	11	5
本山町	土佐町	大川村	いの町	日高村	佐川町	越知町	仁淀川町	津野町	梶原町	中土佐町	四万十町	黒潮町	三原村	大月町	不明	県外	合計	
4	10	0	99	19	55	11	13	23	9	16	52	13	0	5	9	15	3645	

7. 月別時間帯別相談件数



8. 令和5年度相談内容別相談件数



* 重複相談あり

9. まとめ

令和5年度電話相談件は3,645件で前年より176件少ない。1日当たりの件数は8.9～14.2件であった。

月別相談件数では、7月8月が多く、感冒症状等が教育機関や保育機関で流行したこともあり、相談が多かった。

曜日別では土日祝日が多い。

相談者は母親が81%と最も多いが、父親からの相談も17.7%と昨年の17.4%より微増している。

時間帯別では、20時から21時が最も多い。

症状では、発熱1476件、次いで呼吸器症状582件、嘔気嘔吐556件、外傷436件となり傾向は同じであった。

10. その他

相談員は2名が新規に入り、9名の看護師により業務を継続している。

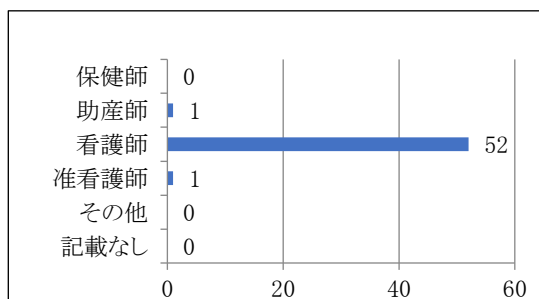
相談者の幅広いニーズに的確に対応するためにも相談員の質の維持・向上に努めていく。

研修名	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2022	
開催日時	(1) 令和5年5月31日(水) (2) 令和5年9月8日(金) (3) 令和6年1月24日(水)	時間 10:00～16:30
受講者数	(1) 33名(会員:27名、非会員:6名) (2) 25名(会員:24名、非会員:1名) (3) 40名(会員:38名、非会員:2名)	定員 各50名
ねらい	効率的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育及び終了環境について理解し、自施設における看護補助体制整備の一助とする。	
講師	日本看護協会	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護補助者との協働の業務実施体制の整備 ・看護職への教育体制の整備 ・看護補助者の労働環境の整備及び確保等 ・看護補助者の育成・研修・評価 	講義・演習

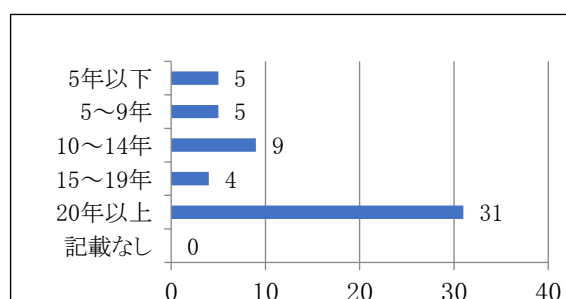
研修名	2災害支援ナース養成研修【演習1日目:災害時の看護活動の実際】	
開催日時	令和6年2月6日(火) 9:30～ 16:30	定員25名
受講者数	54名(会員47名 非会員:7名)	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の看護職の活動の実際を想定することができる ・災害時に看護職として活動する際の基本的な心構えがわかる ・災害時の看護職の活動の展開と、展開にあたっての留意事項がわかる 	
講師	高知県健康政策部 保健政策課 災害医療対策室長 安部満裕 高知県立大学 看護学部 教授 竹崎久美子 高知赤十字病院 救急看護認定看護師 日本DMAT隊員 寺尾 浩	
内容	災害支援活動	講義・GW

1.アンケート結果 出席者: 54名 アンケート回収:54名 アンケート回収率:100%

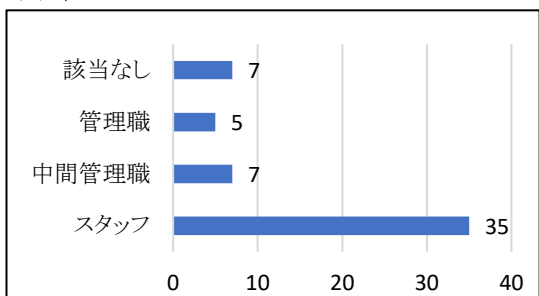
1)職名



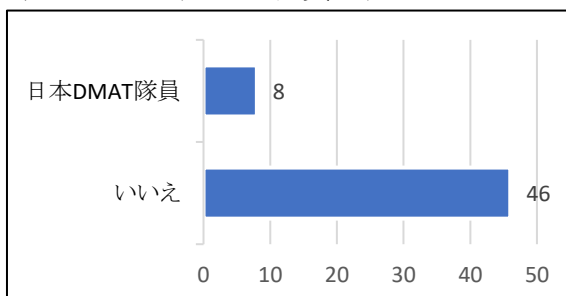
2)経験年数



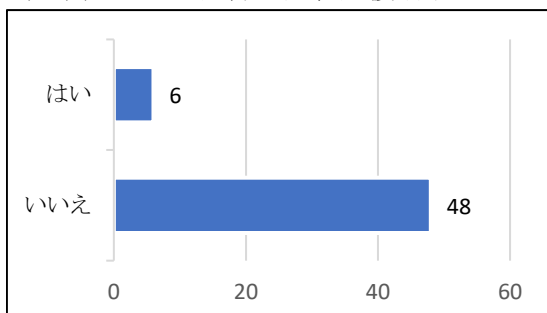
3)職位



4)あなたは日本DMAT隊員ですか



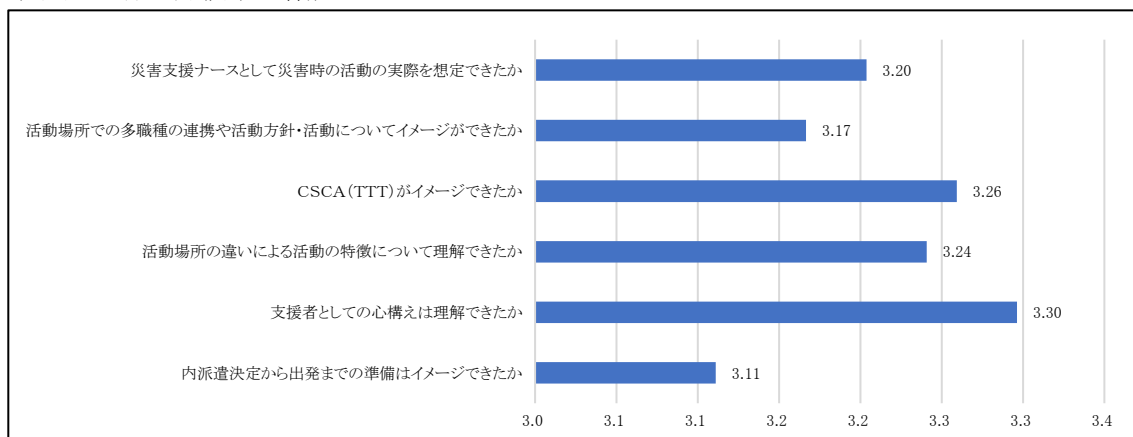
4)-(1)あなたは実際に災害支援活動に参加した経験がありますか



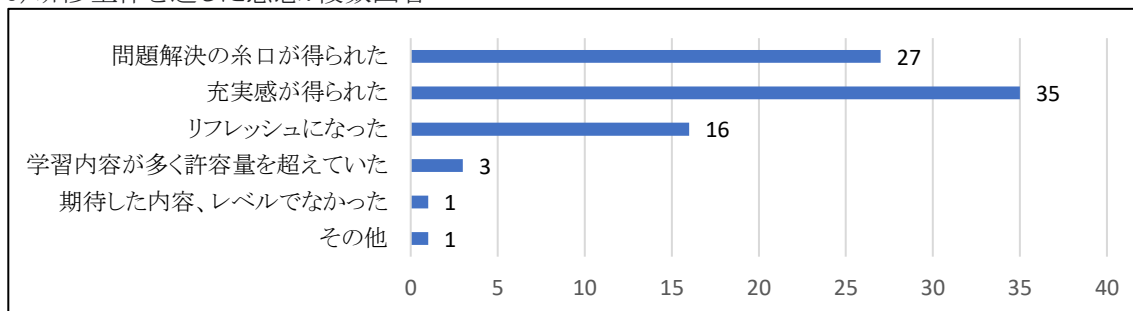
◆はいの方は活動場所を記載してください

- ・能登町保健医療福祉調整本部
- ・東日本、熊本
- ・福島県
- ・避難所
- ・沖縄県コロナ支援
- ・熊本県

5) 研修内容の評価(4段階)



6) 研修全体を通した感想:複数回答



2. 意見・感想(抜粋)

- ・グループでの活動があり、実際に被災地に行った方の話も聞いて良かった。
- ・限られた短時間でのディスカッションであったが、事例を通して積極的なコミュニケーションを主体的にとっていくことは、実際の支援活動の際にも役立つ良い経験となった。
- ・具体的に考えることができ、みんなでいろんな意見を出し合うことで新たに知識も得られた。
- ・充実した意見交換ができた。
- ・実際に、災害現場に行っていないため、とても参考になった。
- ・被災地に入り、ニーズの確認を繰り返し行う必要を考えさせられた。
- ・実際の経験はないが、常日頃から訓練していなければ、ならないと考える。
- ・災害時派遣になる時から、活動終了までの流れや考える視点を等を学べる事が出来た。
- ・災害支援ナースとしての心構えやその実際を学べて、とても参考になった。
- ・グループワークは様々な方の意見が聞け、勉強になった。
- ・演習を混ぜての講義で、分かりやすかった。
- ・災害時派遣になる時から、活動終了までの流れや考える視点を等を学べる事が出来良かった。
- ・あくまで被災者のためを考え、できる事、できない事を考え、行動する必要性を強く学んだ。支援が押し付けにならないようにすることは難しいと思うが今後も学びを深めたい。

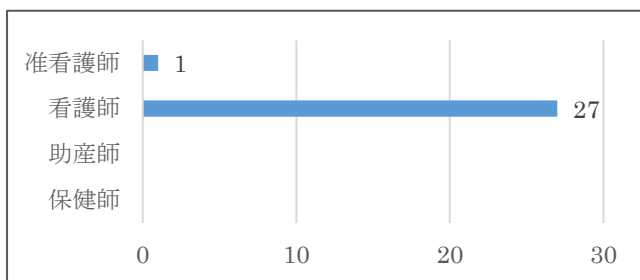
研修名	2023年度 JNA 収録 DVD 研修「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」	
開催日時	(1)令和5年7月26日(水)～7月27日(木) (2)令和5年11月9日(木)～11月10日(金)	時間 9:30～16:30
受講者数	(1)65名(会員:50名、非会員:15名) (2)50名(会員:39名、非会員:11名)	定員 各50名
ねらい	認知症高齢者における国の施策や医療の現状を理解する 入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を学ぶことができる	
講師	日本看護協会 演習支援者:高知赤十字病院 認知症看護認定看護師 堀内 啓民	
内容	認知症高齢者に関する医療の現状と国の取り組み 認知症に関連する疾患と病態・治療 組織で取り組む認知症高齢者ケア 認知症高齢者の看護に必要なアセスメント 認知症高齢者の看護に必要なコミュニケーションと援助技術 認知症高齢者ケアにおける多職種・看看連携のあり方 認知症高齢者に適した療養環境と調整方法 認知症高齢者に特有な倫理的課題 認知症高齢者の意思決定支援	講義・演習

研修名	4. 2023年度日本看護協会主催オンデマンド医療安全管理者養成研修 (演習)	
開催日時	オンデマンド配信研修 35 時間 集合演習 5 時間 令和5年 10 月13日(金)	時間:9:30~16:00
受講者数	42名 (会員31名 ・非会員11名)	定員: 40 名
ねらい	医療の質の向上と安全確保を目的とした、医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。 演習を通して実践方法がわかる。	
講師	講師:高知大学医学部附属病院 坂本 美和 演習支援者:高知赤十字病院 小松 ゆり 高知赤十字病院 伊勢田 純子	
内容(キーワード)	医療安全	講義・演習

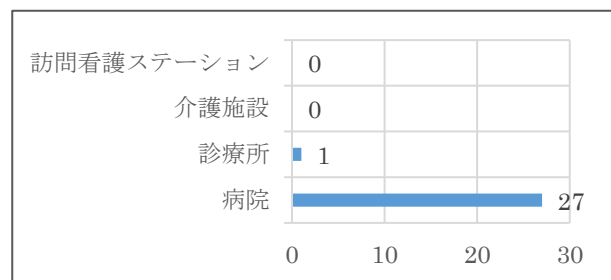
研修名	5. 外来における在宅療養支援能力向上のための研修	
開催日時	令和5年10月16日～令和6年月13日（e-ラーニング200分） 令和6年1月20日（土）時間13:30～16:00（演習）	
受講者数	38名（会員32名・非会員6名）内修了者36名	定員20名
ねらい	外来看護を取り巻く現状と課題のもと、地域における自施設の外来が果たす役割と、自らが外来で担うべき役割を認識するとともに、外来患者を支えるために必要な在宅療養支援に関する知識を習得できる。 習得した知識を在宅療養支援の強化に向けた取り組みに役立てる事が出来る	
講師	日本看護協会 常任理事 吉川久美子 他4名 演習講師 高知県立大学看護学部 特任教授 森下安子 ファシリテーター 地域包括ケア検討委員7名	
内容(キーワード)	外来看護 在宅療養支援 連携	

1. アンケート結果 回答数 28名 回収率 77.7%

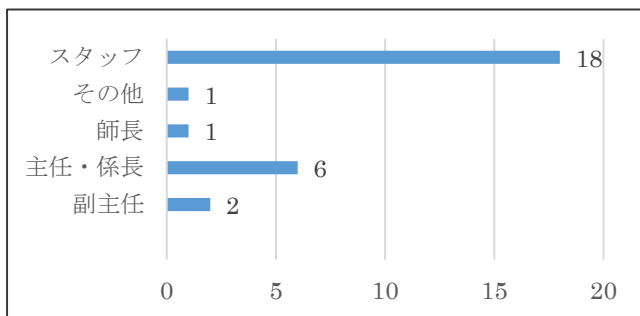
1) 職種



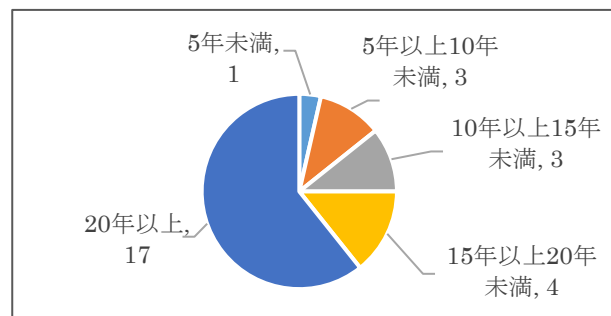
2) 所属施設



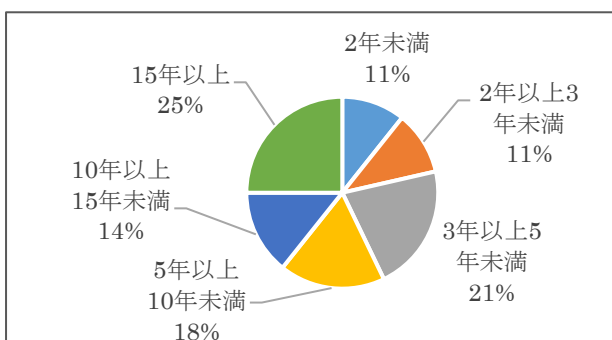
3) 職位



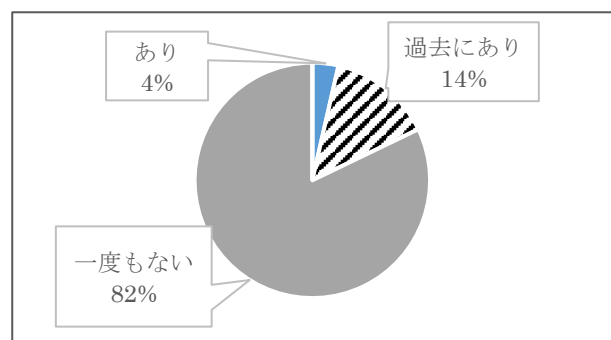
4) 臨床経験年数



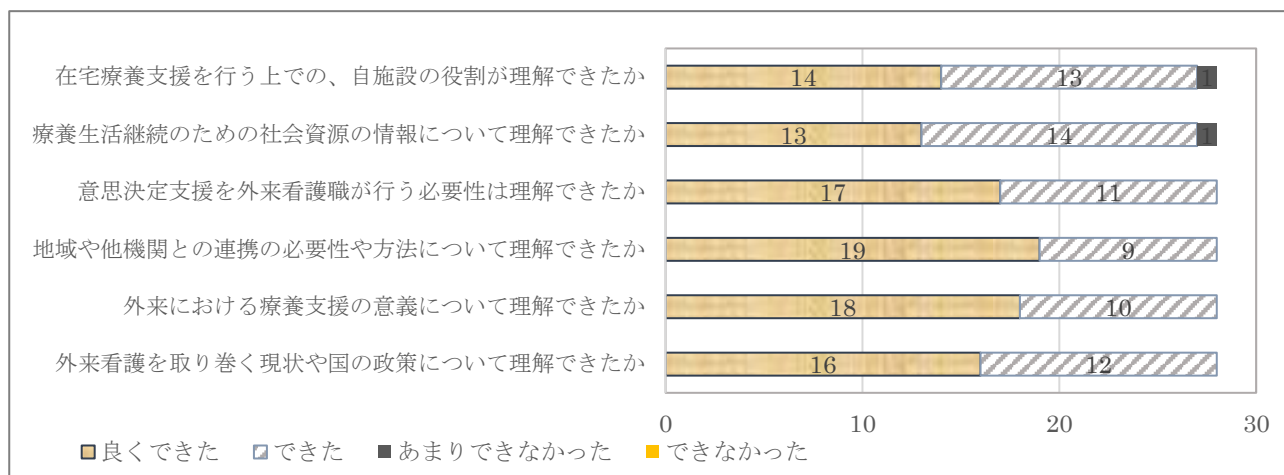
5) 外来経験年数



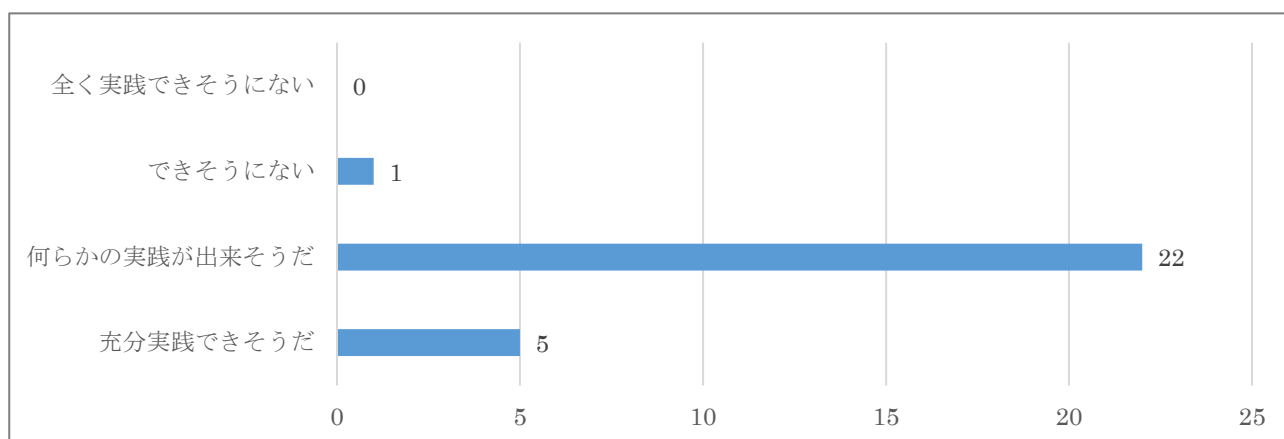
6) 過去1年間の外来看護の研修受講の有無



7) 研修内容の理解



8) 研修受講後の在宅療養支援の実践について



9) 今後実践しようと考えている内容について記載して下さい

- ・病棟から外来への連携、病棟との連携の強化(5)
- ・入院中からの関わり。
- ・外来受診時に退院後に困っていること等聞き取り、多職種と連携を図る。
- ・退院時カンファレンスに積極的に参加していきたい。現在も実践することになっているが、現実的に参加できていないこともある。病棟カンファレンスへ、参加できる体制にしたいと考えている。
- ・外来看護師も含めた退院前カンファレンスへの参加(7)
- ・退院カンファへの参加は難しいが、要注意・要支援患者の情報が共通シートでできるといいと思った。院内パスがあるといい。
- ・在宅療養支援が必要な患者を地域連携室に情報提供する。
- ・外来で療養支援ができるように患者家族に寄り添う。
- ・システム作りの強化が必要。
- ・継続看護の強化。
- ・ケアマネや訪看などと連携して外来窓口になれるようにシステムを構築し、地域で切れ目ない在宅療養支援ができるよう院内、地域の多職種との連携を積極的に行っていきたい。
- ・外来通院患者の服薬状況や家庭環境などを、体調の良い時から把握して記録に残しておく。

- ・かかりつけ病院や訪問看護ステーション、ケアマネージャーとの情報共有。
- ・退院前カンファレンスに参加し、退院後初受診時に介入し他職種へフィードバックする。
- ・意思決定支援
- ・スタッフに伝達講習する。

10) 演習に関するご意見・感想を記載して下さい

- ・グループディスカッションは、勉強になった。
- ・他施設の方の意見を聞いて良かった。
- ・今回の学びをこれからの業務にいかしていきたい。
- ・参加した皆さんの意見を聞くことで、それぞれに違った課題があり苦労している点も理解できた。それと同時に、大変さを共有し理解しあえる仲間がいることをうれしく感じた。有意義な時間を共有することができ感謝している。
- ・普段連携している施設のやり方や方針等情報共有が出来て勉強になった。
- ・他病院の方とのグループワークに参加した事で、今後外来看護師としてどのように支援していかなければいけないか学ぶ機会になった。
- ・いろいろな意見・考え・現場の実際など、学習になることばかりで面白かった。
- ・様々な医療機関から看護師が集まったので、自施設以外ではどのような取り組みがされているか、もっと聴いてみたかった。
- ・楽しかった。
- ・グループワークの時間がもう少し欲しかった。
- ・在宅療養を支援するために外来看護師の役割が大きくなったと感じた。コロナ感染から面会機会も減り、退院後の患者と家族の思いの違いがあることや、地域を巻き込んだ支援等、多様な意見や提案を学ぶ良い機会となった。
- ・他施設の方々と意見交換する機会が得られて有意義であった。
- ・他施設の方と情報共有出来る機会があり他施設の事も知れてよかった。
- ・演習の中でいろいろな意見を聞くことができたのはもちろん、他施設での取り組みや外来および在宅医療の現状などの話が聞けたことはとても良かった。
- ・地域や病院によって、支援の内容の格差を感じたが、患者さんにその格差が少しでも小さくなるように、それぞれの施設で努力していく事は出来ると感じた。グループワークは最後まで楽しく参加出来た。
- ・外来での療養支援について、他の施設の方との意見交換を行うことで課題を再認識できた。今後の療養支援に活かしていきたい。
- ・外来看護師として在宅支援に関われることが沢山あることに気付かされた。組織として取り組まなくてはならない事はすぐには実現できないかもしれないが、日々の業務の中で出来ることも沢山あり、少しずつでも実践して行きたい。
- ・とても、意義のある研修だった。もっとこうした研修を開催してほしい。
- ・当部署の主任が外来看護について現在研究しているので、高知県の実情は知ってたが、最新の情報を知ることができ良かった。
- ・色々な施設の方と話ができて、大変刺激になった。またこのような機会があれば参加させていただきたい。
- ・他病院の看護師と情報交換でき良かった。(2)

- ・いろいろな病院での活動内容や、システムを聞くことができ、良い刺激になった。
- ・他施設の取り組みを知ることで、自施設の課題が、より客観視出来た。
- ・事例が日常の業務とかなり違うので難しかった。
- ・e-ラーニングの受講方法を簡単にしてほしい。
- ・ファシリテーターの声が小さく、真ん中にいたほうが声が聞きやすかったと思う。
聞こえづらく、困った。集合研修だったのに残念だった。

2. ファシリテーターによる演習振り返り

ディスカッションの活発化について、導入の工夫が必要。

次年度は、アイスブレイキングを15分とり、事例検討に入る。

3. 担当者のコメント

病院勤務者が27名と多く、臨床経験年数は15年以上が21名で半数以上を占めたが、外来経験年数は、2年未満から15年以上までとばらつきがあった。

過去1年の外来看護に関する研修の受講の有無は、過去も含め有り18%、一度も無いが82%であった。外来勤務者の背景等から学ぶ機会が少ないと想定される。今回の学習方法は、受講者は全プログラムを期日通りに進めることができ、最終演習で、学びをより深める事が出来、効果的であったといえる。

また、全プログラム終了後28名中、27名が療養支援の実践ができそうと答えている。自由記載の内容からも、外来看護職に求められる役割の理解と、これからの在宅療養支援の実践への動機付けに効果があった。

こうち看護協会訪問看護ステーション事業

I 令和5年度訪問看護ステーションの目標及び結果

1. 質の高い訪問看護の提供

1) 定期的な事例検討会と勉強会の実施

・事例検討会は毎月実施、勉強会の開催は2回/年実施。ほぼ計画どおりに実施した。

2) 事業所の組織評価

・日本訪問看護事業財団の組織の自己評価指標を使用して評価を実施(令和6年3月)

3) 利用者満足度調査の実施

(1) 令和6年2月19日～3月8日にかけて利用者満足度調査を実施した。

(2) 結果

① 対象者 41 名、回答者 40 名(回答率 97.6%、医療保険 26 名、介護保険 14 名)

② 訪問看護に対して 14 項目の満足度調査の結果、ほとんどが、「そう思う、まあそう思う」と回答し、「あまりそう思わない」は医療保険で 1 名あり、その内容はサービスの利用手続きが簡単ではなかったという回答であった。

③ ご意見や要望についてはすべて感謝の言葉であった。今後、引き続き利用者のニーズに対応できるよう取り組む。

4) 外部研修会等への参加によるキャリアアップ

1) 看護師 8 名がのべ 27 研修等に参加、学びを共有し質の向上に努めた。

2. 人材育成

1) 訪問看護実習・研修生受け入れは、56 人に対してのべ 210 日間受け入れた。

教育機関名	受入人数(名)	延べ日数(日)
高知病院附属看護学校	10	80
県立大学(大学院含む)	11	53
開成専門学校看護学科	4	12
高知学園短期大学看護学科	4	16
龍馬看護ふくし専門学校	4	20
穴吹通信課程	5	10
在宅ケア研修看護師	8	8
その他	10	11
	56	210

2) 管理者含む 3 名の看護師が看護師養成機関の講師依頼を受け、次世代育成及び訪問看護の普及に努めた。

3. ステーションの経営の安定化

2 ヶ月ごとに経営状況を把握し共有、訪問実績については目標達成に少し及ばなかったが利用者の確保等に職員全員が関わっている。

4. 高知県及び高知市からの委託事業

1) 高知県中山間地域等訪問看護サービス確保対策事業 2 名

2) 重症心身障害児(者)等レスパイト事業 4 名

3) 高知市医療的ケア児通園支援事業 4名

5. 訪問看護ステーション運営委員会を2回/年実施した。(令和5年11月、令和6年3月)

II 組織体制

1. 職員数:管理者1名、看護師7名(常勤5名、非常勤2名 実質6.3名)、事務職員1名

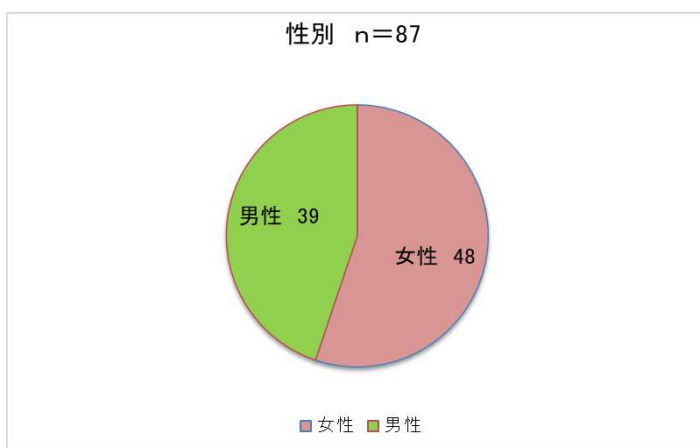
III. 訪問実績

1. 利用者数(医療的ケア児4名含む)

1) 令和5年度の1年間の利用者数は87名(昨年度91名)で昨年度より4名減少した。

2) 性別では、女性48名、男性39名と女性が過半数を占めた。

内訳は、医療保険利用者では58名のうち、男性29名、女性29名であり、介護保険利用者では29名のうち、男性19名、女性10名であった。

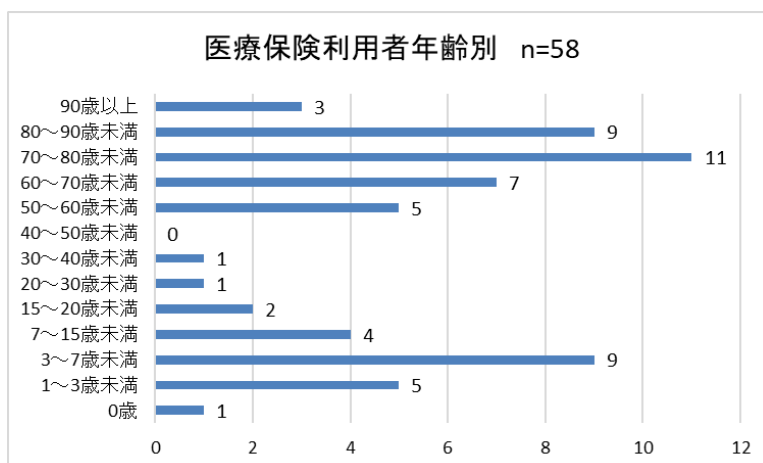


医療保険利用者	男性	29名
	女性	29名
介護保険利用者	男性	19名
	女性	10名

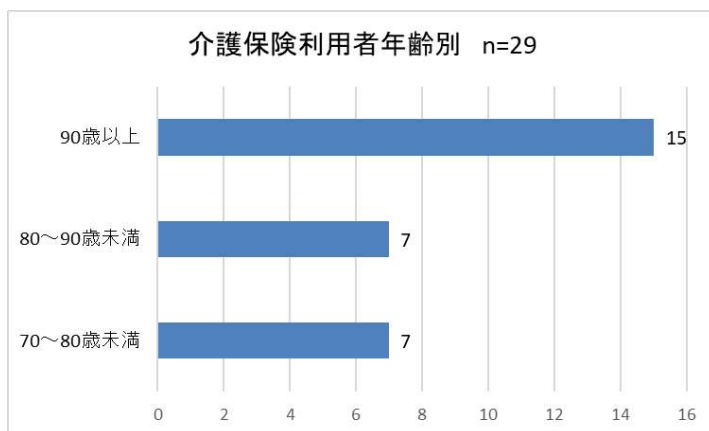
2. 保険別利用者数

1) 医療保険利用者は58名(医療的ケア児4名含む)で利用者全体の66.7%、うち小児が19名で医療保険利用者のうち32.8%、利用者全体では21.8%を占めている。58名のうち、成人では、60歳以上が30名で医療保険利用者のうち51.7%、利用者全体では34.5%であった。

医療保険利用者の平均年齢は50.5歳であった。



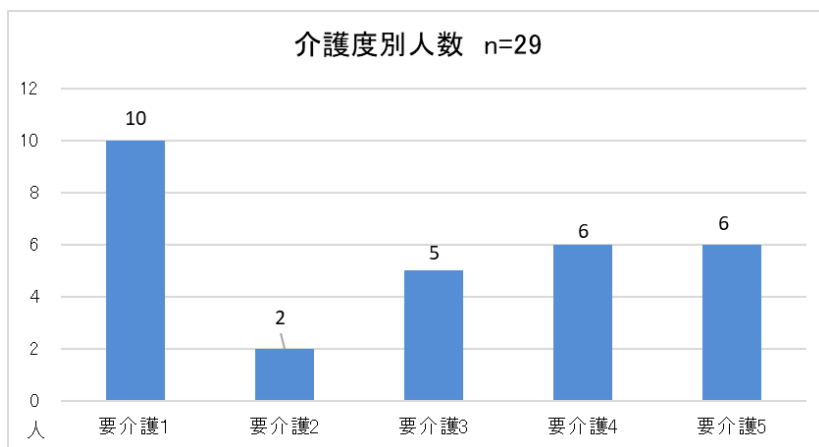
2) 介護保険利用者は 29 名で利用者全体の 33.7%で昨年度よりやや減少した。介護保険利用者のうち、80 歳以上が 75.9%、90 歳以上が 24.1%であり、平均年齢は 89.1 歳で昨年より 3 歳程度高くなった。介護保険利用者の平均年齢は 89.1 歳であった。



3. 介護度別利用者数

1) 男性 10 名、女性が 19 名で女性が多い。

2) 介護度別では、要介護1が最も多く、次いで要介護4及び5、要介護3、要介護2が最も少なかった。



4. 訪問件数

1) 総訪問件数は 4938 件で、昨年度 5007 件に比し 69 件減少した。

① 介護保険利用件数は 1275 件で総件数の 25.8%、昨年度 1210 件とほぼ同じであった。

② 医療保険利用件数は 2676 件で全体の 54.2 %、昨年度に比し 281 件減少した。そのうち成人が 1711 件、小児が 965 件であった。成人・小児ともに減少した。

③ 高知市医療的ケア児通園支援事業として医療的ケア児の訪問件数は 933 件と増加している。

④ 医療保険利用件数と医療的ケア児の件数を合わせて 3609 件となり、総件数の 73.1%を占めている。

介護保険	医療保険	医療的ケア児	オプション	合計
1275 件 (25.8%)	2676 件 (54.2%) 成人: 1711 件 小児: 965 件	933 件 (18.9%)	54 件 (1.1%)	4938 件

2) 1か月の平均訪問件数は412件(昨年度417件)、看護師一人当たりの月平均訪問回数は、56,1件(昨年度53,8件)であり、前年度とほぼ同様であった。

5. 新規依頼と継続者の内訳(カッコ内は前年度数)

総数がやや減少し、継続者は微増、新規依頼者が10件減少している。

総数	継続	新規
87名(91)	54名(48)	33名(43)
		医療28名・介護5名

6. 終了者の状況

1) 終了者は全体で43名(昨年度45名)であり、昨年度とほぼ同じであった。

2) 内訳は、死亡24名(昨年度34名)、入院及び施設入所10名、状態改善5名、その他4名であった。

3) 死亡24名のうち、在宅看取りは15名(昨年度25名)、医療機関での死亡は9名(昨年度9名)であった。

IV まとめ

1. 令和5年度は、利用者数が若干名減少したが、看護師一人当たりの月平均訪問件数は56件と昨年とほぼ同じであり、最低でも60件以上を目指していく必要がある。

2. がんターミナルの看取り件数はやや減少、また、小児訪問看護件数も軽快により終了した児が複数名いたため減少、令和元年度に新規に開始された「高知市医療的ケア児通園支援事業」としての訪問が増加し月78件程度となっている。医療的ケア児への訪問看護は、小児の就学を支援するために必要なサポートであり、当協会のステーションの役割を果たす上からも、今後もニーズがある限り対応し、訪問看護の質の向上、関係機関との連携を強化し、在宅療養者の支援を強化していく。

3. 当ステーションとして在宅看取りにも力をいれており、今後、在宅看取り件数が増加するよう、引き続き職員全員で看取りができる体制を強化していく。

4. 小児の拠点ステーションとして、訪問看護ステーション看護師の教育支援を行い、看護師全員が小児の訪問看護に対応できるよう支援を継続する。

5. 介護保険の利用者は平均年齢89歳と高齢であり、介護度が低い利用者であっても状態の変化が起きやすいため、引き続き、現在の介護度が維持できるレベルの体調の自己管理・生活機能の維持に努める。

6. 地域の医療機関との連携については、コロナ禍の影響もあり看護師の出向はなかったが、今後も関係機関との連携を推進し機能強化型の申請要件について検討していく。

7. 研修生及び実習生の受け入れについては、コロナ禍という状況であったが、ほぼ予定どおり受け入れるができた。今後も、在宅看護の普及と、在宅看護に関わる人材育成に努める。

8. 訪問看護の役割は、重症化を早期発見、予防し、利用者の尊厳を保ち、最後まで住み慣れた場所で過ごすことができるよう支援していくことが重要であり、その視点を持って人材育成を行いケアの質を高めていく。

日本看護協会 看護補助者キャンペーンウィーク事業

研修名	看護補助者キャンペーンウィーク事業 「看護補助者の仕事説明会」	
開催日時	令和5年8月 23 日(水曜日)	時間 13:30 ~ 16:00
参加者	なし	
ねらい	看護補助者の仕事内容を知り、職業のひとつとして考える機会とする。	
(キーワード)	看護補助者 仕事内容	説明会

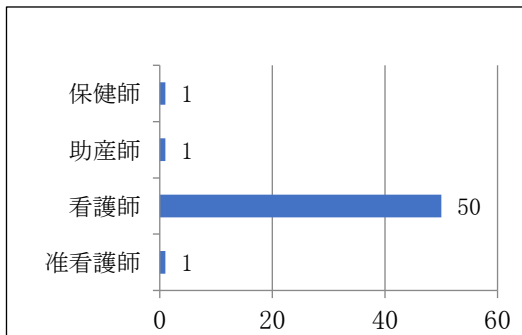
事業実施スケジュール

	6月	7月	8月
事業実施内容	ハローワークと連携し、キャンペーンウィークのチラシを設置し、看護補助者の仕事に関心がある求職者を見出す。 ファーストレベル研修生に看護補助者の確保・定着のリーフレットを配布するとともにキャンペーンウィークの広報を行った。	県協会広報紙「看護こうち」にてキャンペーンウィークの広報を実施。 看護管理者に看護補助者の確保・定着のリーフレットを郵送し、キャンペーンウィークの広報を行った。	8/21(月)～25日(金)看護補助者キャンペーンウィーク求職者への看護補助者イベントの実施 8/23(水)に看護補助者という職業について紹介し、その業務内容や仕事のやりがいなどを伝え、意見交換することで看護補助者としての就業につなげる。希望があれば、医療機関等での体験ができるよう調整する。 参加者なしのため実施せず。

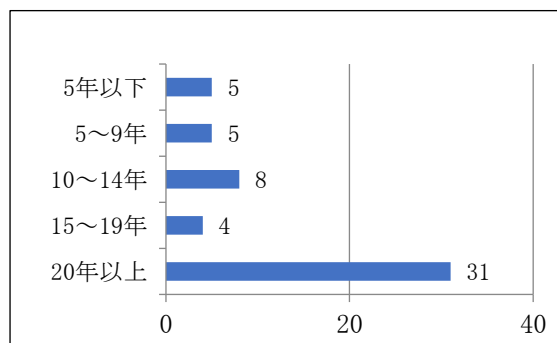
研修名	2災害支援ナース養成研修【演習2日目:新型コロナなど新興感染症患者の看護】	
開催日時	令和6年2月8日(木) 9:30～ 15:30	定員25名
受講者数	53名(会員46名 非会員:7名)	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナなど新興感染症に関する基本的知識を習得する ・新型コロナなど新興感染症者に対応できる知識・技術を取得する ・新型コロナなど新興感染症患者の看護に関する基本知識を習得する 	
講師	高知大学医学部附属病院医療育成支援センター看護教育部門 認定看護師教育課程(感染管理分野)専任教員 西川美千代 高知赤十字病院 急性・重症患者看護専門看護師 大崎 杏奈 高知赤十字病院 集中ケア認定看護師 高橋 知左	
内容	新興感染症の看護	講義・GW

1,アンケート結果 出席者: 53名 アンケート回収:53名 アンケート回収率:100 %

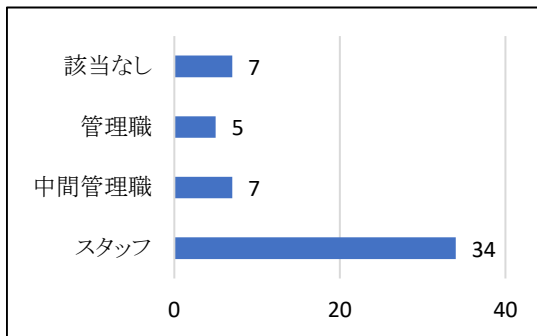
1) 職名



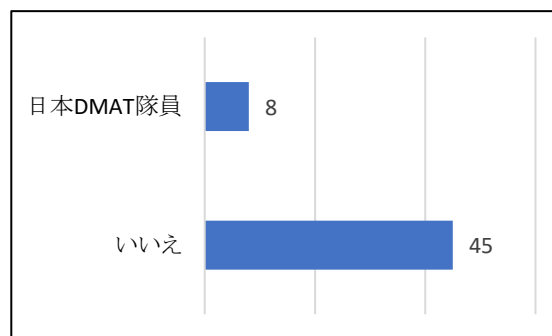
2) 経験年数



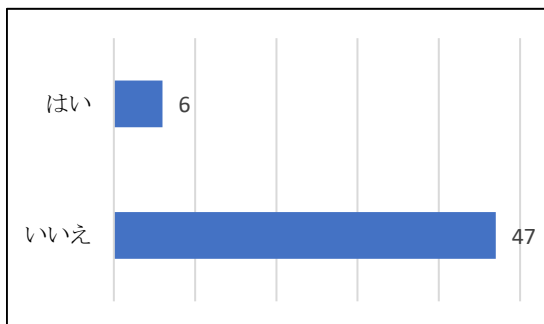
3) 職位



4) あなたは日本DMAT隊員ですか



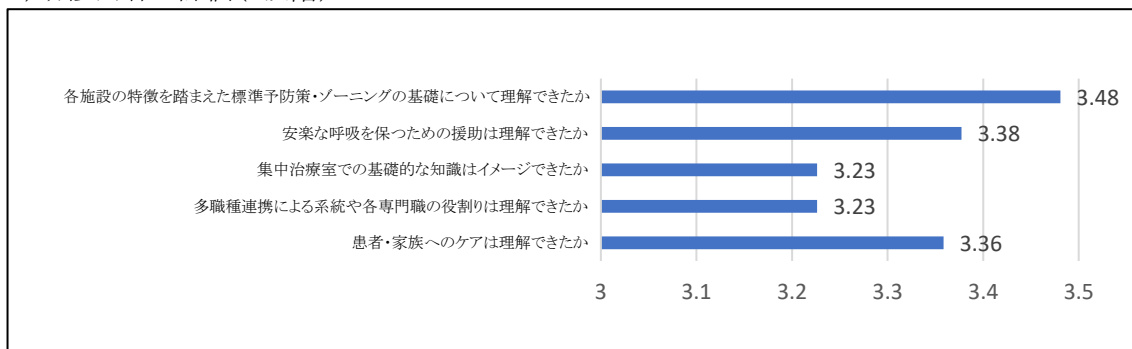
4)-(1) あなたは実際に災害支援活動に参加した経験がありますか



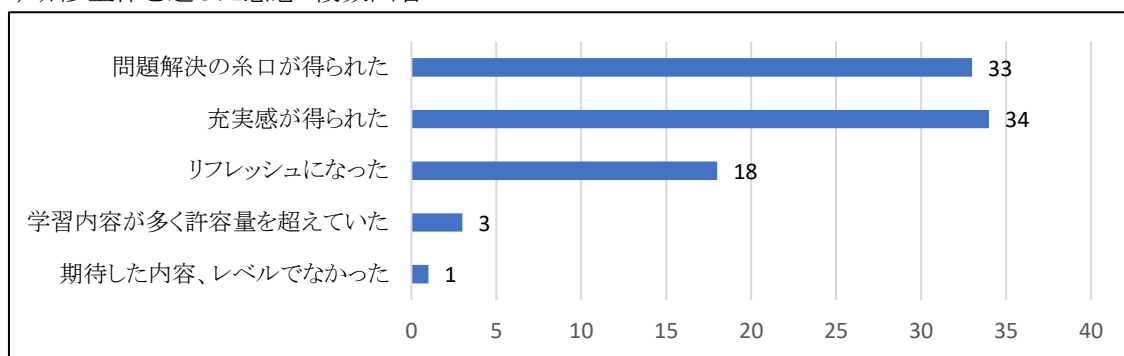
◆はいの方は活動場所を記載してください。

- ・病院
- ・病院、避難所
- ・避難所
- ・宿泊療養施設

5) 研修内容の評価(4段階)



6) 研修全体を通じた感想:複数回答



2. 意見・感想

- ・新型コロナウイルスの看護の基礎知識を学ぶことができ、自施設にも生かしたい。グループワークも学びが多かった。
- ・ゾーニングについて理解を深める事ができた
- ・とても分かりやすく、イメージしやすかった。
- ・他の医療施設の意見を聞くことができ、大変勉強になった。
- ・経験しないと、紙上では理解出来ない事もある。
- ・人工呼吸器を自分の勤務する所ではほとんど使用することもなかったが、伏臥位など様々な体位も学べてよかった。勤務地にもこの学習したことを持って帰り実践していきたい。
- ・自分があまり経験のない内容を学ぶ事ができて、大変参考になりました。自己研鑽を欠かさず必要とされるときに協力できるようにしていきたい。

3. 研修担当者コメント

本研修は令和6年度の改正医療法に基づき、厚生労働省から日本看護協会が委託を受け、新興感染症及び災害発生時に、他の医療機関への応援派遣等に的確に対応できる看護職員(保健師、助産師、看護師及び准看護師)を養成を目的としている。20時間のオンデマンド聴講修了者に集合研修を2日間開催した。定員25名に対し57名が受講し、研修修了者は53名であった。オンデマンド研修と演習により、知識の定着と災害時・感染症における災害支援ナースとしての役割や実際の活動がイメージできたと考える。

1. プログラム

開催日時	2023年12月2日（土）	参加者数
第1部 13:00～14:30	パブリックビューイング 【講演】「都道府県、市町村、へき地等で活躍する自治体保健師 それぞれの魅力」 【座談会】自治体保健師を目指したきっかけ、印象深かったエピソード、メッセージなど	看護学生15名
第2部 14:30～16:00	自治体保健師との相談会 1)「自治体のお仕事相談ブース」 2)「自治体保健師との相談会」	看護学生14名 (10名) (4名)

2. 「自治体のお仕事相談ブース」参加自治体一覧

所属	部署	役職	参加者数
馬路村役場	健康福祉課	保健師	1名
馬路村役場	総務課	主事	1名
高知県健康政策部	健康政策課	主幹 保健師	1名

3. 「なんでも相談ブース」参加保健師一覧

所属	部署	役職	参加者数
日高村役場	健康福祉課	課長補佐兼係長	1名
香美市福祉事務所	社会福祉班	技監	1名

4. 担当者からのコメント

パブリックビューイングでは、都道府県・市町村・へき地など様々な場所で活躍する経験値の異なる自治体保健師の活動や魅力について聴講し、その役割や魅力が十分伝わったのではないかと思います。また、相談ブースの参加者からは、保健師から直接話が聞け、保健師に対する理解が深まったという声が聞かれた。

今回のイベントは参加者が少なかったが、今後の保健師の人材確保へつながるイベントであったと考える。